

第二項ノ規定ニ依リ謄本ノ照合及更正ヲ出願スル者ハ左ノ手数料ヲ納付スヘシ但シ更正手数料ハ地方廳ヨリ更正筆數ノ通知ヲ受ケタル後直ニ納付スヘキモノトス

一 土地謄帳又ハ地圖ノ一街庄ニ付謄本ノ照合 各金五十錢  
 一 土地謄帳謄本ノ更正 一地番ニ付金二錢  
 一 地圖謄本ノ更正 一地番ニ付金三錢

第六條ノ三 前二條ノ手数料ハ收入印紙ヲ以テ納付スヘシ但シ其ノ金額二百圓以上ナルトキハ現金ヲ以テ納付スルコトヲ得

前項但書ニ依ル場合及更正手数料ヲ收入印紙ヲ以テ納付スルトキハ第一號書式ノ納付書ヲ差出スヘシ

第二項ノ收入印紙ハ更正手数料ニ在リテハ納付書ニ其ノ他ハ當該願書ニ納人ニ於テ貼附スルモノトス

第六條ノ四 國庫及地方費區ニ屬スル土地ニ對シ政府ヨリ土地謄帳及地圖ノ閱覽謄本謄本ノ照合及更正ヲ請求スルトキハ手数料ノ納付ヲ要セス

第六條ノ五 土地謄帳又ハ地圖ノ謄本ハ郵送ヲ請求スルコトヲ得此ノ場合ニ於テハ相當郵便切手ヲ謄本ニ關スル願書ニ添附シ願書ノ餘白ニ郵送料切手何程添附ト記載スヘシ

書式中第一號書式ヲ第一號書式ノ一二改メ

第一號書式ノ二

土地謄帳(地圖)謄本照合及更正願

左記ノ通相願候也

明治何年何月何日

廳長宛

何處何庄何番戶

何

某印

第一號書式ノ三

追テ更正手数料ハ御通知次第納付可致候

土地謄帳(地圖)謄本下付(何々)手数料納付書

坐落	土地謄帳謄本通數	地圖謄本枚數	請	要
何處何庄				
計				

土地謄帳謄本(何々)	地圖謄本(何々)	金額計	出願	請	要
坐落 筆數 金額	坐落 筆數 金額		月 日		
何處何庄	何處何庄				
外何庄	外何庄				

右納付候也

明治何年何月何日

廳長宛

何處何庄何番戶

何

某印

備考

一出願月日關ニハ第六條及第六條ノ二ニ依ル出願月日ヲ記入スヘシ

(參照)

臺灣總督府令第八十八號臺灣地租規則施行規則(明治三十七年十一月二十九日)抄錄

第六條第三項及第四項 國庫及地方費區ニ屬スル土地ニ對シ官衙ヨリ閱覽又ハ謄本ヲ請求スル場合ハ手数料ノ納付ヲ要セス謄本ノ郵送ヲ請求スル者ハ之ニ相當スル郵便切手ヲ願書ニ添附スヘシ











○朝鮮總督府令第六十二號(官報六月二日)  
朝鮮人辯護士試驗規則左ノ通定ム

明治四十四年五月二十九日

朝鮮總督 伯爵寺內正毅

朝鮮人辯護士試驗規則

- 第一條 朝鮮人辯護士試驗ハ朝鮮人辯護士試驗委員之ヲ行フ
- 第二條 試驗ノ期日及場所ハ朝鮮總督之ヲ定メ朝鮮總督府官報ヲ以テ之ヲ公告ス
- 第三條 朝鮮人ニシテ試驗ヲ受ケムトスル者ハ滿二十歲以上ノ男子ニシテ法律專門ノ學校ニ於テ三學年以上法律學科ヲ修メタル者タルコトヲ要ス
- 第四條 辯護士規則第一條第二項ニ該當スル者ハ試驗ヲ受クルコトヲ得ス
- 第五條 試驗委員ハ十人以内トシ中一人ヲ委員長トス
- 第六條 委員長及委員ハ朝鮮總督府司法部高等官及朝鮮總督府判事、朝鮮總督府檢事ノ中ヨリ試驗委員附屬ノ書記ハ朝鮮總督府屬又ハ朝鮮總督府裁判所書記ノ中ヨリ試驗舉行毎ニ朝鮮總督之ヲ命ス
- 第七條 委員長ハ試驗ニ關スル一切ノ事務ヲ管理ス
- 第八條 試驗志願者ハ志願書ニ左ノ書面ヲ添ヘ之ヲ試驗委員長ニ差出スヘシ
  - 一 履歷書
  - 二 受驗資格ニ關スル證明書
- 第九條 試驗志願者ハ手数料トシテ金十圓ヲ納ムヘシ
  - 手数料ハ收入印紙ヲ用井之ヲ志願書ニ貼附スヘシ
  - 手数料ハ志願書ヲ取下ケ又ハ試驗ヲ受ケサルトキト雖之ヲ還付セス
- 第十條 試驗ハ筆記口述ノ二種トス



口述試験ハ筆記試験ニ合格シタル者ニ限り之ヲ行フ  
第十一條 筆記試験ハ民法商法刑法民事訴訟法刑事訴訟法行政法及國際法ノ各科目ニ就キ之ヲ行フ

口述試験ハ前項ノ科目中三科目以上ニ就キ之ヲ行フ  
第十二條 試験合格者ノ氏名ハ朝鮮總督府官報ヲ以テ之ヲ公告ス  
第十三條 試験合格者ニハ合格證書ヲ授與ス  
第十四條 委員長ハ試験ノ結果ヲ朝鮮總督ニ報告スヘシ

附則

本令ハ發布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

○朝鮮總督府令第六十三號(官報 六月五日)

朝鮮總督府監獄所屬ノ職員中委任待遇者ノ懲戒ニハ文官懲戒令中高等官ニ關スル規定ヲ準用ス

附則

本令ハ發布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

明治四十四年五月三十日

○朝鮮總督府令第六十四號(官報 六月五日)

朝鮮總督府臨時土地調查局員養成所規程左ノ通定

朝鮮總督 伯露寺內正毅  
朝鮮總督 伯露寺內正毅

朝鮮總督府臨時土地調查局員養成所規程  
第一條 臨時土地調查局ニ臨時土地調查局員養成所ヲ置キ臨時土地調查局總裁ノ管理ニ屬セシム  
第二條 養成所ニ事務員養成科及技術員養成科ヲ置ク  
第三條 養成所ニ左ノ職員ヲ置ク

主幹

講師 若干人  
事務員 若干人

第四條 主幹ハ臨時土地調查局副總裁ヲ以テ之ニ充テ臨時土地調查局總裁ノ命ヲ承ケ所務ヲ掌理ス

第五條 講師ハ臨時土地調查局職員中ヨリ臨時土地調查局總裁之ヲ命シ生徒ノ教育ニ從事セシム但シ臨時土地調查局總裁ニ於テ必要ト認ムルトキハ臨時土地調查局職員ニ非サル者ニ講師ヲ囑託スルコトヲ得

第六條 臨時土地調查局總裁ハ講師中ヨリ各科教務主任各一人ヲ命シ講習ニ關スル教務及事務ヲ掌ラシム

第七條 事務員ハ臨時土地調查局職員中ヨリ臨時土地調查局總裁之ヲ命シ庶務ニ從事セシム

第八條 養成所ノ修業期間ハ事務員養成科ニ在リテハ四月乃至八月、技術員養成科ニ在リテハ八月乃至一年トス

第九條 養成所ノ學科目課程及授業時數左ノ如シ

學科目	課程	授業時數
修身	(修身訓話、官吏服務心得)	一
國語	(講讀作文、會話)	二
算術	(四則比例)	四
法制	(土地ニ關スル制度慣習及法規ノ大要)	四
衛生	(衛生ノ大要)	一



技術員養成科  
實習 (徒手體操)  
(土地調査ノ實習)

一  
二〇

學科目 課 程

授業時數

- 修身 (修身訓話官吏服務心得) 一
- 國語 (講讀作文會話) 二
- 物理 (物理初步) 一
- 數學 (算術並代數平面幾何平面三角ノ大要) 一六
- 測量 (圖根測量法及細部測量法) 四
- 製圖 (原圖描畫ニ必要ナル製圖) 四
- 法規 (土地測量ニ關スル法規) 一
- 衛生 (衛生ノ大要) 一
- 體操 (徒手體操) 一
- 實習 (土地測量ニ關スル實習) 二

前項ノ學科目課程及授業時數ハ必要ト認ムルトキ之ヲ變更スルコトヲ得

第十條 休業日ハ臨時土地調査局ノ例ニ依ル

第十一條 養成所ニ入學ヲ許可スヘキ者ハ左ノ資格ヲ有スル朝鮮人ニシテ身體健全品行方正志望鞏固ナル者ニ限ル

事務員養成科

- 一 官立高等學校卒業程度ノ入學試験ニ合格シタル者
- 二 年齡滿二十歲以上二十七歲以下ノ者

技術員養成科

- 一 官立高等學校第二學年修業程度ノ入學試験ニ合格シタル者
- 二 年齡滿十八歲以上二十六歲以下ノ者

官立高等學校、官立外國語學校又ハ之ト同等以上ノ官公立學校ノ卒業證書ヲ有スル者ハ無試験ニテ入學セシムルコトヲ得

第十二條 養成所ニ於テ募集スル人員、修業期間及入學試験ノ期日、場所並學科目ハ其ノ都府臨時土地調査局總裁之ヲ定ム

第十三條 入學志望者ハ別紙様式ニ依リ請願書ニ履歴書ヲ添附シ臨時土地調査局總裁ニ差出スヘシ

第十四條 入學ヲ許可セラレタル者ハ別紙様式ニ依リ誓約書ヲ差出スヘシ

第十五條 全學科目ノ卒業ヲ認定スル爲平素ノ學業及隨時行フ處ノ試験ノ成績ヲ考査ス但シ總裁ニ於テ其ノ必要ナシト認ムルトキハ或學科目ノ試験ヲ行ハサルコトヲ得

第十六條 總裁ハ左ノ各號ノ一ニ該當スル者ニ對シ退學ヲ命スルコトヲ得

一 性行不良ナル者

二 疾病又ハ學力劣等ニシテ成業ノ見込ナシト認メタル者

三 正當ノ事由ナクシテ引續キ一月以上缺席シタル者又ハ出席常ナラサル者

第十七條 養成所ヲ卒業シタル者ハ臨時土地調査局ノ業務ニ従事スル義務ヲ負フモノトス

附則

第十八條 本令ハ六月一日ヨリ之ヲ施行ス

第十九條 本令施行ノ際官立漢城高等學校附設臨時土地調査事務員養成所及官立漢城外國語學校附設臨時土地調査技術員養成所ニ於テ養成中ノ者ハ之ヲ臨時土地調査局員養成所ニ編入ス



(別紙)  
第一號書式(用紙半紙全野紙)

請願書

私體賃養所ニ入學志願ニ付別紙履歷書相添此段及請願書也  
明治 年 月 日

朝鮮總督府臨時土地調查局總裁 殿

第二號書式(用紙半紙全野紙)

履歷書

年月日 事 項  
光武何年月日 某學校(入學何科)卒業ス  
隆熙何年月日 某學校何科卒業ス  
同何年月日 何會社何何ニ從事ス  
明治何年月日 何處何何ヲ命セラレ

本籍 何道何府何郡何里何村何戸  
現住所 何道何府何郡何里何村何戸  
職業 戶主(何某某兄弟等)  
何 年 某

何 某

其ノ他賞罰等  
右之通相違無之候也

明治 年 月 日

第三號書式(用紙半紙全野紙)

誓約書

右者今般御局員養成所(入學許可相成候ニ就テハ御規則命令ヲ遵守シ專心勤學可致ハ勿論修業中及修業後貴局ニ御採用ノ上ハ疾病其ノ他止マラ得サル場合ノ外決シテ自己ノ情願ヲ以テ退學又ハ辭職等願出申間數得本人身上ノ職ハ何事ニテモ保人ニ於テ引受ケ可申候仍テ保人連署誓約如件  
明治 年 月 日

本人 何 某

住所職業 本人 何 某

住所職業 保人 何 某

住所職業 保人 何 某

朝鮮總督府臨時土地調查局總裁 殿

○朝鮮總督府令第六十五號(官報 六月六日)  
朝鮮總督府旅費規則中左ノ通改正ス

明治四十四年六月一日

朝鮮總督 伯爵寺內正毅



第五條 但書中諸職工等ヲ常備ニ非サル職工其ノ他ノ傭人ニシテニ改ム  
 第十五條及第十六條中囑託員ヲ待遇官吏囑託員ニ改ム  
 第一號表中内地人ヲ内地人及朝鮮人タル道長官ニ改ム  
 第三號表中移轉料ノ欄ヲ削ル

附則

本令ハ發布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

〔參照〕

朝鮮總督府令第二十四號朝鮮總督府旅費規則(明治四十三年十一月十二日)抄錄  
 第五條 傭人内地又ハ朝鮮内旅行ノ場合ニ於テハ第三號表ニ依リ旅費ヲ支給ス但シ諸職工等其ノ業務ニ從事シ賃銀ヲ受ケル日ハ日當宿泊料及食卓料ヲ支給セス  
 第十五條 囑託員又ハ傭員朝鮮ニ於ケル勤続五年以上ニシテ官ノ都合ニ依リ解職ト爲リ三十日以内ニ朝鮮ヲ出發歸國スルトキハ第三條及第四條ノ例ニ準シ内地定額ニ依リ前職相當ノ旅費ヲ支給スルコトヲ得  
 第十六條 囑託員又ハ傭員在職中死亡シタルトキハ第三條第四條及第十二條ノ例ニ準シ旅費ニ相當スル金額ヲ遺族ニ支給スルコトヲ得

○朝鮮總督府令第六十六號(官報 六月七日)  
 引火質物貯藏所取締規則左ノ通定ム  
 明治四十四年六月二日

朝鮮總督 伯爵寺內正毅

引火質物貯藏所取締規則

第一條 本令ニ於テ引火質物トハ石油揮發油酒精燐寸煙火ヲ謂フ  
 第二條 引火質物ノ貯藏所ヲ建設セムトスル者ハ警務部長京城ニ在リテハ警務局長以下同シノ許可ヲ受クヘシ其ノ建設地貯藏スヘキ引火質物ノ種類若ハ其ノ最大數量ヲ變更シ又ハ貯藏所ノ改築増築若ハ大修繕ヲ爲サムトスルトキ亦同シ

第三條 前條ニ依リ許可ヲ受ケムトスル者ハ左ノ事項ヲ具シ構造仕樣書圖面並附近ノ見取圖ヲ添附シテ警務部長ニ願出ツヘシ

- 一 建設者ノ住所氏名年齢
- 二 建設地
- 三 貯藏スヘキ引火質物ノ種類及其ノ最大數量
- 四 四鄰ニ於ケル建物ノ種類並距離
- 五 工事落成ノ期日

第四條 貯藏所ノ建設改築増築又ハ大修繕工事落成シタルトキハ警務部長ニ届出テ其ノ検査ヲ受クヘシ

貯藏所ハ検査ニ合格スルニ非サレハ之ヲ使用スルコトヲ得ス

第五條 左ノ場合ニ於テハ五日以内ニ其ノ旨ヲ警務部長ニ届出ツヘシ但シ第四號ノ場合ニ於テハ戶主又ハ同居ノ家族ヨリ其ノ手續ヲ爲スヘシ

- 一 貯藏所ノ建設改築増築又ハ大修繕ノ工事ニ著手シタルトキ
- 二 建設者ノ住所氏名ニ變更アリタルトキ
- 三 貯藏ヲ休止又ハ廢止セムトスルトキ
- 四 建設者死亡シ又ハ所在不明トナリタルトキ

第六條 貯藏所ノ讓渡又ハ貸付ヲ爲サムトスルトキハ讓渡人讓受人又ハ貸付人借受人連署ノ上讓受人借受人ノ住所氏名年齢及貯藏スヘキ引火質物ノ種類最大數量ヲ記シ警務部長ニ願出テ其ノ許可ヲ受クヘシ

本令中建設者ニ關スル規定ハ讓受人又ハ借受人ニ之ヲ準用ス

第七條 警察官吏又ハ其ノ職務ヲ行フ官吏ハ何時ニテモ貯藏所ヲ検査スルコトヲ得



- 第八條 警務部長ハ左ノ各號ノ一ニ該當スル場合ニ於テハ貯藏所建設ノ許可ヲ取消スコトヲ得
- 一 危害豫防ノ爲必要アリト認ムルトキ
  - 二 貯藏所建設ノ許可ヲ受ケタル日ヨリ六十日以内ニ工事ニ著手セサルトキ
  - 三 建設工事正當ノ事由ナクテ願書ニ記載シタル期日ヨリ六十日ヲ経過スルモ仍落成セサルトキ
  - 四 正當ノ事由ナクシテ九十日以上貯藏所ノ使用ヲ休止又ハ廢止シタルトキ
  - 五 貯藏所燒失又ハ崩壊ノ場合ニ於テ燒失又ハ崩壊ノ日ヨリ九十日以内ニ改築ヲ願出テサルトキ
- 第九條 警務部長ハ危害豫防ノ爲必要アリト認ムルトキハ建設者ニ對シ貯藏所ニ相當ノ設備ヲ爲サシメ又ハ其ノ使用ヲ停止スルコトヲ得
- 第十條 貯藏所ニハ其ノ名稱及建設者ノ住所氏名ヲ明記シタル看板ヲ掲クヘシ
- 第十一條 貯藏所及其ノ近傍ニ於テハ裸火ヲ使用シ又ハ喫煙スルコトヲ得ス
- 第十二條 貯藏所ニ於ケル引火物ノ取扱ハ日出ヨリ日没迄ヲ限リ之ヲ爲スコトヲ得但シ警察署警察分署警察官ノ指導ヲ受テ許可ヲ得タルトキハ此ノ限ニ在ラス
- 第十三條 建設者其ノ代理人家族戸主同居者雇人其他ノ従事者ハ左ノ場合ニ於テハ一月以下ノ禁錮若ハ拘留又ハ五十圓以下ノ罰金若ハ科料ニ處ス
- 一 第二條第四條第二項第五條第六條第一項第十條乃至第十二條ニ違反シタルトキ
  - 二 第七條ノ検査ヲ拒ミタルトキ
  - 三 許可ノ取消ニ違反シタルトキ
- 第九條ノ命令ニ違反シタルトキ

第十四條 建設者ハ其ノ代理人戸主家族同居者雇人其ノ他ノ従業者ニシテ本令又ハ本令ニ基キテ發スル命令ニ違反シタルトキハ自己ノ指揮ニ出テサルノ故ヲ以テ處罰ヲ免ルルコトヲ得ス

附則

第十五條 本令ハ明治四十四年六月十日ヨリ之ヲ施行ス

第十六條 現ニ貯藏所ヲ有スル者ハ本令施行ノ日ヨリ五十日以内ニ本令第一條ノ手續ヲ爲スヘシ

○朝鮮總督府令第六十七號(宣稱六月十二日)

漁業令施行規則左ノ通定ス

明治四十四年六月三日

朝鮮總督 伯爵寺內正毅

漁業令施行規則

第一章 總則

第一條 本令ニ於テ免許漁業ト稱スルハ漁業令第二條乃至第四條ニ依リ免許ヲ受クヘキ漁業ヲ謂ヒ許可漁業ト稱スルハ同令第十二條及本令ニ依リ許可ヲ受クヘキ漁業ヲ謂ヒ届出漁業ト稱スルハ免許漁業及許可漁業ニ屬セサル漁業ヲ謂フ

第二條 本令ニ於テ行政官廳ト稱スルハ免許漁業又ハ朝鮮總督ノ許可ヲ受クヘキ漁業ニ付テハ朝鮮總督、地方長官ノ許可ヲ受クヘキ漁業ニ付テハ地方長官届出漁業ニ付テハ府尹又ハ郡守ヲ謂フ

第三條 漁業ニ關シ朝鮮總督ニ爲スヘキ出願、申請又ハ届出ハ其ノ漁場ヲ管轄スル地方長官ヲ經由スヘシ

地方長官ニ爲スヘキ出願、申請又ハ届出ハ漁場ヲ管轄スル地方長官ニ之ヲ爲スヘシ  
漁場カニ以上ノ地方長官ノ管轄ニ跨カリ又ハ漁場ヲ管轄スル地方長官明確ナラサルトキハ前二項ノ手續ハ其ノ漁場ニ關係最モ多キ地方長官ニ之ヲ爲スヘシ



第四條 行政官廳ハ出願 申請若ハ届出ヲ爲シタル者漁業者又ハ利害關係人ニ對シ書類ノ提出  
 正若ハ補充又ハ物件ノ提出ヲ命スルコトヲ得

第五條 行政官廳ハ漁業者ニ漁場標識ノ建設ヲ命スルコトヲ得

第六條 漁業令又ハ本令ニ依ル書類ノ送達ヲ爲スコト能ハサルトキハ其ノ事由及書類ノ要領ヲ朝鮮總督府官報又ハ行政官廳ノ公布式ニ依リ公示シ其ノ公示ノ日ヨリ三十日ヲ經過シタル日ヲ以テ送達ヲ爲シタルモノト看做ス

第七條 二人以上共同シテ漁業ノ免許又ハ許可ヲ受ケムトスルトキハ内一人ヲ選定シテ代表者ト爲シ之ヲ行政官廳ニ届出テ又ハ出願ノ書面ニ記載スヘシ

代表者ハ出願及漁業權若ハ漁業ニ付行政官廳ニ對シ其ノ共同者ヲ代表ス

代表者ノ變更アリタルトキハ遲滞ナク行政官廳ニ届出ツヘシ

第八條 行政官廳ハ代表者ノ變更ヲ命シ又ハ之ヲ指定スルコトヲ得

第九條 漁業ノ免許ヲ與フルトキハ免許狀ヲ、漁業ノ許可ヲ與フルトキハ許可狀ヲ及漁業ノ届出ヲ受理シタルトキハ鑑札ヲ下付ス

許可狀又ハ鑑札ノ有効期間ハ許可狀又ハ鑑札ノ日附ヨリ五年以内トシ行政官廳之ヲ定ム但シ第三種許可漁業ノ許可狀ノ有効期間ハ一年ヲ超ユルコトヲ得ス

許可狀又ハ鑑札ハ漁業ニ従事スル間之ヲ漁船ニ備置キ又ハ携帯スヘシ

許可狀又ハ鑑札ハ之ヲ讓渡シ又ハ貸付スルコトヲ得ス

第十條 漁業ノ免許又ハ許可ヲ受ケタル者其ノ免許又ハ許可ノ事項ヲ變更セムトスルトキハ其ノ事由ヲ具シ免許狀又ハ許可狀並免許漁業ノ漁場區域ヲ變更セムトスル場合ニ在リテハ變更ノ箇所ヲ明示シタル漁場圖ヲ添附シ行政官廳ニ願出ツヘシ

第十一條 漁業者手ノ延期又ハ休業ノ許可ヲ受ケムトスルトキハ其ノ期間ヲ定メ事由ヲ具シテ行

政官廳ニ願出ツヘシ

第十二條 漁業者手ノ延期又ハ休業ノ許可ヲ受ケタル者許可ノ期間満了前漁業ヲ爲スニ至リタルトキハ遲滞ナク行政官廳ニ届出ツヘシ此ノ場合ニ於テハ許可ハ爾後其ノ效力ヲ失フ

第十三條 免許狀又ハ許可狀ニ記載セラレタル漁業者其ノ氏名、名稱又ハ住所ヲ變更シタルトキハ免許狀又ハ許可狀ヲ添附シ行政官廳ニ其ノ訂正ヲ申請スヘシ

第十四條 免許狀、許可狀又ハ鑑札ヲ亡失若ハ毀損シタルトキハ事由ヲ具シ行政官廳ニ其ノ再下付ヲ申請スヘシ其ノ毀損ニ係ルトキハ免許狀、許可狀又ハ鑑札ヲ添附スヘシ

第十五條 免許狀若ハ許可狀無効ニ歸シ又ハ漁業權ヲ拋棄シ若ハ許可漁業ヲ廢止シタルトキハ遲滞ナク其ノ免許狀又ハ許可狀ヲ返納スヘシ

漁業者死亡シ又ハ解散シタルトキハ其ノ相續人又ハ清算人ヨリ前項ノ手續ヲ爲スヘシ

第十六條 漁業令第二十條ニ依リ裁決ヲ受ケムトスルトキハ左ノ事項ヲ具シ證據書類ヲ添附シテ申請ヲ爲スヘシ

- 一 申請者及相手方ノ氏名若ハ名稱及住所
- 二 申請ノ目的及理由
- 三 立證ノ方法

第二章 免許漁業

第十七條 免許漁業ヲ分チテ左ノ六種トス

- 一 第一種免許漁業 一定ノ水面ニ漁具ヲ建設又ハ敷設シ一定ノ漁期間之ヲ定置シテ爲ス漁業
- 二 第二種免許漁業 一定ノ水面ヲ區劃シテ養殖ヲ爲ス漁業
- 三 第三種免許漁業 海濱一定ノ場所ニ於テ一定ノ漁期間繰返シ漁網ヲ曳揚ケ又ハ曳寄セテ爲



ス漁業

- 四 第四種免許漁業 一定ノ水面ニ於テ一定ノ漁期間繰返シ漁網ヲ建設又ハ敷設シテ爲ス漁業
  - 五 第五種免許漁業 一定ノ水面ニ魚類ヲ集合セシムル設備ヲ爲シ經營スル漁業
  - 六 第六種免許漁業 前各號ニ掲グルモノヲ除クノ外水面ヲ專用シテ爲ス漁業
- 前項ノ種類ニ該當スル漁業ノ名稱ハ朝鮮總督之ヲ告示ス
- 第十八條 左ノ區域ヲ以テ免許漁業ノ漁場トス
- 一 第一種免許漁業ニ在リテハ漁具ヲ建設シ又ハ敷設スル區域
  - 二 第二種免許漁業ニ在リテハ養殖ヲ爲ス區域
  - 三 第三種免許漁業ニ在リテハ漁網ヲ使用スル區域
  - 四 第四種免許漁業ニ在リテハ漁網ヲ建設シ又ハ敷設スル區域
  - 五 第五種免許漁業ニ在リテハ魚類ヲ集合セシムル區域
  - 六 第六種免許漁業ニ在リテハ專用スル區域
- 第十九條 同一漁場ニ於テハ同一漁期間同種ノ漁業ヲ免許セス但シ第三種免許漁業及第四種免許漁業ニ付テハ此ノ限ニ在ラス
- 第二十條 漁業ノ免許ヲ受ケムトスルトキハ第二種免許漁業、第五種免許漁業及第六種免許漁業ニ在リテハ漁場毎ニ其ノ他ノ免許漁業ニ在リテハ一漁具毎ニ左ノ事項ヲ具シタル願書ニ通テ作リ願出ツヘシ但シ同人カ同種ノ漁具ニ以上ヲ聯設セムトスル場合ニ於テハ一願書ヲ以テ出願スルコトヲ得
- 一 漁業ノ種類及名稱
  - 二 漁場ノ位置及區域
  - 三 採捕物又ハ養殖物ノ種類

四 漁業ノ時期

- 五 免許ヲ受ケムトスル期間
  - 六 一年間ノ收穫物見込金額
- 同人カ同一ノ漁場ニ於テ同種ノ漁具ニ以上ヲ更替使用セムトスル場合ニ於テハ願書ニ其ノ方法ヲ附記スヘシ
- 願書ニハ漁場圖及漁具圖各二通ヲ添附シ且第二種免許漁業及第五種免許漁業ニ在リテハ事業計畫書ヲ、第六種免許漁業ニ在リテハ漁村ノ經營又ハ維持ニ關スル計畫書ヲ添附スヘシ
- 第二十一條 漁業令第五條第二項ニ依リ入漁料徴收ノ認可ヲ受ケムトスルトキハ入漁料ノ額及徴收方法ヲ定メ共ノ事由ヲ具シ申請ヲ爲スヘシ
- 第二十二條 漁業權存續期間更新ノ免許ヲ受ケムトスルトキハ更新期間ヲ定メ免許狀ヲ添附シ存續期間満了ノ日ヨリ少クトモ三月前ニ申請スヘシ
- 第二十三條 漁業權ノ讓渡、共有、抵當又ハ貸付ノ許可ヲ受ケムトスルトキハ其ノ事由ヲ具シ免許狀ヲ添附シテ願出ツヘシ
- 漁業權ヲ相續シタルトキハ遲滞ナク免許狀ヲ添附シ共ノ旨ヲ朝鮮總督ニ届出ツヘシ
- 第二十四條 第七條及第八條ノ規定ハ二人以上共同シテ漁業權又ハ之ヲ目的トスル權利ヲ取得スル者ニ之ヲ準用ス
- 第二十五條 漁業ノ免許ニハ戰時、事變若ハ演習ニ際シ爲シタル陸海軍ノ行動又ハ官廳ノ職務執行ニ因リテ生スル漁業ノ損害ハ漁業權者ノ負擔タルヘキ條件ヲ附セラレタルモノトス
- 第三章 許可漁業
- 第二十六條 許可漁業ヲ分チテ左ノ九種トス
- 一 第一種許可漁業 捕鯨業



二 第二種許可漁業 「トロール」漁業  
 三 第三種許可漁業 潛水器漁業  
 四 第四種許可漁業 鯨族以外ノ海獸漁業  
 五 第五種許可漁業 風力潮流又ハ螺旋推進器ニ依リ漁船ヲ運航セシメ囊網ヲ引曳シテ爲ス漁業(「トロール」漁業ヲ除ク)  
 六 第六種許可漁業 海濱ニ於テ場所ヲ一定セシテ漁網ヲ曳揚ケ又ハ曳寄セテ爲ス漁業及河湖ニ於テ漁網ヲ曳揚ケ又ハ曳寄セテ爲ス漁業  
 七 第七種許可漁業 漁船ニ依リ囊網ヲ張置シ又ハ之ヲ繰寄セテ爲ス漁業  
 八 第八種許可漁業 漁網ヲ以テ魚類ヲ圍繞シ網裾ヲ引締メ又ハ繰上ケテ爲ス漁業  
 九 第九種許可漁業 漁網ヲ張下シ又ハ沈下シ魚類ヲシテ網目ニ刺サレメ又ハ纏ハシメテ爲ス漁業  
 第五種許可漁業乃至第九種許可漁業ニ該當スル漁業ノ名稱ハ朝鮮總督之ヲ告示ス  
 第二十七條 第三種許可漁業乃至第五種許可漁業ハ朝鮮總督、第六種許可漁業乃至第九種許可漁業ハ地方長官ノ許可ヲ受ケルニ非サレハ之ヲ爲スコトヲ得ス  
 第二十八條 第一種許可漁業又ハ第二種許可漁業ノ許可ヲ受ケムトスルトキハ漁船一隻毎ニ左ノ事項ヲ具シ漁船ノ船舶國籍證書寫若ハ船舶検査證書寫及事業ノ計畫書ヲ添附シ願出ツヘシ但シ漁船カ製造前又ハ製造中ナルトキハ共ノ種類、構造、積量及竣工時期ヲ記載シタル書面ヲ添附スルヲ以テ足ル  
 一 漁業ノ種類  
 二 漁場ノ區域  
 三 漁船ノ種類及名稱

四 漁業ノ方法  
 五 採捕物ノ種類  
 六 漁業ノ時期  
 七 一年間ノ採捕物見込金額  
 八 許可ヲ受ケムトスル期間  
 第二十九條 鯨ヲ處理スル爲根據地設定ノ許可ヲ受ケムトスルトキハ根據地ノ位置及區域ヲ定メ設計書及圖面ヲ添附シ願出ツヘシ  
 第三十條 第三種許可漁業乃至第九種許可漁業ノ許可ヲ受ケムトスルトキハ一漁具毎ニ左ノ事項ヲ具シ願出ツヘシ但シ第三種許可漁業ヲ除クノ外同人カ同種ノ漁具ニ以上ヲ一漁船ニ依リ同時ニ使用セムトスル場合ニ於テハ一願書ヲ以テ出願スルコトヲ得此ノ場合ニ於テハ願書ニ其ノ旨ヲ附記スヘシ  
 一 漁業ノ種類  
 二 漁場ノ區域  
 三 漁具ノ名稱  
 四 採捕物ノ種類  
 五 漁業ノ時期  
 六 許可ヲ受ケムトスル期間  
 前項ノ外第五種許可漁業ニシテ肩幅十尺以上ノ漁船ヲ使用スルモノニ在リテハ漁船ノ種類、積量ヲ記載シ且漁具圖ヲ添附スヘシ  
 第三十一條 第三種許可漁業ハ漁場區域ヲ定メ每區一定ノ臺數ヲ限リ之ヲ許可ス共ノ漁場區域及臺數ノ定限ハ朝鮮總督之ヲ告示ス



第三十二條 漁業令第九條乃至第十一條ノ規定ハ之ヲ第三種許可漁業乃至第九種許可漁業ニ準用ス

第四章 届出漁業

第三十三條 届出漁業ヲ分チテ左ノ三種トス

- 一 第一種届出漁業 一漁船三人以上乗組ミ漁網ヲ使用シテ爲ス漁業
- 二 第二種届出漁業 一漁船三人以上乗組ミ延繩其ノ他釣具ヲ使用シテ爲ス漁業
- 三 第三種届出漁業 前二號ニ該當セザル漁業

第三十四條 届出漁業ヲ爲サムトスルトキハ左ノ事項ヲ具シ府尹又ハ郡守ニ届出テ鑑札ヲ受クヘシ

一 漁業ノ種類

二 漁具ノ名稱又ハ漁業ノ方法

三 採捕物ノ種類

四 漁業ヲ爲スヘキ期間

五 漁船ヲ使用スルモノニ在リテハ其ノ乗組人員

届書ハ漁船ヲ使用スルモノニ在リテハ漁業ノ種類及漁船毎ニ之ヲ作ルヘシ

第五章 罰則

第三十五條 左ノ各號ノ一ニ該當スル者ハ二百圓以下ノ罰金ニ處ス

一 第二十七條ノ規定ニ違反シタル者

二 第三種許可漁業乃至第九種許可漁業ノ許可ノ條件又ハ漁業ノ制限ニ違反シタル者

三 第三種許可漁業乃至第九種許可漁業ノ停止中漁業ヲ爲シタル者

第三十六條 第三十四條第一項ノ規定ニ違反シタル者ハ百圓以下ノ罰金又ハ科料ニ處ス

第三十七條 前二條ノ犯罪ニ係ル採捕物及漁具ハ之ヲ沒收スルコトヲ得但シ既ニ讓渡シタル場合ニ於テハ其ノ價格ニ相當スル金額ヲ追徴スルコトヲ得

前項ノ漁具犯人以外ノ者ニ屬スルトキハ行政處分ヲ以テ之ヲ沒收スルコトヲ得

第三十八條 左ノ各號ノ一ニ該當スル者ハ五十圓以下ノ罰金又ハ科料ニ處ス

一 第四條ニ依ル書類又ハ物件提出ノ命令ニ違反シタル者

二 漁場標識建設ノ命令ニ違反シタル者

三 濫リニ漁場標識ヲ移轉シ、汚損シ又ハ毀壞シタル者

四 代表者變更ノ届出ヲ爲サヌ又ハ其ノ代表者變更ノ命令ニ違反シタル者

五 第九條第三項、第四項、第十二條乃至第十五條又ハ第二十三條第二項ノ規定ニ違反シタル者

附則

第三十九條 本令ハ漁業令施行ノ日ヨリ之ヲ施行ス

第四十條 本令施行前漁業ニ關シタル出願申請又ハ届出ニシテ未タ處分ヲ終ラサルモノハ本令ニ依リ出願申請又ハ届出ヲ爲シタルモノト看做ス

第四十一條 本令施行前ニ受ケタル漁業ノ許可狀又ハ鑑札ハ仍其ノ效力ヲ存續ス

○朝鮮總督府令第六十八號(宣稱六月十六日)

漁業取締規則左ノ通定ス

明治四十四年六月三日

朝鮮總督 伯爵寺內正毅

漁業取締規則

第一條 左ノ漁網ヲ使用シテ漁業ヲ爲スコトヲ禁止ス但シ玉筋魚、白魚、鰻又ハ鰻類ノ漁業ニ關スル免許狀、許可狀又ハ鑑札ヲ有スル者ハ此ノ限ニ在ラス

一 藻線網、藻打網、藻漕網、藻曳網、手線網、打網、漏斗網、鮫線網、石首魚線網、建切網其ノ他之



ニ準スヘキ構造ヲ有スル漁網ニシテ網目方五分以下ノモノ

二 級子網地又ハ之ニ準スヘキ細目網地ヲ用ヒテ構造シタル漁網

第二條 水産動物ヲ採捕スル爲有毒物又ハ爆發物ヲ使用スルコトヲ禁止ス但シ鮎其ノ他海獸漁獵ノ爲爆發物ヲ使用スルハ此ノ限ニ在ラス

第三條 汽船 石油發動機ヲ用ヒテ「トロール」又ハ總噸數二十噸以上ノ帆船「トロール」ヲ使用スル漁業ハ左ノ區域内ニ於テ之ヲ爲スコトヲ禁止ス

一 咸鏡南道北青郡大陽化面松嶼岬ヨリ江原道高城郡東面水源嶺燈臺ヲ聯結スル線以內

二 江原道蔚珍郡竹邊龍湫岬ヨリ正東十海里ノ點、慶尙北道延日郡冬外串燈臺ヨリ正東十海里ノ點、慶尙南道蔚山郡蔚崎燈臺ヨリ正東十海里ノ點、慶尙南道巨濟郡鴻島燈臺、全羅南道濟州島東部牛島燈臺、同郡馬北端三島燈臺ニ對スル十海里ノ點、慶尙南道巨濟郡鴻島燈臺、全羅南道濟州島東部牛島燈臺、同郡馬北島西部竹島頂點、同郡智島郡梅加嶼東端、同郡鞍馬島南端、黃海道長淵郡小青島燈臺、同郡大青島南端、同郡白翎島西端及同郡長山串ヲ聯結スル線以內

第四條 汽船「トロール」又ハ總噸數二十噸以上ノ帆船「トロール」ヲ使用シテ得タル採捕物ハ朝鮮内ニ於テ之ヲ販賣スルコトヲ禁止ス但シ乾製其ノ他加工シタルモノハ此ノ限ニ在ラス

第五條 左ニ掲クル區域内ニ於テハ毎年九月一日ヨリ十二月末日迄鮎及鱒ノ漁獲ヲ目的トスル漁業ヲ禁止ス

一 咸鏡南道安邊郡浪城江口及其ノ兩岸各二百間ニ至ル沖合三百間並同江口ヨリ上流五百間ノ區域

二 咸鏡南道永興郡龍興江口及鑽坪面下梨里南角、小猪島北端、猪島南端、文川郡北久味北端、玉串致東角ヲ聯結スル線内並同江口ヨリ上流五百間ノ區域

三 咸鏡南道定平郡金江口及其ノ兩岸各二百間ニ至ル沖合三百間並同江口ヨリ上流二百間ノ區域

域

四 咸鏡南道咸興郡城川江東川河口東岸ノ東方二百間ヨリ西川河口西岸ノ西方二百間ニ至ル沖合三百間並各河口ヨリ上流百間ノ區域

五 咸鏡南道端川郡南大川河口及其ノ兩岸各二百間ニ至ル沖合三百間並同河口ヨリ上流六十間ノ區域

六 咸鏡南道端川郡北大川河口及其ノ兩岸各二百間ニ至ル沖合三百間並同河口ヨリ上流百間ノ區域

七 咸鏡北道吉州郡南大川河口及其ノ兩岸各二百間ニ至ル沖合三百間並同河口ヨリ上流百間ノ區域

八 咸鏡北道鏡城郡琴溫川河口及其ノ兩岸各二百間ニ至ル沖合三百間並同河口ヨリ上流百五十間ノ區域

九 咸鏡北道清津府輪城江口及其ノ兩岸各二百間ニ至ル沖合三百間並同江口ヨリ上流百間ノ區域

前項ノ河江ニ於テハ前項ニ規定スル區域外ト雖毎年九月乃至十二月間毎月一日、十日及二十日ノ日出時ヨリ翌日日没時ニ至ル迄鮎及鱒ノ漁業ヲ禁止シ魚道ヲ遮斷シテ建設又ハ敷設シタル漁具ハ之ヲ撤去スヘシ

第六條 左ニ掲クル水産動物ハ各號ニ定ムル期間之ヲ採捕スルコトヲ禁止ス

一 鮑 十一月一日乃至翌年二月末日

二 海鼠 六月一日乃至八月末日

三 鮎 三月一日乃至五月末日



四 蟹場蟹 棘蟹 毛蟹 五月一日乃至九月末日  
 五 石花菜 一月一日乃至四月末日  
 六 海藻 十二月一日乃至翌年二月末日  
 七 和布 十二月一日乃至翌年二月末日  
 八 馬尾藻 莖蒲藻 六月一日乃至八月末日

第七條 左ニ掲クル貝類ハ之ヲ採捕スルコトヲ禁止ス  
 一 鮑 介殼最長部ノ直徑二寸五分以下ノモノ  
 二 貽貝 介殼最長部ノ直徑二寸以下ノモノ  
 三 海扇 介殼最長部ノ直徑三寸以下ノモノ

第八條 鯨ハ毎年五月一日ヨリ九月末日迄之ヲ捕獲スルコトヲ禁止ス  
 前項ノ期間外ト雖鯨兒及鯨兒ヲ伴フ親鯨ハ之ヲ捕獲スルコトヲ禁止ス

第九條 鯨ハ許可ヲ受ケタル根據地以外ノ場所ニ於テ之ヲ處理スルコトヲ禁止ス

第十條 左ニ掲クル漁具ニ依ル免許漁業ハ各號ニ定ムル區域内ヲ以テ其ノ漁場ノ保護區域トス  
 一 大敷網、大罾網、葉網、淺矢、杖矢ノ類ニシテ垣網（實情ノ類ヲ以テ垣網ニテハ身網口ニ連接シテ陸地又ハ陸地及沖合ニ向ヒテ延張シタル裝置ノモノハ魚道ニ面スル垣網ノ前面ニシテ身網口ニ連接シタル垣網ヲ含ム）二百間及其ノ漁網全部ノ背面三十間ノ區域  
 二 小敷網、小罾網、角網、舉網ノ類ニシテ其ノ垣網ノ裝置前號ニ同シキモノハ魚道ニ面スル垣網ノ全面百間及其ノ漁網全部ノ背面二十間ノ區域  
 三 羽瀨防籠、魚籠、駐木網ノ類ニシテ垣網ヲ有シ其ノ裝置第一號ニ同シキモノニ在リテハ魚道ニ面スル垣網ノ前面七十間及其ノ漁網又ハ箭冠全部ノ背面十間、垣網ヲ有セス單ニ身網ノ

ミノモノニ在リテハ網口ノ前面七十間及其ノ漁網全部ノ背面十間、垣網ヲ有セサルモ袖網（實情ノ類ヲ以テ袖網ニテハ網口又ハ冠口ノ左右ニ附設シタル裝置ノモノニ在リテハ袖網ノ兩端ヲ聯結シタル前面七十間及其ノ漁網又ハ箭冠全部ノ背面十間ノ區域）  
 四 董網、柵網、地獄網、落網、建切網、曲建網ノ類ニシテ垣網ヲ有シ其ノ裝置第一號ニ同シキモノニ在リテハ魚道ニ面スル垣網ノ前面五十間及其ノ漁網全部ノ背面十間、垣網ヲ有セス又ハ身網ノ一部ヲ垣網ニ代用スルモノニ在リテハ魚道ニ面スル漁網ノ兩端ヲ聯結シタル前面五十間及其ノ漁網全部ノ背面十間ノ區域

朝鮮總督ニ於テ必要アリト認ムルトキハ前項ノ保護區域ヲ伸縮スルコトアルヘシ

第十一條 前條ノ保護區域内ニ於テハ免許ニ依ル漁業者ノ就業中左ノ漁業ヲ爲スコトヲ禁止ス  
 一 漁網ヲ使用シテ漁業權者ノ目的トスル漁獲物ト同一種類ノモノヲ漁獲スル漁業  
 二 魚道ヲ遮斷シテ爲ス漁業  
 三 火光ヲ利用シ其ノ他魚類ヲ誘集スル方法ニ依リテ爲ス漁業  
 四 音響其ノ他ノ方法ヲ用ヒ魚類ヲ追驅シテ爲ス漁業

前項ノ規定ハ漁業權者ノ承諾ヲ受ケ又ハ地方長官ノ認定シタル慣行ニ依リ漁業ヲ爲ス者ニ之ヲ適用セス

第十二條 本令ノ規定ハ官廳ニ於テ調査又ハ試驗ヲ爲ス場合ニ之ヲ適用セス  
 水産動植物ニ關スル學術研究、養殖其ノ他特別ノ理由ニ依リ朝鮮總督ノ許可ヲ受ケタル場合亦前項ニ同シ

第十三條 第一條、第二條、第五條乃至第七條又ハ第十一條ノ規定ニ違反シタル者ハ二百圓以下ノ



罰金又ハ科料ニ處ス

本令ノ規定ニ違反シテ取得シタル採捕物ヲ情ヲ知リテ販賣シ又ハ販賣ノ委託ヲ受ケタル者亦前項ニ同シ

前二項ノ未遂罪ハ之ヲ罰ス

第十四條 前條ノ場合ニ於テハ犯人ノ所有シ又ハ所持スル採捕物ハ之ヲ沒收シ仍情狀ニ因リ漁具ヲ沒收スルコトアルヘシ

前項ノ物件ノ全部又ハ一部ヲ沒收スルコト能ハサルトキハ其ノ價格ニ相當スル金額ヲ追徴ス

第十五條 水産動植物ノ採捕ニ供スルノ目的ヲ以テ有毒物又ハ爆發物ヲ製造シ所持シ又ハ販賣シタル者ハ二百圓以下ノ罰金ニ處ス

前項ノ規定ハ第二條但書ニ依ル爆發物ニ付テハ之ヲ適用セス

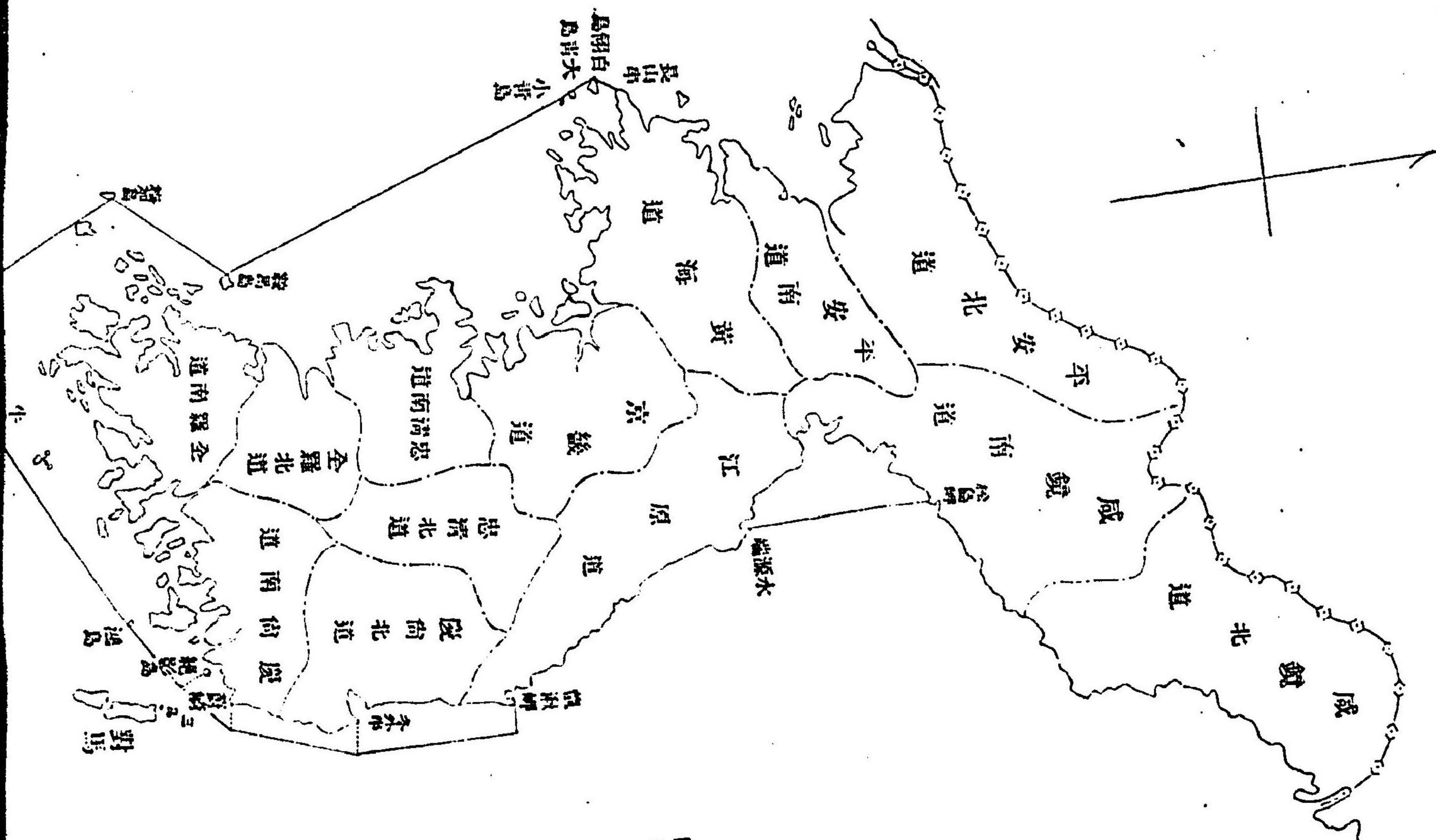
附則

第十六條 本令ハ漁業令施行ノ日ヨリ之ヲ施行ス

第十七條 本令施行ノ際現ニ第一條ニ掲クル漁具ヲ使用シテ漁業ヲ爲ス者ニハ本令施行ノ日ヨリ一年間同條ノ規定ヲ適用セス

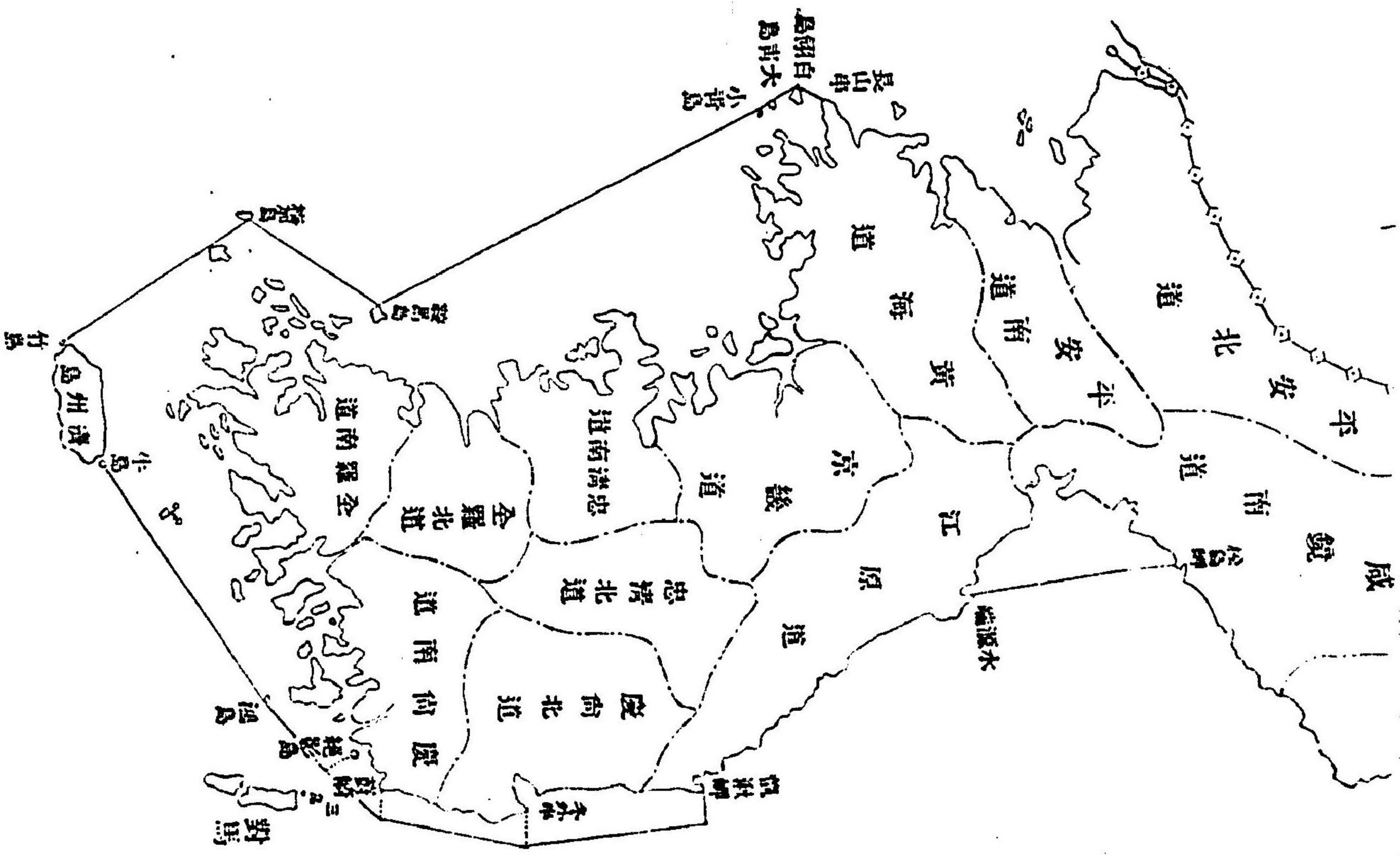
第十八條 本令施行前ノ免許ニ係ル漁業ニシテ各漁場ノ距離接近シ第十條ニ規定シタル區域ノ間隔ヲ有セサルトキハ其ノ漁場ノ保護區域ハ漁具ニ對スル保護間數ノ割合ニ應ジ減縮セラレタルモノトス

從來ノ慣行ニ依リ漁業ヲ爲ス者免許ヲ受ケタル場合ニ於テ其ノ漁場ト他ノ漁場トノ距離接近スルトキ亦前項ニ同シ



汽船行ハ石油ノ燈用ニハ汽船トシテ漁業禁止區域ニ總額二十噸以上ノ汽船トシテ漁業禁止區域





1:100,000  
 1:100,000  
 漁業禁止區域

比例尺



○朝鮮總督府令第六十九號(官報六月十六日)

朝鮮總督府及其ノ所屬官署職員ノ襟章左ノ通定

明治四十四年六月九日

朝鮮總督 伯爵寺內正毅

奉

發

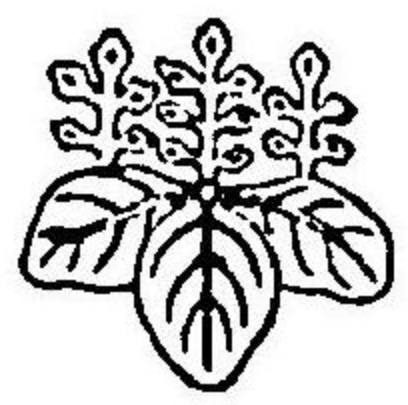
- 朝鮮總督府 別
  - 朝鮮總督府 中樞院 職員
  - 朝鮮總督府 取調局 職員
  - 朝鮮總督府 警務總監部 職員
  - 朝鮮總督府 印刷局 職員
  - 朝鮮總督府 醫院 職員
  - 朝鮮總督府 鐵道局 職員
  - 朝鮮總督府 通信官署 職員
  - 朝鮮總督府 臨時土地調查局 職員
  - 朝鮮總督府 稅關 職員
  - 朝鮮總督府 專賣局 職員
  - 朝鮮總督府 裁判所 職員
  - 朝鮮總督府 監獄 職員
  - 朝鮮總督府 營林廠 職員
  - 朝鮮總督府 道府部 職員
  - 朝鮮總督府 道憲醫院 職員
- 從六分五厘横七分ノ金色桐章一箇ヲツケ襟部ノ兩前端ニ附ス
- 銀色鐵道線路断面ノ上半部ニ金色桐章ヲ附シタル縱六分五厘横八分ノモノトス餘ハ同上
- 銀色雷紋ノ上半部ニ金色桐章ヲ附シタルモノトス餘ハ同上
- 銀色「小」形ノ上半部ニ金色桐章ヲ附シタル縱横各八分ノモノトス餘ハ同上
- 銀色錫形ノ中部ニ金色桐章ヲ附シタルモノトス餘ハ同上
- 「人」字ヲ印シタル銀色石目六角形章中部ニ金色桐章ヲ附シタルモノトス餘ハ同上
- 從六分五厘横七分ノ葉深綠色ノ花金色ノ桐章トス餘ハ同上
- 葉深綠色ノ花金色ノ桐章トス餘ハ同上
- 葉深綠色ノ花金色ノ桐章トス餘ハ同上
- 葉深茶色ノ花銀色ノ桐章トス餘ハ同上
- 銀色「林」字ノ上半部ニ金色桐章ヲ附シタル縱六分五厘横八分ノモノトス餘ハ同上
- 縱六分五厘横七分ノ銀色桐章トス餘ハ同上

明治四十四年六月 府令 朝鮮總督府第六十九號

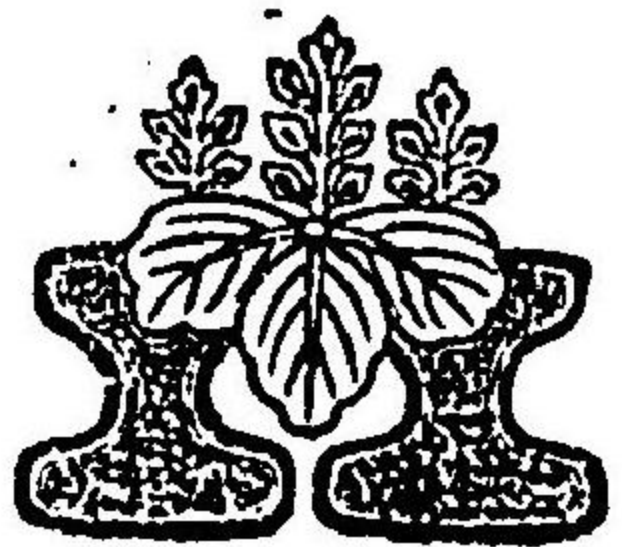


朝鮮總督府平壤鑛業所職員  
 朝鮮總督府勸業模範場職員  
 朝鮮總督府工業傳習所職員  
 朝鮮總督府學校職員  
 朝鮮總督府府中醫院職員  
 朝鮮總督府取調局職員  
 朝鮮總督府警務總監部職員  
 朝鮮總督府印刷局職員  
 朝鮮總督府醫院職員

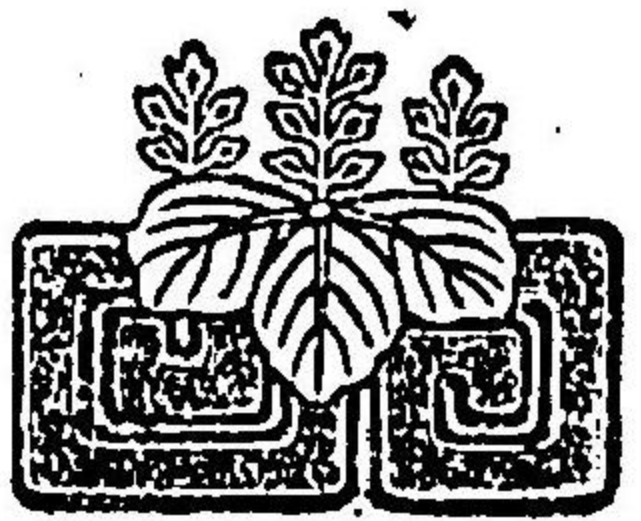
銀色勳ノ中部ニ金色桐章ヲ附シタル總横各八分ノモノトス餘ハ同上  
 銀色學字ノ中部ニ金色桐章ヲ附シタル總六分五厘横八分ノモノトス餘ハ同上



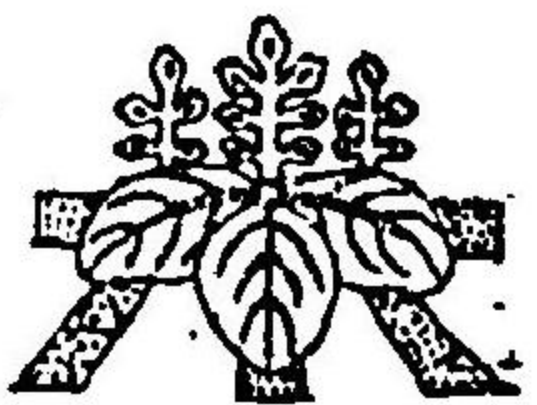
朝鮮總督府鐵道局職員



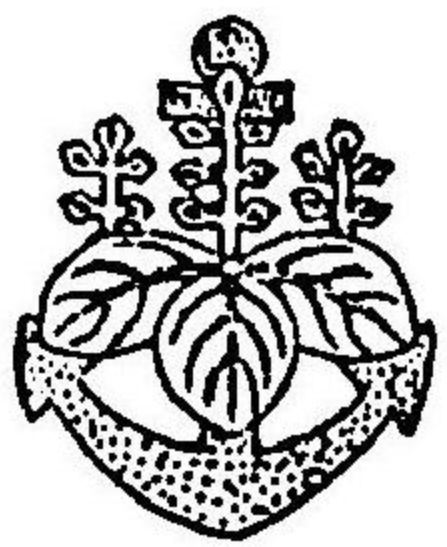
朝鮮總督府通信官署職員



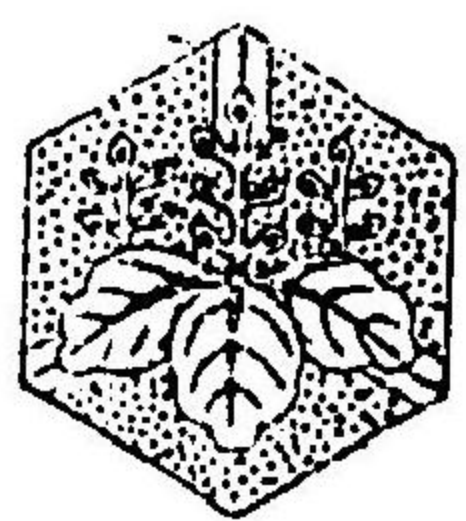
朝鮮總督府臨時土地調查局職員



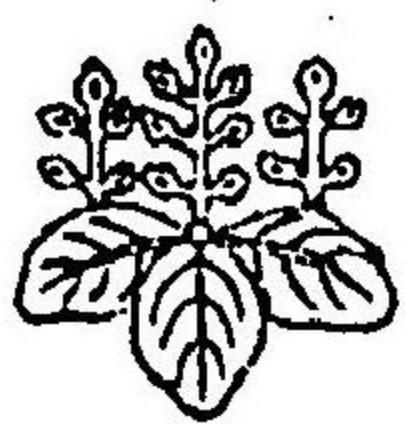
朝鮮總督府稅關職員



朝鮮總督府專賣局職員

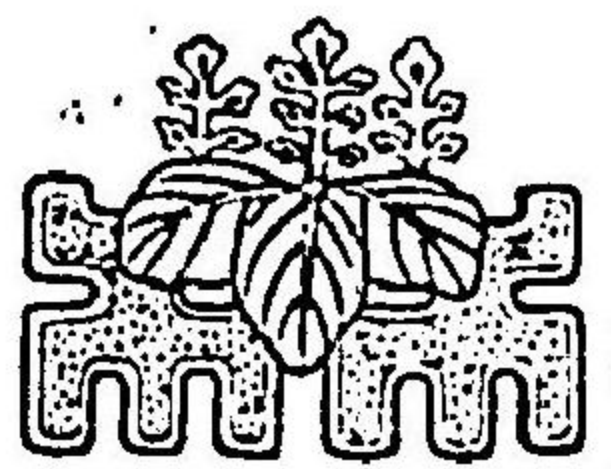


朝鮮總督府裁判所職員  
 朝鮮總督府監獄職員

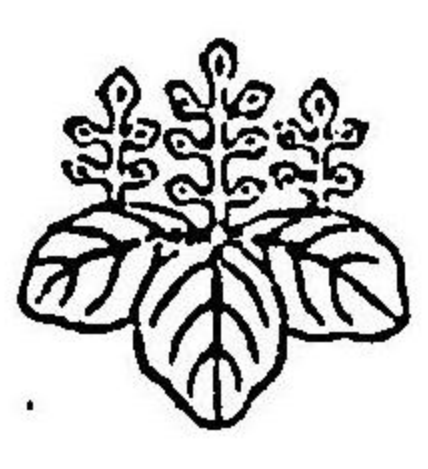




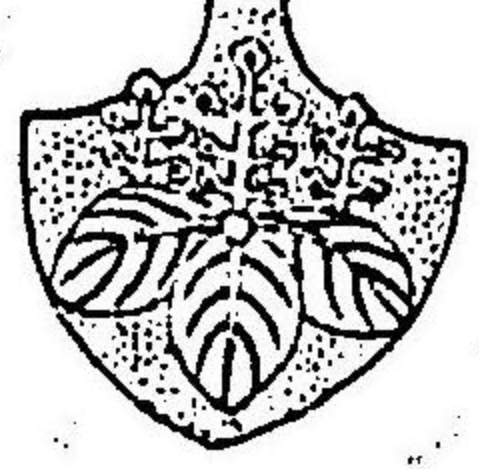
朝鮮總督府營林庶務員



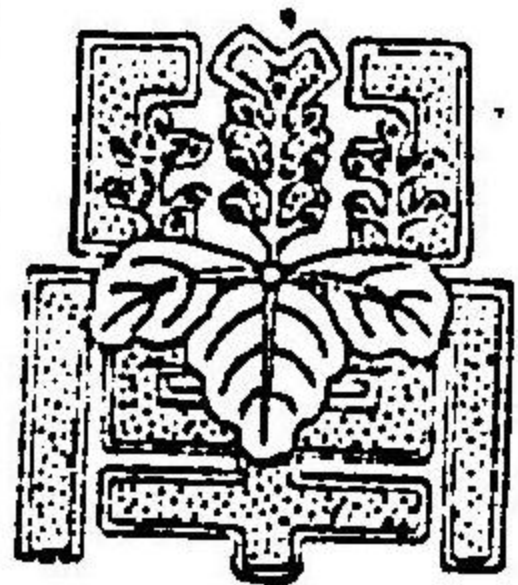
朝鮮總督府道府郡職員



朝鮮總督府平壤鐵業所職員



朝鮮總督府工業傳習所職員



○朝鮮總督府令第七十號(官報六月十六日)

朝鮮總督府及所屬官署職員服制ハ朝鮮總督府試補ニ之ヲ適用ス

明治四十四年六月九日

朝鮮總督 伯爵寺內正毅

○朝鮮總督府令第七十一號(官報六月十六日)

朝鮮總督府巡查看守退隱料及遺族扶助料取扱ニ關スル件左ノ通定ム

明治四十四年六月十日

朝鮮總督 伯爵寺內正毅

第一條 朝鮮總督府巡查看守退隱料及遺族扶助料ノ取扱ニ付テハ明治三十四年閉令第一號內閣恩給局長ノ管掌ニ屬スル巡查看守退隱料及遺族扶助料取扱規程ニ依ル

第二條 前條ノ閉令中內閣恩給局長又ハ地方長官ニ屬スル事項ハ朝鮮總督內閣恩給局ニ屬スル事項ハ朝鮮總督府、市町村長ニ屬スル事項ハ朝鮮ニ在住スル者ニ付テハ府尹又ハ郡守之ヲ行フ

附則

本令ハ發布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

○朝鮮總督府令七十二號(官報六月十七日)

朝鮮總督府臨時土地調查局員養成所生徒手當給與規程左ノ通定ム

明治四十四年六月十二日

朝鮮總督 伯爵寺內正毅

朝鮮總督府臨時土地調查局員養成所生徒手當給與規程

第一條 臨時土地調查局總裁ハ必要アリト認メタルトキハ養成所生徒ニ手當金ヲ給與スルコトヲ得

第二條 手當金ハ日額十錢トス

第三條 手當金ハ前月十六日ヨリ當月十五日迄ノ分ヲ其ノ月二十一日ヨリ末日迄ノ間ニ於テ之ヲ支給ス



第四條 病氣又ハ私事故障ニ因リ休業シタル者ニ對シテハ其ノ間手當金ヲ給與セス

第五條 臨時土地調査局總裁ハ左ノ各號ノ一ニ該當スル者ニ對シテ其ノ給與シタル手當金ノ全部又ハ一部ノ償還ヲ命スルコトヲ得

一 朝鮮總督府臨時土地調査局員養成所規程第十六條第一號又ハ第三號ノ規定ニ依リ退學ヲ命セラレタル者

二 自己ノ便宜ニ因リ退學シタル者

三 卒業後正當ノ事由ナクシテ臨時土地調査局ノ業務ニ從事セサル者

四 就業後免官又ハ免職セラレタル者

第六條 前條ノ場合ニ於テ本人カ其ノ償還ヲ爲ササルトキハ臨時土地調査局總裁ハ其ノ身元保証人ニ對シテ償還ヲ命スルコトヲ得

○朝鮮總督府令第七十三號(官報 六月二十日)  
經學院規程左ノ通定

明治四十四年六月十五日

朝鮮總督 伯爵寺內正毅

經學院規程

第一條 經學院ハ朝鮮總督ノ監督ニ屬シ經學ノ講究ヲ爲シ風教徳化ヲ裨補スルコトヲ目的トス

第二條 經學院ハ之ヲ京城ニ置ク

第三條 朝鮮總督ハ各道ニ於テ學識博望アル者ヲ講士ニ舉ケ經學院ニ列セシム

第四條 經學院ハ毎年春秋二回文廟ノ祭祀ヲ舉行ス

祭祀ハ朝鮮總督ノ指揮ヲ承ケ大提學之ヲ行ヒ經學院講士之ニ列ス

第五條 經學院ニ左ノ職員ヲ置ク

大提學 一人

副提學 二人

祭酒 五人

司成 若干人

直員 若干人

前項職員ノ進退ハ朝鮮總督之ヲ行フ

第六條 大提學ハ朝鮮總督ノ指揮監督ヲ承ケ院務ヲ總理ス

第七條 副提學ハ大提學ヲ補佐シ大提學事故アルトキハ其ノ職務ヲ代理ス

第八條 祭酒ハ上職ノ命ヲ承ケ院務ヲ分掌ス

第九條 司成ハ上職ノ指揮ヲ承ケ院務ニ從事ス

直員ハ上職ノ指揮ヲ承ケ庶務ニ從事ス

第十條 經學院ノ職員ニハ手當ヲ給スルコトヲ得

第十一條 滿六十歳以上ノ講士ニシテ功勞又ハ徳望ノ顯著ナル者ニハ特ニ手當ヲ給スルコトヲ得

京城以外ニ在任スル講士ニシテ經學院ニ列スル者ニハ旅費ヲ給ス

第十二條 前二條ノ手當及旅費額並其ノ支給方法ニ付テハ別ニ定ムル處ニ依ル

第十三條 經學院ノ職員及講士ノ手當、旅費其ノ他ノ經費ハ基本財産ヨリ生スル收入及其ノ他ノ收入ヲ以テ之ニ充ツ

第十四條 經學院ハ寄附ヲ受クルコトヲ得

第十五條 基本財産ハ土地、建物、國債證券又ハ確實ナル有價證券若ハ銀行預金トシテ之ヲ保管ス

基本財産ハ朝鮮總督ノ認可ヲ受クルニ非サレハ之ヲ處分スルコトヲ得ス

第十六條 大提學ハ毎會計年度歲入歳出豫算ヲ編製シ年度前朝鮮總督ノ認可ヲ受クヘシ豫算ノ追



加又ハ更正ヲ爲サムトスルトキ亦同シ

大提學ハ毎會計年度歲入歳出決算ヲ其ノ年度後三月以内ニ朝鮮總督ニ報告スヘシ

前二項ノ會計年度ハ政府ノ會計年度ニ依ル

第十七條 本規程ノ施行ニ關シ必要ナル事項ハ朝鮮總督ノ認可ヲ受ケ大提學之ヲ定ム

○朝鮮總督府令第七十四號(官報 六月二十六日)

森林令施行規則左ノ通定ム

明治四十四年六月二十日

朝鮮總督 伯爵寺內正毅

森林令施行規則

第一章 總則

第一條 國有森林ニ付左ノ各號ニ關スル事項ハ地方長官之ヲ處理スヘシ

一 面積三十町歩ヲ超エサル一時限貸付又ハ面積五十町歩ヲ超エサル繼年期貸付

二 保安林以外ノ森林ノ產物ニシテ材積五百尺締價額五十圓ヲ超ニサルモノノ處分

三 盜伐燒損枯損風損其ノ他被害ニ係ル產物ノ處分

地方長官前項ノ貸付又ハ產物ノ處分ヲ爲シタルトキハ直ニ之ヲ報告スヘシ

第二條 國有森林ノ賣却交換讓與若ハ貸付又ハ其ノ產物ノ年期賣却ヲ受ケムトスル者ハ圖面ヲ

添ヘ朝鮮總督又ハ地方長官ニ願出ツヘシ其ノ貸付又ハ年期賣却ノ場合ニ在リテハ事業計畫書ヲ

モ添附スヘシ

前項ノ出願人又ハ其ノ出願ニ基ク契約ノ當事者二人以上ナルトキハ一人ノ代表者ヲ定メ届出ツ

第三條 前條ノ出願人又ハ契約當事者朝鮮ニ住所ヲ有セサルトキハ假住所ヲ定メ朝鮮總督又ハ地

方長官ニ届出ツヘシ

出願人又ハ契約當事者二人以上ナルトキハ前項ノ規定ハ其ノ代表者ニ限り之ヲ適用ス

第四條 森林令又ハ本令ニ規定スル森林土地若ハ立木ノ所有者又ハ占有者ノ權利義務ハ其ノ所

有權又ハ占有權ト共ニ承繼人ニ移轉ス

第五條 森林令又ハ本令ノ規定ニ依リ爲シタル手續其ノ他ノ行爲ハ森林土地若ハ立木ノ所有者

又ハ占有者ノ承繼人ニ對シ共ノ效力ヲ有ス

第六條 森林令又ハ本令ノ規定ニ依ル書類ノ送達ヲ爲スコト能ハサルトキハ朝鮮總督府官報又ハ

地方官廳ノ公布式ニ依リ之ヲ公示シ共ノ公示ノ日ヨリ三十日ヲ經過シタルトキハ其ノ末日ニ於

テ到達シタルモノト看做ス

第七條 森林令及本令ハ山野ニ之ヲ準用ス

森林令及本令中保安林ニ關スル規定ハ森林山野以外ノ土地ニ之ヲ準用ス

前項ノ規定ニ依リ保安林ニ編入セラレタル土地ニ付テハ森林令第四條第十八條乃至第二十

三條本令第九條第十條及第三十九條乃至第四十三條ノ規定ヲ準用ス

第八條 營林廠所管森林ニ於ケル產物ノ賣却ニ關シテハ別ニ定ムル所ニ依ル

第二章 保安林

第九條 保安林ノ編入又ハ解除ハ地域ヲ指定シ朝鮮總督府官報ヲ以テ之ヲ告示ス

第十條 保安林ノ所有者若ハ占有者ニ變更ヲ生シタルトキ又ハ其ノ地形若ハ林相ニ著シキ異狀ヲ

生シタルトキハ所有者又ハ占有者ハ速滞ナク地方長官ニ届出ツヘシ但シ所有者又ハ占有者變更

ノ場合ニ在リテハ相續ニ依ル場合ヲ除クノ外新舊權利者ノ連署ヲ要ス

第十一條 森林令第五條ノ禁止又ハ制限ニ付テハ第九條ノ規定ヲ準用ス

第十三條 國有森林ノ貸付

第十二條 國有森林ノ貸付ヲ受ケタル者ハ直ニ境界標ヲ建設スヘシ



第十三條 國有森林ノ借受人ハ朝鮮總督ノ許可ヲ受クルニ非サレハ契約ニ明示シタルモノヲ除クノ外其ノ產物ノ收得ヲ爲スコトヲ得ス

第十四條 造林ノ目的ヲ以テ國有森林ノ貸付ヲ爲シタル場合ニ於テ其ノ森林ノ天然雜樹ハ成林ニタルトキ借受人ノ所有トス

第十五條 國有森林ノ借受人ハ貸付地ニ異狀ヲ生シタルトキ又ハ管理人ヲ置キタルトキ若ハ之ヲ變更シタルトキハ其ノ旨朝鮮總督又ハ地方長官ニ届出ツヘシ

第十六條 國有森林ノ借受人ハ許可ヲ受クルニ非サレハ其ノ森林ヲ轉貸シ又ハ其ノ權利ヲ讓渡シ若ハ擔保ニ供スルコトヲ得ス

第十七條 左ノ各號ノ一ニ該當スル場合ニ於テハ貸付地ノ全部又ハ一部ヲ返還セシムルコトアルヘシ

- 一 指定ノ期間内ニ貸付料ヲ納付セサルトキ
- 二 造林又ハ牧畜ノ爲メ貸付ヲ爲シタル場合ニ於テ事業進捗セス又ハ成功ノ見込ナシト認メタルトキ
- 三 法令又ハ契約ニ定メタル事項ニ違反シタルトキ
- 四 錯誤ニ依リ貸付ヲ爲シタルトキ
- 五 公用又ハ公益事業ノ用ニ供スル必要ヲ生シタルトキ

前項第一號乃至第三號ノ場合ニ於テ貸付地ノ返還ヲ命ジタルトキハ借受人ニ對シ其ノ貸付地ヨリ得タル不常利益ノ返還、立木ノ棄權又ハ工作物ノ撤去共ノ他原狀回復ノ爲メ必要ナル措置ヲ命ズルコトヲ得

第一項第四號又ハ第五號ニ依リ貸付地ヲ返還セシメタルトキハ貸付料ノ一部又ハ全部ヲ還付スルコトアルヘシ

第四章 國有森林及其ノ產物ノ賣却

第十八條 左ノ各號ノ一ニ該當スル場合ニ於テハ一定ノ區域ニ於ケル國有森林ノ主產物ヲ其ノ種類及數量ヲ指示シ十年ヲ超エサル期間ニ於テ毎年分割引渡ヲ爲スノ方法ニ依リ年期賣却ニ付スルコトヲ得

- 一 特別ノ設備ヲ施スニ非サレハ產物ノ利用困難ナルトキ
- 二 特別ノ設備ヲ施ストキハ產物利用ノ程度ヲ著シク増進スヘキトキ

第十九條 年期賣却ヲ受ケタル者事業計畫ヲ變更シタルトキハ朝鮮總督ニ届出ツヘシ但シ設備ノ變更ニ付テハ朝鮮總督ノ許可ヲ受クヘシ

第二十條 國有森林又ハ其ノ產物ニ付賣却ノ許可ヲ受ケタル者ハ朝鮮總督又ハ地方長官ノ指定シタル期間内ニ其ノ指定ノ契約保證金ヲ納付スヘシ但シ公用若ハ公益事業ノ爲ニスル賣却又ハ代金百圓ニ滿テサル場合ニ在リテハ契約保證金ヲ徴收セサルコトアルヘシ

前項ノ契約保證金ハ產物賣却ノ場合ニ在リテハ其ノ產物ノ搬出ヲ終ル迄之ヲ還付セサルコトアルヘシ

第二十一條 主產物ノ根株ハ特ニ契約シタル場合ヲ除クノ外賣却物件中ニ包含セス

第二十二條 年期賣却ノ場合ニ於テハ朝鮮總督ハ毎年引渡スヘキ主產物ノ種類、數量、代金、斫伐箇所其ノ他契約履行ニ必要ナル事項ヲ定メ買受人ニ通知ス

當該官吏ノ測定シタル前項主產物ノ數量ニ對シテハ買受人ハ異議ヲ述フルコトヲ得ス

買受人ハ前項ノ測定ニ立會ヲ爲スコトヲ得

第二十三條 買受人ハ賣却物件ノ引渡又ハ採取ノ許可ヲ受クルニ非サレハ其ノ物件ニ對シ一切ノ處分ヲ爲スコトヲ得ス

第二十四條 賣却物件ノ數量、品質若ハ面積ニ錯誤アリ又ハ其ノ物件ニ隠レタル瑕疵アルモ買受



人ハ異議ヲ述フルコトヲ得ス年期賣却ノ場合ニ於テ營林計畫ノ變更ニ因リ賣却物件ノ數額又ハ  
 斫伐面積ニ變更ヲ生シタルトキ亦同シ  
 第二十五條 朝鮮總督又ハ地方長官ハ森林上必要アリト認ムルトキハ產物ノ買受人ニ對シ伐採  
 採取又ハ搬出ノ方法ヲ指定又ハ制限スルコトアルヘシ  
 第二十六條 朝鮮總督又ハ地方長官ハ產物買受人ノ拋棄シタル物件カ造林上著レキ障礙アリト認  
 ムルトキハ買受人ニ其ノ障礙物ヲ除却セシムルコトアルヘシ  
 第二十七條 朝鮮總督又ハ地方長官ハ產物ノ買受人ニ於テ其ノ伐採、採取又ハ搬出ニ當リ不正行  
 爲アリト認ムルトキハ其ノ物件ヲ差押ヘ又ハ伐採、採取若ハ搬出ノ停止ヲ命スルコトアルヘシ  
 第二十八條 賣却シタル產物ノ搬出又ハ採取期間ハ主產物ニ在リテハ引渡後三年內、副產物ニ在  
 リテハ採取許可ノ日ヨリ一年內ニ於テ之ヲ指定ス  
 買受人已ムヲ得サル事由ニ因リ指定ノ期間內ニ搬出又ハ採取ヲ終ラサルトキハ其ノ出願ニ依リ  
 特ニ延期ヲ許可スルコトアルヘシ  
 第二十九條 產物ノ買受人共ノ搬出者ハ採取又ハ第二十八條ニ規定スル造林障礙物ノ除却ヲ終リ  
 マルトキハ朝鮮總督又ハ地方長官ニ届出ツヘシ  
 第三十條 產物ノ買受人指定ノ期間內ニ搬出又ハ採取ヲ終ラサルトキハ其ノ權利ヲ拋棄シタル  
 モノト看做ス  
 第三十一條 隨意契約ニ依ル產物ノ買受人ハ朝鮮總督又ハ地方長官ノ許可ヲ受クルニ非サレハ搬  
 出若ハ採取未済ノ產物又ハ年期賣却契約ニ依リ生シタル權利ヲ讓渡シ又ハ擔保ニ供スルコトヲ  
 得ス  
 第三十二條 左ノ各號ノ一ニ該當スル場合ニ於テハ朝鮮總督又ハ地方長官ハ森林又ハ其ノ產物ノ  
 賣却契約ヲ解除スルコトアルヘシ

一 指定ノ期間內ニ賣却代金ヲ納付セサルトキ  
 二 第二十三條ノ規定ニ違反シタルトキ  
 三 買受人ニ於テ法令又ハ契約上ノ義務ニ違反シタルトキ  
 前項ノ規定ニ依リ契約ヲ解除シタルトキハ契約保證金ハ國ノ所有ニ歸シ契約保證金ナキトキハ  
 違約金トシテ賣却代金ノ百分ノ十二相當スル金額ヲ徴收ス  
 第三十三條 特ニ用途ヲ定メ國有森林又ハ其ノ產物ノ賣却若ハ讓與ヲ受ケタル者ハ朝鮮總督又ハ  
 地方長官ノ許可ヲ受クルニ非サレハ之ヲ其ノ用途外ニ使用シ又ハ讓渡スルコトヲ得ス  
 前項ノ規定ニ違反シタル場合ニ於テハ違約金トシテ賣却代金ノ半額又ハ物件ノ相當價格ヲ徴收  
 スルコトアルヘシ  
 第三十四條 年期賣却ヲ爲シタル後法令ノ結果又ハ公用若ハ公益上ノ必要ニ依リ朝鮮總督ニ於テ  
 斫伐ノ制限、停止又ハ禁止ヲ爲スコトアルモ買受人ハ異議ヲ述フルコトヲ得ス  
 代金納付済ニ係ル物件ニシテ前項ノ制限、停止又ハ禁止ニ依リ斫伐ヲ爲スコトヲ得サルモノア  
 ルトキハ相當代金ヲ還付シ其ノ物件ハ國ノ所有トス  
 第五章 國有森林ノ入會及保護  
 第三十五條 森林令第八條ノ入會慣行トハ地元住民ノ全部又ハ大部分カ國有森林ノ一定ノ區域ヲ  
 限リ永年部落用又ハ自家用ニ供スヘキ產物ノ採取又ハ放牧ノ用ニ供シタル慣行ヲ謂フ  
 第三十六條 森林令第十條ニ依リ國有森林ノ保護ヲ命セラレタル者ハ左ノ義務ヲ負擔ス  
 一 火災ノ豫防及消防  
 二 盜伐、侵襲其ノ他加害行為ノ豫防及防止  
 三 有害動物ノ加害豫防及驅除  
 四 境界標其ノ他標識ノ保存



五 稚樹ノ保育

六 前各號ノ外森林ノ保護ニ關シ地方長官ノ命令スル事項  
前項ノ義務者ハ地方長官ノ許可ヲ受クルニ非サレハ森林手入ノ爲伐木ニ又ハ生枝ヲ採取スルコトヲ得ス

第三十七條

左ノ各號ノ一ニ該當スル場合ニ於テハ前條ノ義務者ハ直ニ地方長官ニ届出ツヘレ

一 保護スヘキ森林又ハ其ノ立木ニ異狀ヲ生シタルトキ

二 森林手入其ノ他命令セラレタル行爲ヲ終リタルトキ

第三十八條

左ニ掲クル產物ハ第三十六條ノ義務者ノ所得トス

一 枯木、倒木及枯枝

二 森林手入ノ爲伐採スル樹木及枝條

三 土地ノ形質ヲ變セシメテ採取シ得ヘキ副產物

前項ノ外地方長官ハ特ニ自家用者ハ部落用ニ供スヘキ產物ヲ讓與スルコトヲ得

第六章 森林警察

第三十九條

警察官吏森林令第十八條ニ依リ火入ヲ許可シタルトキハ火入許可證ヲ交付スヘレ

前項ノ許可證ハ火入者ニ於テ火入ノ際之ヲ携帯スヘシ

第四十條

火入ノ許可ヲ受ケタル者ハ接近スル森林ノ所有者又ハ管理者ニ對シ豫メ其ノ期日ヲ通知スヘシ

第四十一條

他ニ延燒ノ虞アリト認ムルトキハ警察官吏ハ火入者ニ對シ火入ノ方法若ハ期日ノ變更ヲ命シ又ハ相當ノ設備ヲ爲サシムルコトヲ得

第七章 罰則

第四十二條

左ノ各號ノ一ニ該當スル者ハ百圓以下ノ罰金又ハ科料ニ處ス

一 第十三條第十九條第二十三條又ハ第三十六條第二項ノ規定ニ違反シタル者

二 第十七條第二項 第二十六條 第二十七條又ハ第四十一條ノ命令ニ違反シタル者

三 第二十五條又ハ第三十四條第一項ノ指定 制限 停止又ハ禁止ニ違反シタル者

第四十三條

第十條 第十二條 第十五條 第二十九條 第三十七條 第三十九條第二項又ハ第四十條ノ規定ニ違反シタル者ハ科料ニ處ス

附則

第四十四條

本令ハ森林令施行ノ日ヨリ之ヲ施行ス

第四十五條

國有森林山野及產物處分規則 國有森林山野部分林規則及森林法施行細則ハ之ヲ廢止ス

第四十六條

森林令第二十九條ニ該當スル場合ニ在リテハ貸付料ヲ徵收セス

前項ノ借受人同令第七條ノ讓與ヲ受ケタルトキハ圖面ヲ添附シ朝鮮總督ニ願出ツヘシ

○朝鮮總督府令第七十五號(官報 六月二十六日)

宿泊及居住規則左ノ通定ス

明治四十四年六月二十日

朝鮮總督 伯壽寺內正毅

宿泊及居住規則

第一條

旅店主其ノ他營業ニ依リ他人ヲ宿泊セシメタル者ハ二十四時間内ニ左ノ事項ヲ所轄警察署ヲ通知分署巡査在所又ハ警察署ノ事務ヲ取扱ニ届出ツヘシ營業ニ依ラスシテ他人ヲ宿泊セシメタル者亦同シ

一 宿泊人ノ氏名 本籍 外國人ニ在リテハ住所 職業 年齡

二 前宿泊地

三 到着年月日時



宿泊人共ノ家ヲ去リタルトキハ二十四時間内ニ出發年月日時及行先地ヲ届出ツヘシ

第二條 宿泊者ハ共ノ家ノ主人若ハ管理人ノ請求アルトキハ前條ニ依リ届出ヲ要スル事項ヲ告ケ又ハ主人若ハ管理人ノ交付スル用紙ニ之ヲ記載スヘシ

第三條 一戸ヲ構ヘテ居住シ又ハ一戸ヲ構ヘサルモ二十日以上居住ノ目的ヲ以テ同一府郡内ニ居住スル内地人及外國人ハ自己及其ノ携帶スル家族ニ關シ左ノ事項ヲ記載シ居住ノ日ヨリ十日内ニ所轄警察署ニ届出ツヘシ

- 一 氏名
- 二 本籍及外國人ニ在リテハ國籍
- 三 生年月日
- 四 居住所
- 五 職業
- 六 前居住所
- 七 戸主非戸主ノ別 非戸主ニ在リテハ戸主トシテノ綴柄

前項各號ノ事項ニ變更ヲ生シタルトキハ十日内ニ届出ツヘシ出生、死亡、失踪及國籍ノ喪失アリタルトキ亦同シ

第四條 居住者一戸ヲ構ヘサル場合ニ於テハ之ヲ寄寓セシメタル者又ハ他人ノ家屋ヲ借受ケ一戸ヲ構ヘタル場合ニ於テハ家屋所有者若ハ家屋管理人前條ノ届書ニ連署スヘシ但シ連署ヲ得ルコト能ハサル事情アルトキハ届出人其ノ旨ヲ届書ニ附記スヘシ

第五條 居住所ヲ移轉スルトキハ移轉前又ハ移轉後五日內ニ移轉ノ年月日及移轉先ヲ所轄警察署ニ届出ツヘシ

第六條 第三條及前條ノ届出ハ單身者ニ在リテハ本人、家族携帶者ニ在リテハ戸主又ハ之ニ準ス

ヘキ者ヨリ之ヲ爲スヘシ

前項ノ者共ノ届出ヲ爲スコト能ハサルトキハ家屋又ハ土地ノ管理ヲ爲ス者共ノ事實ヲ知りタル日ヨリ十日内ニ届出ヲ爲スヘシ

第七條 居留民團地域内ニ居住スル内地人ニシテ第三條ニ依リ届出ヲ爲ス場合ニ於テハ居留民團役所ヲ經由スヘシ

第八條 警察署ニハ登録簿ヲ備ヘ第三條及第五條ノ届書ヲ受ケタルトキ共ノ届出事項ヲ登録スヘシ

第九條 何人ト雖前條ノ登録簿ノ閲覧又ハ登録ノ謄本若ハ抄本ノ交付ヲ請求スルコトヲ得登録簿ノ閲覧ヲ請求スル者ハ手数料トシテ十錢謄本又ハ抄本ノ交付ヲ請求スル者ハ一枚ニ付十錢ヲ納ムヘシ共ノ一枚ニ滿テサルモノ亦同シ

前項ノ手数料ハ收入印紙ヲ以テ之ヲ納ムヘシ

第十條 第一條、第三條及第五條ニ依リ届出ヲ要スル事項ニ關シ警察官又ハ憲兵ノ尋問ヲ受ケタル者ハ之ニ答フヘシ

旅券共ノ他國籍ヲ證明スヘキ證書ヲ携帶スル外國人ハ警察官又ハ憲兵ノ請求アルトキハ之ヲ提示スヘシ

第十一條 前條ニ違反シテ警察官又ハ憲兵ノ尋問ニ答ヘス若ハ答フルモ共ノ實ヲ以テセサル者ハ五十圓以下ノ罰金又ハ拘留若ハ科料ニ處ス

第十二條 第一條、第二條又ハ第五條ノ届出ヲ爲サス若ハ届出ヲ爲スモ共ノ實ヲ以テセス又ハ第二條若ハ第四條ニ違反シタル者ハ拘留又ハ科料ニ處ス

附則

本令ハ明治四十四年七月十五日ヨリ之ヲ施行ス



本令施行ノ際現ニ居住ノ外國人及未タ居留規則ニ依ル居住ヲ爲ササル内地人ニ付テハ第三條及第五條ノ屆出期間ハ本令施行ノ日ヨリ之ヲ起算ス

○朝鮮總督府令第七十六號(官報六月二十七日) 朝鮮警察賞與規程左ノ通定ス

明治四十四年六月二十一日

朝鮮總督 伯爵寺內正毅

朝鮮警察賞與規程

第一條 警察賞與ハ左ノ各號ノ一ニ關シ特ニ功勞アリト認ムル者ニ對シ之ヲ行フ

一 逃走囚人又ハ刑事被告人ノ搜索及逮捕

二 匪賊ノ討伐、搜索及警戒

三 人命救護

四 水火災、惡疫流行其ノ他天災事變ニ對スル防禦救濟

五 急遽ノ際警察官又ハ其ノ職務ヲ行フ者ノ請求ニ應シテ爲シタル補助

第二條 警察官又ハ其ノ職務ヲ行フ者ニ對シテハ其ノ功勞特ニ顯著ナルトキニ限り賞與ヲ行フモ

第三條 警察賞與ヲ分チテ左ノ三種トス

一 五十圓以上五百圓以下ノ特別賞與

二 五十圓以下ノ賞與

三 賞狀

第四條 第一條第一號ノ賞與ハ犯罪ノ事實明白ナリト認ムヘキトキハ確定判決ニ至リサル場合ト雖之ヲ行フコトヲ得

第五條 功勞者賞與ヲ受クルニ至ラズシテ死亡シ又ハ所在不明ナルトキハ賞與物件ハ左ノ順序ニ

從ヒ之ヲ最近親族ニ給ス但シ同順位ノ者二人以上アルトキハ男ハ女ニ先チ長ハ幼ニ先ツ

一 配偶者

二 同一ノ家ニ在ル直系昇屬

三 同一ノ家ニ在ル直系尊屬

四 同一ノ家ニ在ル兄弟姊妹

第六條 左ノ各號ノ一ニ該當スル場合ニ於テハ賞與ヲ行ハス

一 功勞者賞與前ニ於テ禁錮以上ノ刑ニ處セラレ又ハ警察官若ハ其ノ職務ヲ行フ者懲戒處分ニ依リ官職ヲ免セラレタルトキ

二 警察官又ハ其ノ職務ヲ行フ者其ノ看守中又ハ押送中逃走シタル犯罪人ヲ逮捕シタルトキ

第七條 警察賞與ハ警務總長之ヲ施行ス

附則

本令ハ發布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

本令ハ本令施行前ノ行爲ニ付亦之ヲ適用ス

○朝鮮總督府令第七十七號(官報六月二十七日) 濟生院規程左ノ通定ス

明治四十四年六月二十一日

朝鮮總督 伯爵寺內正毅

濟生院規程

第一條 濟生院ハ朝鮮總督ノ監督ニ屬シ孤兒ノ養育、盲啞者ノ教育及瘋癲者ノ救療ヲ行フ

第二條 濟生院ハ之ヲ京城ニ置ク

前項ノ外必要ニ應シ地方ニ分院又ハ派出所ヲ設クルコトヲ得



第三條 濟生院ニ院長、評議員、主事、其ノ他必要ナル職員ヲ置キ、其ノ定員ハ別ニ之ヲ定ム。院長、評議員及主事ハ朝鮮總督之ヲ命シ、其ノ他ノ職員ノ進退ハ朝鮮總督ノ認可ヲ受ケ、院長之ヲ行フ。

第四條 濟生院ノ經費ハ基本財産ヨリ生スル收入及、其ノ他ノ收入ヲ以テ之ニ充ツ。

第五條 濟生院ハ寄附ヲ受クルコトヲ得。

第六條 基本財産ハ土地、建物、國債證券又ハ確實ナル有價證券若ハ銀行預金トシテ之ヲ保管スヘシ。

基本財産ハ朝鮮總督ノ認可ヲ受クルニ非サレハ之ヲ處分スルコトヲ得ス。

第七條 院長ハ毎會計年度歲入歳出豫算ヲ編製シ、年度前朝鮮總督ノ認可ヲ受クヘシ。豫算追加又ハ更正ヲ爲サムトスルトキ亦同シ。

院長ハ毎會計年度歲入歳出決算ヲ其ノ年度後三月以内ニ朝鮮總督ニ報告スヘシ。

前二項ノ會計年度ハ政府ノ會計年度ニ依ルヘシ。

第八條 本規程ノ施行ニ關シ必要ナル事項ハ朝鮮總督ノ認可ヲ受ケ、院長之ヲ定ム。

○臺灣總督府令第四十一號（官報六月五日）

臺灣帽子検査規則左ノ通相定ム。

明治四十四年五月二十五日 臺灣總督 伯爵佐久間左馬太

臺灣帽子検査規則

第一條 本島ニ於テ製造シタル林投帽及大甲帽ヲ營利ノ目的ヲ以テ本島外ニ搬出セムトスル者ハ検査手数料ヲ添ヘ、検査所ニ請求シ、検査ヲ受クヘシ。

検査所ノ名稱、位置、検査手数料、額及検査證ノ色ハ之ヲ告示ス。

第二條 検査ハ検査所所在地ニ於テ検査員之ヲ行フ。  
第三條 検査ハ請求ノ順序ニ依リ、毎日晝間之ヲ行フ。  
第四條 検査ハ左ノ事項ニ就キ臺灣總督府ノ定ムル標本ニ依リ之ヲ行フ。  
林投帽

- 一 原料
- 二 漂白
- 三 形狀
- 四 編方
- 五 耳組
- 大甲帽
- 一 原料
- 二 色台
- 三 形狀
- 四 編方
- 五 耳組

第五條 前條ノ検査ニ於テ合格シタルモノニハ別記第一號離形ノ合格證ヲ、不合格ノモノニハ別記第二號離形ノ不合格證ヲ各帽體ノ裏面ニ貼附シ、別記第三號離形ノ検査所印ヲ捺捺ス。

第六條 検査ヲ結了シタルトキハ検査請求人ハ直ニ現品ヲ引取ルヘシ。

第七條 検査済ノ帽子ト雖必要ト認マル場合ニ於テハ再検査ヲ行フコトアルヘシ。

第八條 再検査ニ對シテハ不服ヲ申立ツルコトヲ得ス。

第九條 再検査ニ於テ前検査ヲ取消シタルトキハ別記第四號離形ノ消印ヲ爲シ、更ニ第五條ノ手續ヲ行フ。



第十條 左ノ各號ノ一ニ該當スル者ハ二百圓以下ノ罰金ニ處ス  
 一 第一條第一項ノ規定ニ違反シタル者  
 二 第七條ノ再検査ヲ拒ミタル者  
 三 検査證ヲ除去シタル林投帽及大甲帽ヲ本島外ニ搬出シタル者  
 附則  
 本令ハ發布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

第一號雛形

縦八分七厘五毛 横七分二厘五毛



第二號雛形

縦八分五厘 横七分



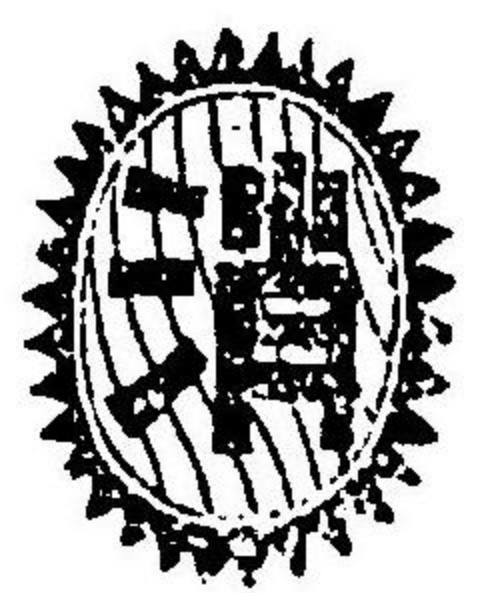
第三號雛形

直径七分七厘五毛



第四號雛形

直径七分五厘 短徑六分



○臺灣總督府令第四十二號 (官報 六月十日)  
 臺灣飲食物防腐劑取締規則左ノ通相定ム  
 明治四十四年六月二日

臺灣總督 伯爵佐久間左馬太

臺灣飲食物防腐劑取締規則

第一條 本令ニ於テ防腐劑ト稱スルハ左ニ掲グル物質、其ノ化合物及之ヲ含有スルモノヲ謂フ  
 「安息香酸、硼酸、クロール」酸、「フルオール」水素、「フォルムアルデヒド」、「昇汞、亞硫酸、次亞硫酸、  
 「サリチール」酸、「チモール」  
 第二條 販賣ノ用ニ供スル飲食物ノ製造又ハ貯藏ニ防腐劑ヲ使用スルコトヲ得ス  
 防腐劑ヲ使用シタル飲食物ハ之ヲ販賣シ又ハ販賣ノ目的ヲ以テ陳列シ若ハ貯藏スルコトヲ得ス  
 第三條 第一條ニ掲グルモノハ飲食物ノ防腐劑ト稱シテ販賣シ又ハ其ノ目的ヲ以テ製造シ若ハ貯  
 藏スルコトヲ得ス  
 第四條 廳長ハ第二條、第三條ノ物品ニ關シテハ明治二十三年法律第十五號第一條ニ依リ處分  
 ルコトヲ得本令ニ違反シタル營業者ニ關シテ亦同シ  
 第五條 第二條、第三條ニ違反シタル者ハ百圓以下ノ罰金又ハ拘留若ハ科料ニ處ス  
 第六條 營業者カ無能力者又ハ法人ナルトキハ本令ノ規定ニ依リ營業者ニ適用スヘキ罰則ハ之ヲ  
 營業者ノ代理人、戶主、家族、同居者、雇人、其ノ他ノ從業者ニシテ其ノ業務ニ關シ本令ノ規定ニ違反  
 シタルトキハ營業者ノ指揮ニ出テサルモノト雖本令ノ罰則ハ之ヲ營業者ニ適用ス  
 附則  
 本令ハ明治四十四年六月十五日ヨリ之ヲ施行ス  
 左ノ各號ノ場合ニハ明治四十九年九月末日迄本令ノ規定ヲ適用セス











蘇荳楠梓坑間	三十五錢	十	錢	潭裡二苓庄間	三十五錢	十	錢	噶吧嘰阿羅間	四十五錢	十	錢
蘇荳鳳山間	三十五錢	十	錢	潭裡同安間	四十錢	十	錢	噶吧嘰鳳山間	三十五錢	十	錢
總爺噶吧嘰間	二十錢	十	錢	噶吧嘰大目降間	三十五錢	十	錢	大日降二苓庄間	三十五錢	十	錢
總爺大目降間	二十錢	十	錢	噶吧嘰檳仔嶼間	三十五錢	十	錢	檳仔嶼東港間	三十五錢	十	錢
總爺楠梓坑間	三十五錢	十	錢	噶吧嘰楠梓坑間	三十五錢	十	錢	楠梓坑東港間	三十五錢	十	錢
總爺蘇荳間	四十五錢	十	錢	噶吧嘰蘇荳間	四十五錢	十	錢	甲仙埔二苓庄間	三十五錢	十	錢
總爺鳳山間	三十五錢	十	錢	噶吧嘰打狗間	三十五錢	十	錢	甲仙埔東港間	三十五錢	十	錢
總爺大目降間	三十五錢	十	錢	噶吧嘰鳳山間	三十五錢	十	錢	二苓庄東港間	三十五錢	十	錢
潭裡鳳山間	三十五錢	十	錢	噶吧嘰二苓庄間	三十五錢	十	錢				

○臺灣總督府令第四十四號(官報六月十七日)  
 明治三十七年十一月府令第八十五號電話料及電話呼出料中左ノ通改正ス  
 本令ハ明治四十四年六月十日ヨリ之ヲ施行ス

中盤新竹間	四十五錢	十	錢	東港打狗間	二十五錢	十	錢	臺灣總督	伯耆佐久間左馬太		
東港新竹間	四十五錢	十	錢	東港番薯間	二十五錢	十	錢	臺北東水港間	八十五錢	十	錢
東港鳳山間	四十五錢	十	錢	長打嶼新竹間	六十五錢	二十	錢	臺北新榮庄間	八十五錢	十	錢
								臺北瀨間	九十錢	十	錢

○朝鮮總督府令第七十八號(官報七月三日)  
 朝鮮總督府留學生規程ノ通定

明治四十四年六月二十七日

朝鮮總督 伯耆寺内正毅

- 朝鮮總督府留學生規程
- 第一條 官費留學生ハ特ニ内地留學ヲ必要トスル學術技藝ヲ履修セシムル爲朝鮮總督ノ指定スル官立若ハ公立ノ學校、傳習所又ハ講習所ノ卒業者ニシテ校長若ハ所長ノ推薦ニ係ル品行方正、學力優等、身體健全ナル者ニ付朝鮮總督之ヲ命ス
  - 朝鮮總督ハ必要アリト認ムルトキハ前項以外ノ者ニ付品行、學力及身體ノ檢定ヲ行ヒ官費留學生ヲ命スルコトアルヘシ
  - 第二條 官費留學生ノ履修學科、入學スヘキ學校及留學期間ハ朝鮮總督之ヲ指定ス
  - 第三條 官費留學生ヲ命セラレタル者ハ七日以内ニ第一號書式ノ誓約書ヲ提出シ二十日以内ニ内地ニ向ケ出發スヘシ
  - 官費留學生内地ニ到着シタルトキハ遲滞ナク之ヲ留學生監督ニ届出ツヘシ
  - 第四條 官費留學生ニハ別表ニ依リ學費、往復旅費、支度料及滞在費ヲ支給ス
  - 前項ノ外官費留學生ニハ修學旅行費、入學又ハ轉學ニ要スル旅費共ノ他必要ナル費用ヲ支給スルコトアルヘシ
  - 第五條 學費ハ學校納付金、寄宿料、被服費及學用品費ニ之ヲ分チ學校納付金ハ實費共ノ他ハ留學生監督ニ於テ學校ノ種類及學校所在地ノ狀況ニ依リ朝鮮總督ノ認可ヲ受ケ定額ヲ定メテ之ヲ支給ス
  - 學費ハ入學ノ日ヨリ留學期間満了ノ日迄之ヲ支給ス但シ學校ノ休業中又ハ父母ノ授ニ因リ歸郷シタル場合ヲ除クノ外歸郷シタル期間ハ學費ヲ支給セス



學校ノ休業中歸郷シタル者ニシテ始業期日迄ニ歸校セス又ハ父母ノ喪ニ因リ歸郷シタル者ニシテ三十日ヲ經過シ歸校セサルトキハ同期日後歸校ノ日ニ至ル迄學費ヲ支給セス

第六條 左ノ各號ノ一ニ該當スル場合ニ於テハ往復旅費ヲ支給ス

- 一 官費留學生ヲ命セラレ内地ニ向ケ出發スルトキ
- 二 留學期間満了レ歸郷スルトキ
- 三 第十三條第三號ニ依リ官費留學生ヲ免セラレ二十日以内ニ内地ヲ出發シ歸郷スルトキ

第七條 官費留學生ヲ命セラレ内地ニ向ケ出發スルトキハ支度料ヲ支給ス

第八條 左ノ場合ニ於テハ滞在費ヲ支給ス

- 一 内地到著ノ日ヨリ入學ノ前日迄
- 二 留學期間満了シ歸郷スル場合ニ於テ留學期間満了ノ翌日ヨリ留學地出發ノ前日迄

第九條 修學旅行費、入學及轉學ニ要スル旅費其ノ他必要ナル費用ハ留學生監督ニ於テ相當ト認ムル額ヲ定メテ之ヲ支給ス

第十條 官費留學生ハ其ノ居所若ハ氏名ノ變更又ハ身分ノ異動アリタルトキハ遲滞ナク之ヲ留學生監督ニ届出ツヘシ

第十一條 前條ノ場合ヲ除クノ外官費留學生ハ留學地ヲ離レ又ハ休學スルコトヲ得ス

學校ノ休業中旅行其ノ他ノ事故ニ依リ留學地ヲ離レムトスルトキ又ハ疾病其ノ他已ムヲ得サル事故ニ依リ休學セムトスルトキハ期間ヲ豫定シ留學生監督ノ承認ヲ受クヘシ其ノ期間ヲ延長セムトスルトキ亦同シ

第十二條 官費留學生ヲ辭セムトスルトキハ其ノ事由ヲ具シ留學生監督ヲ經由シテ朝鮮總督ノ許可ヲ受クヘシ

朝鮮總督ニ於テ前項ニ依リ許可ヲ與ヘタルトキハ其ノ情狀ニ從ヒ既ニ給與シタル學費、往復旅

費、支度料及滞在費ノ全部又ハ一部ヲ償還セシムルコトアルヘシ

第十三條 官費留學生ニシテ左ノ各號ノ一ニ該當スル場合ニ於テハ朝鮮總督ハ官費留學生ヲ免シ且第一號及第二號ノ場合ニ於テハ既ニ給與シタル學費往復旅費、支度料及滞在費ノ全部又ハ一部ヲ償還セシム

- 一 品行不良ニシテ留學生タル體面ヲ汚辱スヘキ行爲アリタルトキ
- 二 監督官憲ノ命令ニ服從セス又ハ學校ノ規定ニ違反シ其ノ情狀重キトキ
- 三 疾病ノ爲又ハ學業ノ成績不良ニシテ成業ノ見込ナシト認メタルトキ

第十四條 官費留學生留學期間満了シタルトキハ其ノ翌日ヨリ二十日以内ニ留學地ヲ出發シ歸郷スヘシ

官費留學生歸郷セムトスルトキハ留學地出發前留學生監督ニ届出テ歸郷シタルトキハ遲滞ナク第二號書式ノ留學始末書ヲ添附シ朝鮮總督ニ届出ツヘシ

第十五條 官費留學生ハ留學期間満了後其ノ留學期間ト同一期間朝鮮總督ノ指定スル職務ニ従事スル義務ヲ有ス

前項ノ義務ヲ盡ササルトキハ既ニ給與シタル學費、往復旅費、支度料及滞在費ノ全部又ハ一部ヲ償還セシム

第十六條 留學生監督ハ朝鮮總督ノ命ヲ承ケ官費留學生及私費留學生ヲ保護監督ス

第十七條 私費ヲ以テ内地ニ留學セムトスル者ハ豫メ其ノ履修學科、入學スヘキ學校、入學及出發ノ時期ヲ具シ履修書ヲ添附シ地方長官ヲ經由シテ朝鮮總督ニ届出ツヘシ

第十八條 私費留學生内地ニ到着シタルトキハ其ノ居所、履修學科、入學スヘキ學校、入學時期ヲ具シ履修書ヲ添附シ留學生監督ニ届出ツヘシ

留學生監督前項ノ届出ヲ受ケ適當ト認メタルトキハ其ノ入學スヘキ學校長ニ對シ入學ノ手續ヲ



爲スヘシ

前二項ノ規定ハ私費留學生履修學科若ハ入學スヘキ學校ヲ變更シ又ハ退學若ハ轉學セムトスル場合ニ之ヲ準用ス

第十九條 第十條ノ規定ハ私費留學生ニ之ヲ準用ス

第二十條 私費留學生卒業シタルトキハ履歷書 學業成績表ヲ添附シ留學生監督ニ届出ツヘシ

第二十一條 留學生監督ハ朝鮮總督ノ認可ヲ受ケ留學生ノ監督ニ關スル細則ヲ設クルコトヲ得

附則

第二十二條 本令ハ明治四十四年八月一日ヨリ之ヲ施行ス

第二十三條 學部所管日本國留學生規程ハ之ヲ廢止ス

第二十四條 本令施行ノ際官費留學生タル者ハ本令ニ依ル官費留學生ト看做ス但シ學費支給ニ付テハ當分ノ内從前ノ規定ニ依ルコトヲ得

第二十五條 本令施行ノ際現ニ内地ニ在學スル私費留學生ハ明治四十四年十月末日迄ニ其ノ居

所學校履修學科及履歷書ヲ留學生監督ニ届出ツヘシ

(別表)

往復旅費	支度料	學費	滞在費
片道 三十圓以内	二十四	一年 三百圓以内	一日 七十圓

第一號書式

誓約書

族籍

某長(次男) 氏

名 生年月日

右者今般朝鮮總督府官費留學生ヲ命セラレ候ニ付テハ朝鮮總督府留學生規程ヲ遵守シ熱心勉學致スヘキハ勿論卒業後ノ上ハ御指定ノ職務ニ服シ可申且本人同規程ニ依リ既ニ御給與相成候學費資金等償還ヲ命セラレ候場合ニ於テハ本人及保證人連帶ノ上速ニ償還可致候仍テ誓約書提出候也

年 月 日

住所

留學生 氏 名印

住所職業

本人トノ關係 保證人 氏 名印

住所職業

本人トノ關係 保證人 氏 名印

朝鮮總督宛

第二號書式

留學始末書

何年何月受命朝鮮總督府官費留學生

履修學科何科 氏 名

生年月日

一 往返發着

出發 何年何月何日何地ヲ發シ何月何日何港ヲ解纜ス(何月何日ヨリ何月何日迄何事由ニ因リ何地ニ歸留)

到着 何年何月何日何地ニ投錨シ何月何日何地ニ到着ス

出發 何年何月何日何學校ヲ卒業シ(疾病若ハ學業ノ成績不其ニ因リ歸郷ヲ命セラレ又ハ何事故ニ因リ歸郷ノ許可ヲ受ケ)

歸郷 何年何月何日何港ニ投錨シ何月何日何地ニ歸着ス

一 修學状況

入學 何年何月何日何地官(公、私)立何學校何科第何學年ニ入學ス

轉學 何年何月何日何事故ニ因リ何地官(公、私)立何學校何科第何學年ニ轉學ス

退級 何年何月何日第何學年ニ退級ス



卒業 何年何月何日何地官(公私)立何學校何科ヲ卒業ニ在學中研修シタル學科目ハ左記ノ如シ  
 旅行及休學 何年何月何日ヨリ何月何日迄何處ニ旅行シ何月何日歸者ス  
 何年何月何日ヨリ何月何日迄何病ニテ治療ノ爲何地何病院ニ入院ス  
 何年何月何日ヨリ何月何日迄疾病又ハ何事故ニ因リ休學ス  
 一 褒賞及卒業證書  
 褒賞 何年何月何日何學校第何學年修業ノ際成績優等ニ依リ賞狀又ハ何賞品ヲ受ケ  
 證書 卒業證書(卒業證書ナキ者ハ修業證書)ノ謄本ハ左記ノ如シ  
 一 前項以外ノ重要事項  
 何何  
 右ノ通相違無之候也  
 年 月 日

朝鮮總督宛

○朝鮮總督府令第七十九號(宣報七月四日)

朝鮮人判任文官試驗規則左ノ通定ム

明治四十四年六月二十八日

朝鮮總督 伯爵寺內正毅

第一條 朝鮮人ニシテ本令ニ定ムル試驗ニ合格シタル者ハ朝鮮總督府及所屬官署ノ判任文官タルノ資格ヲ有ス

第二條 試驗ハ朝鮮總督府文官普通試驗委員之ヲ行フ  
 試驗ヲ行フヘキ期日、場所及試驗科目ハ豫メ朝鮮總督府官報及新聞紙ニ公告ス

第三條 左ノ各號ノ一ニ該當スル者ハ試驗ヲ受クルコトヲ得ス  
 一 禁錮又ハ禁獄以上ノ刑ニ處セラレタル者

住所

氏名印

二 身代限ノ處分ヲ受ケ債務ノ辨償ヲ終ヘサル者  
 三 素行修マラサル者

第四條 受験志願者ハ願書ニ履歷書ヲ添ヘ公告シタル期日迄ニ之ヲ文官普通試驗委員長ニ差出ス  
 ヘシ但シ身分、職業及年齢ニ關スル警察官署ノ證明書ヲ添附スルコトヲ要ス

第五條 受験出願者ハ手数料トシテ一圓ヲ納ムヘシ但シ手数料ハ收入印紙ヲ用非之ヲ願書ニ貼付スヘシ

第六條 不正ノ方法ニ依リ試驗ヲ受ケタル者及試驗ニ關スル規定ニ違反シタル者ハ其ノ期ノ試験ヲ受クルコトヲ得ス事後其ノ事實發覺シタルトキハ其ノ合格ヲ無効トス

第七條 試驗ハ筆記試験及口述試験ノ二種トス

筆記試験ニ合格シタル者ニ非サレハ口述試験ヲ受クルコトヲ得ス

第八條 筆記試験ハ左ニ列記シタルモノノ中五科目以上ニ就キ之ヲ行フ

- 一 國語 會話
  - 二 現行法制 大要
  - 三 讀書 白文訓點並釋義
  - 四 作文 假名交リ文
  - 五 筆寫 楷行草
  - 六 數學 珠算筆算
  - 七 歷史 本邦歷史ノ大要
  - 八 地理 本邦及外國地理ノ大要
- 口述試験ハ前項ニ列記シタルモノノ中一科目以上ニ就キ之ヲ行フ



第九條 試驗合格者ヲ定ムルハ文官普通試驗委員ノ決定スル所ニ依ル  
 試驗ニ合格シタル者ニハ合格證書ヲ付與ス  
 第十條 試驗合格者ノ氏名ハ朝鮮總督府官報ヲ以テ之ヲ公示ス  
 第十一條 試驗科目ノ程度ハ文官普通試驗委員長之ヲ定ム  
 ○朝鮮總督府令第八十號(官報七月四日)  
 土地收用令施行規則左ノ通定ム

明治四十四年六月二十九日

朝鮮總督 伯爵寺內正毅

土地收用令施行規則

第一條 土地收用令第五條ノ申請ヲ爲ス爲必要アルトキハ起業者ハ事業ノ種類及立入ルヘキ土地ノ區域ヲ定メ地方長官ノ許可ヲ得テ其ノ土地ニ立入リ測量又ハ調査ヲ爲スコトヲ得但シ宮内省又ハ國ノ起業者係ルトキハ宮内大臣又ハ主務官廳ハ之ヲ地方長官ニ通知スヘシ  
 土地收用令第四條第二項ノ公告アリタル後起業者事業ノ準備ノ爲其ノ土地ニ立入リ測量又ハ調査ヲ爲ス場合ニ於テハ前項ノ許可又ハ通知ヲ要セス  
 第二條 地方長官前條第一項ノ許可ヲ與ヘ又ハ通知ヲ受ケタルトキハ直ニ起業者事業ノ種類及立入ルヘキ土地ノ區域ヲ公告シ又ハ之ヲ其ノ土地ノ占有者ニ通知スヘシ  
 第三條 起業者土地ニ立入リ測量又ハ調査ヲ爲サムトスルトキハ立入ルヘキ日時及場所ヲ豫メ其ノ土地占有者ニ通知スヘシ  
 日出前日没後邸内ニ立入リテ測量又ハ調査ヲ爲ス場合ニ於テハ占有者ノ承諾ヲ受クヘシ  
 第四條 起業者測量又ハ調査ノ爲必要アルトキハ障害物ヲ除却スルコトヲ得此ノ場合ニ於テハ起業者ハ豫メ其ノ所有者及占有者ニ通知スヘシ  
 第五條 起業者土地ニ立入リ測量又ハ調査ヲ爲シ又ハ障害物ヲ除却スル場合ニ於テハ地方長官ヨ

リ受ケタル證書ヲ携帶スヘシ

第六條 土地ニ立入リ測量若ハ調査ヲ爲シ又ハ障害物ヲ除却スルニ因リテ他人ニ及ホシタル損失ハ起業者之ヲ補償スヘシ  
 前項ノ補償ニ付協議調ハサルトキハ地方長官之ヲ決定ス  
 第七條 土地收用令第五條ノ申請又ハ協議ニハ事業計畫書、收用又ハ使用スヘキ土地ノ細目調査及圖面ヲ添附スヘシ  
 第八條 土地收用令第六條ノ認定ヲ受ケムトスルトキハ事業ノ種類、使用スヘキ土地ノ區域及使用ノ期間ヲ定メ府尹又ハ郡守ニ申請ヲ爲スヘシ  
 府尹又ハ郡守認定ヲ爲シタルトキハ起業者事業ノ種類、使用スヘキ土地ノ區域及使用ノ期間ヲ土地ノ所有者及占有者ニ通知スヘシ  
 第九條 土地收用令第四條ノ公告アリタル後事業ヲ廢止變更シタルニ因リ土地ヲ收用又ハ使用スル必要ナキニ至リタルトキハ起業者ハ地方長官ヲ經由シ之ヲ朝鮮總督ニ届出ツヘシ  
 朝鮮總督前項ノ届出ヲ受ケタルトキハ之ヲ公告ス  
 第十條 起業者土地收用令第九條ノ規定ニ依リ裁決ヲ求メムトスルトキハ其ノ申請書ニ左ノ書類ヲ添附スヘシ但シ軍機ニ關スル事業ニ付テハ第一號ノ書類ハ之ヲ添附スルコトヲ要セス  
 一 事業計畫書及圖面  
 二 面別ニ左ノ事項ヲ記載シタル書類  
 收用又ハ使用スヘキ土地ノ位置、地目  
 收用又ハ使用スヘキ土地ノ面積及其ノ土地ニ在ル物件ノ種類、數量但シ土地、物件カ分割ヲ來スヘキ場合ニ於テハ其ノ全部ノ面積、建坪等ヲ併記スヘシ  
 損失補償ノ見積金額及内譯



收用ノ時期又ハ使用ノ時期、期間

關係人ノ氏名、住所

地方長官前項ノ書類ヲ受ケタルトキハ直ニ之ヲ公告スヘシ

第十一條 關係人ハ前條第二項ノ公告アリタル日ヨリ三十日內ニ地方長官ニ意見書ヲ差出スコトヲ得

第十二條 地方長官ハ前條ノ期間ヲ經過シタル後二週間內ニ裁決ヲ爲スヘシ

前項ノ期間內ニ裁決ヲ爲スコト能ハサル事由アルトキハ朝鮮總督ハ地方長官ノ申請ニ依リ其ノ期間ヲ延長スルコトアルヘシ

第十三條 土地收用令第九條ノ裁決又ハ同第十條及本令第六條第二項ノ決定ハ文書ヲ以テ之ヲ爲シ且理由ヲ附スヘシ

第十四條 地方長官裁決又ハ決定ヲ爲シタルトキハ裁決書又ハ決定書ノ謄本ヲ起業者及關係人ニ送達スヘシ

第十五條 起業者又ハ關係人土地收用令第十二條ノ規定ニ依リ裁定ヲ求メタルトキハ裁決又ハ決定ヲ爲シタル地方長官ヲ經由シ朝鮮總督ニ申請スヘシ

前項ノ場合ニ於テ地方長官ハ其ノ意見ヲ附シ關係書類ヲ朝鮮總督ニ提出スヘシ

第十六條 鑑定人及事實參考人ノ旅費及手當ハ左ノ範圍內ニ於テ地方長官之ヲ定ム

汽車賃 一哩四錢以上十錢以下

船賃 一海里五錢以上十五錢以下

車馬賃 一里三十錢以上七十錢以下

手當 一日六十錢以上六圓以下

第十七條 土地收用令第六條ニ依リ認定スヘキ事業ニシテ二以上ノ府郡ニ跨ルトキハ關係府尹、

郡守協議ノ上之ヲ處分スヘシ協議調ハサルトキハ地方長官ノ指揮ヲ受クヘシ

裁決又ハ決定ヲ爲スヘキ事業ニシテ二以上ノ道ニ跨ルトキハ關係地方長官協議ノ上之ヲ處分スヘシ協議調ハサルトキハ朝鮮總督ノ指揮ヲ受クヘシ

第一項ニ依リ地方長官指揮ヲ爲スヘキ場合ニ於テ其ノ事業二以上ノ道ニ跨ルトキ亦前項ニ同シ

第十八條 起業者カ第一條ノ規定ニ違反シテ土地ニ立入りタル者ハ三十圓以下ノ罰金又ハ科料ニ處ス

第十九條 土地收用令第四條ノ公告ハ朝鮮總督府官報ヲ以テ之ヲ爲シ本令ニ依リ地方長官ノ爲スヘキ公告ハ道報ヲ以テ之ヲ爲シ且地方官廳ノ揭示場及適當ノ場所ニ揭示シテ公衆ノ縦覧ニ供スヘシ

○朝鮮總督府令第八十一號(官報 七月四日)

國有未墾地利用法施行規則左ノ通定ム

明治四十四年六月二十九日

朝鮮總督 伯爵寺內正毅

國有未墾地利用法施行規則

第一條 開墾、牧畜又ハ植樹ノ爲國有未墾地ノ貸付ヲ受ケタル者豫定ノ事業ヲ成功シタルトキハ其ノ土地ヲ之ニ付與ス但シ土地ノ狀況其ノ他特別ノ事由ニ依リ拂下ノ必要アリト認ムルモノハ此ノ限ニ在ラス

公共ノ利益ト爲ルヘキ事業ノ爲貸付ヲ受ケタル者又ハ農民若ハ漁民ノ居住ノ爲貸付ヲ受ケタル者豫定ノ事業ヲ成功シタルトキハ其ノ土地ヲ之ニ付與ス

第二條 前條ニ規定スル場合ヲ除クノ外國有未墾地ノ貸付ヲ受ケタル者豫定ノ事業ヲ成功シタルトキハ其ノ土地ヲ之ニ拂下ク

第三條 貸付ヲ受ケタル者豫定ノ事業ヲ成功セサル場合ト雖土地ノ整理上支障ナシト認ムルトキ



- ハ其ノ成功シタル部分ニ限リ付與又ハ拂下ヲ爲スコトアルヘシ
- 第四條 貸付地中道路、溝渠、物揚場等公共ノ用ニ供スヘキ部分ハ貸付ノ際豫メ之ヲ指定シ事業成功ノ後無償ニテ返還セシムルコトアルヘシ
- 第五條 貸付ニ依リ從來其ノ土地ニ關シ利害關係ヲ有スル者ニ損害アリト認ムルトキハ貸付ヲ受クル者ニ對シ其ノ損害補償ノ條件ヲ附スルコトアルヘシ
- 第六條 公用又ハ公共ノ利益ト爲ルヘキ事業ニ供スル爲必要アリト認ムルトキハ貸付地ノ一部若ハ全部ヲ返還セシムルコトアルヘシ
- 前項ノ場合ニ於テ返還地ヲ使用スル者ハ貸付ヲ受ケタル者ニ其ノ直接ニ受クヘキ損害ヲ補償スヘシ
- 返還地ニ工作物其ノ他ノ物件存在スルトキハ其ノ移轉料ヲ補償シ又ハ之ヲ買收スヘシ
- 第七條 前二條ノ補償又ハ買收ノ金額ニ付當事者間ニ協議調ハサルトキハ朝鮮總督之ヲ裁定ス
- 第八條 國有未墾地ノ貸付ハ一出願ニ付百町歩ヲ超ユルコトヲ得ス但シ特別ノ事由アルトキハ此ノ限ニ在ラス
- 第九條 貸付ヲ受ケムトスル者ハ願書ニ左ノ書類及圖面ヲ添附シ朝鮮總督ニ願出ツヘシ
  - 一 出願地及鄰接地ノ現形圖
  - 二 事業計畫書
  - 三 事業豫定圖
  - 四 面積百町歩以上ノ貸付ヲ受ケムトスルトキハ其ノ事由書
  - 五 成功ノ後拂下ヲ受ケムトスル土地ニ付テハ拂下價格並代金納付ノ方法
- 第十條 出願地及鄰接地ノ現形圖ニハ左ノ事項ヲ示スヘシ
  - 一 出願地ノ境界

- 二 出願地ノ種類、各種類ノ形狀
  - 三 出願地及鄰接地ノ狀況(耕地、人家、道路、河川、池沼、堤塘、橋梁等)
  - 四 道府郡、面、洞、里ノ境界及其ノ名稱
  - 五 水流ノ方向
  - 六 方位
- 第十一條 事業計畫書ニハ左ノ事項ヲ記載スヘシ
- 一 利用ノ目的
  - 二 事業ノ設計
  - 三 事業ノ收支豫算
  - 四 貸付ヲ受ケムトスル期間
  - 五 毎年事業ヲ成功スヘキ土地ノ種類及其ノ面積
  - 六 開墾ノ爲貸付ヲ受ケムトスルモノニ付テハ自作開墾又ハ小作開墾ノ別及小作開墾ナルトキハ小作開墾者トノ主ナル權利義務
- 第十二條 事業豫定圖ニハ左ノ事項ヲ示スヘシ
- 一 第十條第一號及第三號乃至第六號ノ事項
  - 二 計畫ニ基ク土地ノ種類及形狀
  - 三 土地ノ一部カ小作開墾ナル場合ニ於テハ其ノ部分
- 第十三條 二人以上共同シテ貸付ヲ受ケムトスル者又ハ貸付ヲ受ケタル者ハ代表者一人ヲ定メ朝鮮總督ニ届出ツヘシ之ヲ變更シタルトキ亦同シ
- 第十四條 貸付ヲ受ケムトスル者又ハ貸付ヲ受ケタル者朝鮮ニ住所ヲ有セサルトキハ假住所ヲ定メ朝鮮總督ニ届出ツヘシ之ヲ變更シタルトキ亦同シ



二八以上共同シテ貸付ヲ願出テ又ハ貸付ヲ受ケタル場合ニハ前項ノ規定ハ其ノ代表者ニ限り之ヲ適用ス

第十五條 貸付ニ關シ必要アルトキハ期間ヲ指定シ出願者ヲシテ出願地ノ實測圖ヲ提出セシムルコトアルヘシ

實測圖ニハ第十條各號ノ事項ヲ詳細ニ示スヘシ

第十六條 貸付ヲ許可シタルトキハ許可書ヲ下附ス

許可書ニハ貸付地ノ付與又ハ拂下ヲ爲スコト、拂下價格及第四條ニ依リ返還セシムヘキ土地其ノ他必要ナル事項ヲ明記ス

第十七條 貸付ヲ受ケタル者ハ許可ノ日ヨリ二月以内ニ其ノ土地ノ境界ニ標識ヲ建設スヘシ

標識ニハ貸付許可ノ年月日及其ノ許可ヲ受ケタル者ノ氏名住所ヲ記載スヘシ

第十八條 貸付料ハ一町歩ニ付一年五十錢トス一町歩ニ滿タサル端數ハ之ヲ一町歩トシテ計算ス但シ特別ノ事由アルトキハ其ノ貸付料ヲ増減スルコトアルヘシ

貸付料ハ毎年十二月中ニ翌年分ヲ前納スヘシ但シ許可ノ年ニ係ル貸付料ハ月割ヲ以テ即納スヘシ

既納ノ貸付料ハ之ヲ還付セス

第十九條 貸付料ノ減免ヲ受ケムトスル者ハ減免ヲ受ケムトスル土地ノ所在、金額、期間及理由ヲ記載シタル願書ヲ朝鮮總督ニ差出スヘシ

第二十條 貸付ヲ受ケタル者其ノ權利ヲ賣買、讓與シ又ハ擔保ニ供セムトスルトキハ願書ニ買受人、讓受人又ハ債權者ノ連署ヲ以テ許可書其ノ年度ニ於ケル貸付料納付證及事業成績報告書ヲ添へ朝鮮總督ニ願出ツヘシ

相續ヲ爲シタル者ハ相續後三月以内ニ相續ヲ證スル書類及許可書ヲ添へ朝鮮總督ニ届出ツヘシ

第二十一條 貸付ヲ受ケタル者事業ノ計畫ヲ變更セムトスルトキハ事由ヲ具シ之ニ關スル事業計畫書及事業豫定圖ヲ添附シ朝鮮總督ニ願出テ許可ヲ受クヘシ

第二十二條 貸付ヲ受ケタル者ハ毎年二月末日迄ニ其ノ前年ニ於ケル事業ノ成績ヲ朝鮮總督ニ届出ツヘシ

第二十三條 貸付ヲ受ケタル者其ノ土地ノ付與又ハ拂下ヲ受ケムトスルトキハ土地ノ所在、面積及事業成功ノ狀況ヲ具シ實測圖ヲ添へ朝鮮總督ニ申請スヘシ

前項ノ實測圖ニハ第十條各號ノ事項ヲ示スヘシ

第二十四條 貸付ヲ受ケタル者許可ノ取消其ノ事由ニ依リ其ノ權利ヲ喪失シタルトキハ直ニ許可書ヲ返納スヘシ

第二十五條 國有未墾地利用法第一條乃至第十一條ノ規定及本令ハ三町歩ヲ超エサル國有未墾地ニ亦之ヲ適用ス

第二十六條 第十三條、第十四條、第十七條、第二十條、第二十二條、第二十四條ノ規定ニ違反シタル者又ハ第五條ノ條件ニ違反シタル者ハ五十圓以下ノ罰金又ハ科料ニ處ス

附則

本令ハ發布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

國有未墾地利用法施行細則ハ之ヲ廢止ス

○朝鮮總督府令第八十二號(宣稱七月十二月)

信用告知業取締規則左ノ通定ム

明治四十四年七月六日

朝鮮總督 伯爵寺內正毅

信用告知業取締規則

第一條 本令ニ於テ信用告知業ト稱スルハ他人ノ商取引、資産共ノ他信用ニ關スル事項ヲ依頼者



ニ告知スルノ業ヲ謂フ

第二條 信用告知業ヲ營マムトスル者ハ左記各號ノ事項ヲ具シ警務部長京城ニ在リテハ警務部長及以下同シニ願出テ許可ヲ受クヘシ第二號、第四號又ハ第五號ノ事項ヲ變更セムトスルトキ亦同シ

一 本籍住所、職業、氏名及生年月

二 營業所ノ名稱

三 營業所ノ位置

四 告知セムトスル事項ノ種類及方法

五 告知料又ハ依頼者ノ出費額

前項第一號、第二號ノ事項ニ變更アリタルトキ又ハ廢業若ハ休業シタルトキハ七日内ニ警務部長ニ届出ツヘシ

第三條 信用告知業者他人ヲシテ業務ニ從事セシメムトスルトキハ其ノ本籍住所、職業、氏名及生年月ヲ具シ警務部長ノ認可ヲ受クヘシ其ノ住所、職業及氏名ニ變更ヲ生シ又ハ其ノ從業ヲ解止シタルトキハ七日内ニ警務部長ニ届出ツヘシ

第四條 信用告知業者ハ告知事件簿ヲ備ヘ左ノ事項ヲ記載シ二年間保存スヘシ

一 告知シタル年月日

二 告知シタル事項ノ要領

三 依頼者ノ住所、職業及氏名

第五條 信用告知業者ハ左ノ事項ヲ爲スコトヲ得ス

一 虚偽ノ告知ヲ爲スコト

二 業務上知り得タル事項ヲ濫ニ依頼者以外ニ漏泄スルコト

三 名義ノ如何ヲ問ハズ第二條ニ依ル告知料若ハ依頼者ノ出費額以外ノ金品ヲ受ケ又ハ請求ス

ルコト

四 告知ノ依頼ヲ強請スルコト

第六條 文書ヲ以テ告知スル場合ニ在リテハ營業所ノ名稱、位置、告知年月日ヲ共ノ告知書ニ明記スヘシ

第七條 虚偽若ハ過誤ノ告知ニ依リ信用ヲ害セラレタル者ハ信用告知業者ニ對シ其ノ訂正又ハ取消ヲ請求スルコトヲ得

警察署警察分署及警察署ノ事務ヲ取扱フ處ハ信用告知業者ニ對シ前項ノ訂正又ハ取消ヲ命スルコトヲ得

第八條 警察官吏又ハ憲兵ハ何時ニテモ信用告知業者ノ業務ニ關スル帳簿書類ヲ檢閲スルコトヲ得

第九條 本令ニ依リ警務部長ニ提出スル願出書類ハ警察署ヲ經由スヘシ

第十條 警務部長ハ信用告知業者ノ所爲ニシテ其ノ業務ニ關シ法令ニ違反シ又ハ弊害アリト認ムルトキハ營業ヲ停止シ又ハ其ノ許可ヲ取消スコトヲ得

第十一條 警務部長ハ第三條ノ從業者其ノ業務ニ關シ法令ニ違反シ又ハ不正ノ行爲アリト認ムルトキハ其ノ認可ヲ取消スコトヲ得

第十二條 左ノ各號ノ一ニ該當スル者ハ二月以下ノ禁錮若ハ百圓以下ノ罰金又ハ拘留若ハ科料ニ處ス

一 第二條乃至第六條ノ規定ニ違反シタル者

二 第七條第二項第十條又ハ第十一條ノ規定ニ依ル命令ニ違反シタル者

三 告知事件簿ニ虚偽ノ記載ヲ爲シ又ハ本令ニ依ル届出ニ實ヲ以テセサル者

四 第七條第一項ノ規定ニ依ル請求ニ應セサル者



五 第八條ノ規定ニ依ル檢閱ヲ拒ミタル者  
第十三條 信用告知業者ハ其ノ業務ニ關スル從業者ノ行爲ニ付自己ノ指揮ニ出テサルノ故ヲ以テ  
其ノ所罰ヲ免ルルコトヲ得ス

附則

本令ハ明治四十四年七月十日ヨリ之ヲ施行ス  
本令施行ノ際現ニ信用告知業ヲ營ム者ハ本令ニ依リ營業ノ許可ヲ受ケタル者ト看做ス  
○朝鮮總督府令第八十三號(官報七月十三日)  
寺刹令ハ明治四十四年九月一日ヨリ之ヲ施行ス  
明治四十四年七月八日

○朝鮮總督府令第八十四號(官報七月十三日)  
寺刹令施行規則左ノ通定ム

朝鮮總督 伯爵寺内正毅

朝鮮總督 伯爵寺内正毅

寺刹令施行規則

第一條 住持ヲ定ムル方法、住持ノ交替手續及其ノ任期中死亡其ノ他ノ事故ニ因リ缺員ヲ生シタ  
ル場合ニ於ケル寺務取扱方法ハ寺法中ニ之ヲ規定スヘシ

第二條 左ニ掲グル寺刹ノ住持ノ就職ニ付テハ朝鮮總督ニ申請シ認可ヲ受クヘシ

京畿道廣州郡	奉恩寺	同	南道公州郡	麻谷寺	同	順天郡	松慶寺
水原郡	龍珠寺	同	全羅北道全州郡	威風寺	同	同	仙遊寺
楊州郡	奉先寺	同	錦山郡	寶石寺	同	慶尙北道大邱府	桐華寺
江華郡	傳燈寺	同	南道海南郡	大興寺	同	永川郡	銀海寺
忠清北道報恩郡	法住寺	同	長城郡	白羊寺	同	義城郡	孤雲寺

開慶郡	金龍寺	同	黃海道信川郡	貝葉寺	同	江原道杆城郡	乾風寺
長鬐郡	祇林寺	同	黃州郡	成佛寺	同	高城郡	檢帖寺
南道陝川郡	海印寺	同	平安南道平壤府	永明寺	同	平昌郡	月精寺
梁山郡	通度寺	同	順安郡	法興寺	同	咸鏡南道安邊郡	釋王寺
釜山府	梵魚寺	同	北道寧邊郡	普賢寺	同	咸興郡	歸州寺

前項以外ノ寺刹ノ住持ノ就職ニ付テハ地方長官ニ申請シ認可ヲ受クヘシ  
第三條 前條認可ノ申請書ニハ住持タルヘキ者ノ身分、年齢及修行履歷書ヲ添附スヘシ  
第四條 住持ノ任期ハ三年トス但シ任期満了ノ後再任スルコトヲ妨ケス  
第五條 住持犯罪其ノ他不正ノ行爲アリタルトキ又ハ職務ヲ怠リタルトキハ其ノ就職ノ認可ヲ取  
消スコトヲ得

第六條 前條ニ依リ認可ヲ取消サレタル者ハ寺法ノ定ムル所ニ依リ一切ノ事務ヲ引繼キ一週間以  
内ニ其ノ寺刹ヲ退去スヘシ

第七條 住持ハ寺刹ニ屬スル土地、森林、建物、佛像、石物、古文書、古書畫、梵鐘、經卷、佛具其  
ノ他貴重品ノ目錄書ヲ作り住持就職後五月以内ニ之ヲ朝鮮總督ニ差出スヘシ  
前項ノ財産ニ増減異動アリタルトキハ五日以内ニ之ヲ朝鮮總督ニ届出ツヘシ

第八條 第七條ノ届出ヲ爲ササル者ハ五十圓以下ノ罰金又ハ拘留ニ處ス第六條ノ規定ニ違反シ  
ル者亦同シ

附則

本令ハ寺刹令施行ノ日ヨリ之ヲ施行ス

各本寺ニ於テハ本令施行後五月以内ニ寺法ノ認可ヲ申請スヘシ

本令施行ノ際住持ナキ寺刹ハ慣例ニ從ヒ本令施行後三月以内ニ之ヲ定メ其ノ認可ヲ申請スヘシ



○朝鮮總督府令第八十五號(宣稱 七月十三日)  
稅關監視署名稱、位置及管轄區域別表ノ通定

附則

本令ハ發布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

明治四十三年朝鮮總督府令第四十五號ハ之ヲ廢止ス

明治四十四年七月八日

朝鮮總督 伯爵寺內正毅

名	稱	位	置	管轄區域
麻浦稅關監視署	京畿道	京城府	麻浦	京畿道京城府龍山ヨリ漢江下流兩岸ノ一部(北岸ハ臨津江口ニ至リ南岸ハ通津郡ニ至ル)及臨津江東岸ノ一部(江口ヨリ坡州郡汝山浦ニ至ル)
碧瀾渡稅關監視署	京畿道	開城郡	碧瀾渡	京畿道長湍郡臨津江西岸一帶及臨津江口ヨリ黃海道延安郡楓川橋ニ至ル沿岸並江華島喬桐島株首島一圓
龍塘浦稅關監視署	黃海道	海州郡	龍塘浦	黃海道延安郡楓川橋ヨリ長淵郡長山申ニ至ル沿岸及島嶼
蔚山稅關監視署	慶尙南道	蔚山郡	蔚山	慶尙北道長鬐郡長鬐ヨリ慶尙南道機張郡機張ニ至ル沿岸
舊馬山稅關監視署	慶尙南道	馬山府	舊馬山	慶尙南道金海郡四岩里ヨリ馬山府岩下浦ニ至ル沿岸及島嶼
長承浦稅關監視署	慶尙南道	巨濟郡	長承浦	慶尙南道巨濟島一圓
統營稅關監視署	慶尙南道	龍南郡	統營	慶尙南道馬山府岩下浦ヨリ固城郡固城ニ至ル沿岸及島嶼

三千浦稅關監視署	慶尙南道	泗川郡	三千浦	慶尙南道固城郡固城ヨリ昆陽郡靈梁ニ至ル沿岸南海島嶼新ヨリ彌助浦ニ至ル東岸及島嶼
麗水稅關監視署	全羅南道	麗水郡	麗水	慶尙南道昆陽郡靈梁ヨリ全羅南道與陽郡鹿島嶼ニ至ル沿岸南海島嶼新ヨリ彌助浦ニ至ル西岸及島嶼
城山浦稅關監視署	全羅南道	旌義郡	城山浦	全羅南道濟州島一圓
浦項稅關監視署	慶尙北道	延日郡	浦項	慶尙北道長鬐郡長鬐ヨリ寧海郡丑山浦ニ至ル沿岸
雄基稅關監視署	咸鏡北道	慶興郡	雄基	咸鏡北道慶興郡羅津ヨリ豆滿江口土里ニ至ル沿岸及島嶼
慶興稅關監視署	咸鏡北道	慶興郡	慶興	咸鏡北道慶興郡土里ヨリ下三洞ニ至ル豆滿江沿岸
新阿山稅關監視署	咸鏡北道	慶源郡	新阿山	咸鏡北道慶興郡下三洞ヨリ穩城郡穩城ニ至ル豆滿江沿岸
會寧稅關監視署	咸鏡北道	會寧郡	會寧	咸鏡北道穩城郡穩城ヨリ茂山郡茂山ニ至ル豆滿江沿岸
何日里浦稅關監視署	平安北道	定州郡	何日里	平安北道博川郡博川ヨリ大寧江下流ヲ經テ黃浦ニ至ル沿岸及平安南道安州郡安州ヨリ清川江下流ヲ經テ飯山郡飯山ニ至ル沿岸
義州稅關監視署	平安北道	義州府	義州	平安北道義州府漢川ヨリ清馬嶺ニ至ル鴨綠江沿岸
望東浦稅關監視署	平安北道	鐵山郡	望東浦	平安北道鐵山郡鶴江浦ヨリ郭山郡黃海ニ至ル沿岸及島嶼
麥金浦稅關監視署	黃海道	長淵郡	麥金浦	黃海道長淵郡沈那浦ヨリ長山申ニ至ル沿岸

〔參照〕

明治四十三年十一月十四日(宣稱)朝鮮總督府令第四十五號ハ稅關監視署名稱及位置ナリ



○朝鮮總督府令第八十六號 (官報 七月十八日)  
稅關特許手数料ニ關スル件左ノ通定ム

明治四十四年七月十三日

朝鮮總督 伯爵寺內正毅

- 第一條 明治四十四年勅令第八十八號ノ特許手数料ハ派出ヲ要スル稅關官吏一人ニ付一月六十圓トス但シ旅費ヲ要スルトキハ稅關長ノ定ムル所ニ依リ其ノ額ヲ加フ
- 前項ノ特許手数料ハ所轄稅關ニ納付スヘシ
- 第二條 特許手数料ハ毎月之ヲ前納スヘシ但シ其ノ特許ヲ爲シタル月ニ係ルモノハ特許ノ日ヨリ十日以内ニ之ヲ納付スヘシ
- 第三條 稅關長ハ土地ノ情況又ハ特許事項ノ性質ニ依リ必要ト認ムルトキハ朝鮮總督ノ認可ヲ承ケテ特許手数料ヲ減額シ又ハ手数料ノ納付方法ヲ變更スルコトヲ得
- 第四條 納付シタル手数料ハ之ヲ還付セズ

附則

本令ハ明治四十四年七月十五日ヨリ之ヲ施行ス

本令施行前一定ノ期間ニ對シ納付シタル特許手数料ニ付テハ其ノ期間滿了ニ至ル迄從前ノ規定ニ依ル

○朝鮮總督府令第八十七號 (官報 七月二十五日)

土地收用令ヲ明治四十四年七月十四日ヨリ左記ノ地域ニ施行ス

明治四十四年七月十四日

朝鮮總督 伯爵寺內正毅

- 一 京畿道京城府、楊州郡
- 一 慶尙北道大邱府
- 一 全羅北道全州郡、任實郡、南原郡

○朝鮮總督府令第八十八號 (官報 七月二十五日)

朝鮮ノ沿岸及内河ヲ航行スル支那形日本船舶ノ標示ニ關スル件左ノ通定ム

明治四十四年七月二十日

朝鮮總督 伯爵寺內正毅

- 第一條 朝鮮ノ沿岸及内河ヲ航行スル支那形日本船舶ハ左ノ標示ヲ爲スヘシ
  - 一 船體ノ外部周圍ニ於テ上縁ニ沿ヒ幅六吋ノ白線一條ヲ畫スルコト但シ總噸數五噸未満又ハ積石數五十石未満ノモノニ在リテハ白線ノ幅ヲ三吋迄ニ減スルコトヲ得
  - 二 橋ヲ有スルモノニ在リテハ前號ノ外橋ノ頂部ヨリ下方六呎間ノ周圍ヲ白色ニ塗ルコト
- 第二條 前條ノ標示ハ明瞭ニシテ久ニ耐ユルノ方法ヲ以テ之ヲ爲スヘシ
- 第三條 第一條ノ規定ニ違反シタル者ハ科料ニ處ス

附則

本令ハ明治四十四年八月一日ヨリ之ヲ施行ス

○臺灣總督府令第四十五號 (官報 七月六日)

臺灣關稅規則ノ施行ニ關シテハ明治三十二年勅令第三百十九號關稅法施行規則ニ依ル但シ同令中大藏大臣トアルハ臺灣總督ニ、裁判所トアルハ法院ニ、市町村役場トアルハ區長役場ニ該當スルモノトス

本令ハ明治四十四年七月一日ヨリ之ヲ施行ス但シ關稅法施行規則第三十四條及第三十五條中改正ニ關スル規定ハ明治四十四年七月十七日ヨリ之ヲ施行ス

明治四十二年五月府令第三十八號臺灣關稅規則施行規則ハ之ヲ廢止ス

明治四十四年六月二十日

臺灣總督 伯爵佐久間左馬太



○臺灣總督府令第四十六號 (官報 七月六日)

臺灣關稅規則施行規則ニ依リ稅關ニ納付スヘキ手數料及使用料中左ノ通改正ス  
本令ハ明治四十四年七月一日ヨリ之ヲ施行ス

明治四十四年六月三十日

臺灣總督 伯爵佐久間左馬太

「稅關及稅關支署貨物積卸及送致特許手數料」ヲ「稅關及稅關支署貨物積卸搬入搬出及取扱特許手數料」ニ改メ  
「臺灣關稅規則施行規則第四十條ニ依ル手數料」ヲ「關稅法施行規則第七十六條ニ依ル手數料」ニ改メ  
「臺灣關稅規則施行規則第四十一條ニ依ル使用料」ヲ「關稅法施行規則第七十七條ニ依ル使用料」ニ改メ

○臺灣總督府令第四十七號 (官報 七月六日)

關稅法第四十六條又ハ四十九條ニ依リ收容スル貨物ノ敷料左ノ通相定ム

明治四十四年六月三十日

臺灣總督 伯爵佐久間左馬太

一 重量ニ依リ關稅ヲ賦課セラルヘキ貨物 五百斤迄毎ニ一日金三錢  
二 前號以外ノ貨物 十立方尺迄毎ニ一日金三錢  
料金ノ徵收上便宜ト認ムルトキハ第一號ノ貨物ヲ第二號ノ定率ニ、第二號ノ貨物ヲ第一號ノ定率ニ依ラシムルコトヲ得  
收容ノ初日ハ敷料ヲ徵收シ解除ノ日ハ徵收セス

附則

本令ハ明治四十四年七月一日ヨリ之ヲ施行ス  
明治四十二年六月府令第五十號ハ之ヲ廢止ス

〔參照〕

明治四十二年(官報七月七日) 臺灣總督府令第五十號ハ臺灣關稅規則施行規則ニ依ル收容貨物ノ敷料ナリ

○臺灣總督府令第四十八號 (官報 七月六日)

明治四十三年<sup>十一月</sup>府令第八十五號 稅關執務時間中「及臺灣關稅規則施行規則」ヲ削ル  
本令ハ明治四十四年七月一日ヨリ之ヲ施行ス

明治四十四年六月三十日

臺灣總督 伯爵佐久間左馬太

○臺灣總督府令第四十九號 (官報 七月六日)

關稅法第三十九條ノ二ノ通路左ノ通相定ム

本令ハ明治四十四年七月一日ヨリ之ヲ施行ス

明治四十二年六月府令第四十八號ハ之ヲ廢止ス

明治四十四年六月三十日

臺灣總督 伯爵佐久間左馬太

淡水基隆間  
〔淡水ヨリ基隆ニ至ル鐵道線路〕  
又ハ大稻埕ヨリ基隆ニ至ル鐵道線路  
基隆打狗間  
〔基隆ヨリ打狗ニ至ル鐵道線路〕

〔參照〕

明治四十二年(官報七月七日) 臺灣總督府令第四十八號ハ明治四十二年勅令第五十六號(關稅法)ヲ廢止スル件ニ依ル關稅通路ナリ

○臺灣總督府令第五十號 (官報 七月六日)

砂糖消費稅、織物消費稅等ノ徵收ニ關シテハ明治四十四年勅令第八十六號ニ依ル但シ擔保物ノ種類及其ノ取扱ニ付テハ本令ニ依ルノ外仍砂糖消費稅法施行規則、織物消費稅法施行規則及石油消費稅法施行規則ノ規定ヲ準用ス

本令ハ明治四十四年七月一日ヨリ之ヲ施行ス  
明治四十四年六月三十日

臺灣總督 伯爵佐久間左馬太



○臺灣總督府令第五十一號 (官報 七月十三日)

明治三十七年四月府令第四十三號臺灣小學校、臺灣公學校教員檢定及免許ニ關スル規程中左ノ通改正ス

明治四十四年七月五日

臺灣總督 伯爵佐久間左馬太

第七條中「之ヲ行フ」下ニ左ノ但書ヲ加フ

但シ教員檢定委員會ニ於テ必要ト認メタルトキハ教育ニ關シ試験ヲ行フコトヲ得

第十九條ノ三 性行不良ニシテ臺灣小學校、臺灣公學校教員タルニ適セスト認メタル者ハ檢定ニ合格セシムルコトヲ得ス

第四號書式中「第四號」ヲ「第三號」ニ改ム

附則

本令ハ發布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

〔參照〕

臺灣總督府令第四十三號臺灣小學校、臺灣公學校教員檢定及免許ニ關スル規程(明治三十七年四月二十九日官報)第七條 臺灣小學校教員無試験檢定ハ左ノ各款ノ一ニ該當スル者ニ就キ之ヲ行フ

○臺灣總督府令第五十二號 (官報 七月十三日)

明治四十一年二月府令第七號臺灣憲兵隊管區並配置中左ノ通改正ス

本令ハ明治四十四年七月六日ヨリ之ヲ實施ス

明治四十四年七月五日

臺灣總督 伯爵佐久間左馬太

憲兵分隊分遣所位置中「嘉義廳斗六堡斗六街」ヲ削ル

○臺灣總督府令第五十三號 (官報 七月二十九日)

輸出菓子糖果原料砂糖戻税法ノ施行ニ關シテハ明治四十二年勅令第六十四號輸出菓子糖果原料砂糖

糖戻税法施行規則ニ依ル但シ同施行規則第三條ノ開港ハ基隆淡水安平打狗トス

附則

本令ハ發布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

明治四十四年七月二十二日

臺灣總督 伯爵佐久間左馬太

○關東都督府令第十二號 (官報 七月三日)

關東都督府通信官署ノ出納員ハ關東都督府通信書記通信書記補雇員及通信夫ヲ以テ之ニ充ツ

出納官吏ヲ置ク官署ノ出納員ハ當該局所長ノ指定スル所ニ從ヒ現金ノ出納ヲ爲スヘシ

出納官吏ヲ置カサル官署ノ出納員ハ總テノ現金ノ出納ヲ爲スヘシ

附則

明治三十九年九月府令第五號ハ之ヲ廢止ス

明治四十四年六月二十二日

關東都督 子爵大島義昌

〔參照〕

明治三十九年九月十五日府令 關東都督府令第五號ハ出納員現金取扱規則ヲ關東都督府郵便電信局ニ適用ノ件ナリ

○關東都督府令第十三號 (官報 七月三日)

大連重要物產取引市場規則左ノ通定ム

明治四十四年六月二十二日

關東都督 子爵大島義昌

大連重要物產取引市場規則

第一條 重要物產ノ賣買取引ノ確實ヲ期シ且其ノ便宜ヲ圖ル爲大連ニ大連重要物產取引市場ヲ設

大連重要物產取引市場ハ關東都督ノ管理ニ屬ス



第二條 大連重要物產取引市場ニ左ノ職員ヲ置ク

場長

書記長

書記

検査員

若干人

若干人

場長ハ當分ノ内關東都督府高等官ノ中ヨリ之ヲ命ス

第三條 場長ハ關東都督ノ命ヲ承ケ場務ヲ總理シ場員ヲ指揮監督ス

書記長ハ場長ノ命ヲ承ケ場務ヲ掌理ス

書記ハ上司ノ命ヲ承ケ場務ニ從事ス

検査員ハ上司ノ命ヲ承ケ賣買取引ニ關スル物件ノ検査及受渡ニ關スル場務ニ從事ス

第四條 大連重要物產取引市場ニ商議員會ヲ置キ場長及商議員ヲ以テ之ヲ組織ス

商議員ハ七八トシ其ノ任期ヲ三年トス

商議員ハ商工業ニ關シ學識又ハ經驗アル者ノ中ニ就キ關東都督之ヲ命ス

第五條 商議員會ノ評決スヘキ事項左ノ如シ

一 賣買取引者ノ免許及其ノ取消ニ關スル事項

二 賣買取引ノ方法及受渡ニ關スル事項

三 公定相場ニ關スル事項

四 費用徴收ニ關スル事項

五 歳入出豫算ニ關スル事項

六 其ノ他重要ナル事項

前項ノ評決ハ關東都督ノ決裁ヲ受クヘシ

第六條 關東州内ニ於テハ他ニ重要物產ノ賣買取引ニ關スル市場ヲ設立スルコトヲ得ス

第七條 市場ニ於ケル賣買取引ノ方法受渡及秩序ノ保持其ノ他必要ナル事項ハ大連重要物產取引市場ノ定ムル所ニ依ル

第八條 賣買取引ニ關シ本令又ハ本令ニ基キテ發スル規程ニ別段ノ定ナキトキハ凡テ從來ノ商習慣ニ從フ

附則

本令施行ノ期日ハ別ニ之ヲ定ム

○關東都督府令第十四號(官報七月二十五日)

關東州船舶特種検査規則左ノ通定ム

明治四十四年七月十五日

關東都督 子爵大島義昌

關東州船舶特種検査規則

第一條 日本船舶又ハ船舶検査法第十七條第一號ニ掲グル船舶ニシテ關東州ニ出入スルモノハ別ニ定ムル場合ヲ除クノ外船舶所有者管理人借入人又ハ船長ノ申請ニ因リ關東都督府海務局ニ於テ検査ヲ執行ス

前項ノ検査ニ關シテハ船舶検査法及附屬命令ノ規定ニ依ル但シ船舶検査法第十條第一項及第二項ノ場合ニ於テハ犯則者ヲ二百圓以下ノ罰金ニ處ス

前項ノ法令中遞信大臣ノ職務ハ關東都督管海官廳ノ職務ハ關東都督府海務局之ヲ行フ

第二條 海務局ニ於テ申請人ニ交付スヘキ證書ノ種類左ノ如シ

一 甲種船舶検査證書

二 漁船検査證書

三 假船舶検査證書

四 適航證書

五 回航認可證書

六 臨時旅客定員證書







第三號書式(竪九寸横一尺三寸)

假船檢査證書

番本 船名	船籍 港名	船種 汽機	汽機 種類	汽機 噸數	汽機 馬力	汽機 種類	汽機 噸數	汽機 馬力	汽機 種類	汽機 噸數	汽機 馬力	汽機 種類	汽機 噸數	汽機 馬力	汽機 種類	汽機 噸數	汽機 馬力	汽機 種類	汽機 噸數	汽機 馬力
船名	船籍	船種	汽機	汽機	汽機	汽機	汽機	汽機	汽機	汽機	汽機	汽機	汽機	汽機	汽機	汽機	汽機	汽機	汽機	汽機
船名	船籍	船種	汽機	汽機	汽機	汽機	汽機	汽機	汽機	汽機	汽機	汽機	汽機	汽機	汽機	汽機	汽機	汽機	汽機	汽機

右検査ヲ遂ケ關東州船舶特種検査規則第二條ニ依リ此ノ證書ヲ交付ス  
 明治 年 月 日  
 検査官吏 官氏名印  
 (検査官吏二名以上ナルトキハ連署スルモノトス)

第四號書式(竪九寸三分横六寸六分)

割印

適航證書

船舶所有者住所(所在地) 氏(名稱)  
 右所有汽(帆)船 九關東州船舶特種検査規則第二條ニ依リ(航路定限)旅客ノ搭乗ヲ許シタルトキハ旅客ノ等級定員ヲ記入ス(航行ニ適スルモノト認メ此ノ證書ヲ交付ス)  
 但シ此ノ證書ハ明治 年 月 日限り無効トス  
 明治 年 月 日  
 關東都督府海務局 印

第五號書式(竪九寸三分横六寸六分)

割印

回航認可證書

船舶所有者住所(所在地) 氏(名稱)  
 右所有汽(帆)船 九關東州船舶特種検査規則第二條ニ依リ(旅客貨物ノ搭乗ヲ許シタルトキ又ハ之ヲ禁シタルトキハ其ノ旨ヲ記入ス)ヨリ 此ノ航行スルコトヲ認可シ此ノ證書ヲ交付ス  
 但シ此ノ證書ハ明治 年 月 日限り無効トス  
 明治 年 月 日  
 關東都督府海務局 印



第六號書式(暨九寸横一尺二寸)

第 號

割印

臨時旅客定員證書

船名	有所	航路	證書	有效期間
旅客定員				
總長	內	外		

右検査ヲ送ケ關東州船舶検査規則第二條ニ依リ此ノ證書ヲ交付ス

明治 年 月 日

關東都督府海務局 印

○關東都督府令第十五號(官報七月二十五日)  
關東州船舶検査規則左ノ通定ム

明治四十四年七月十五日

關東州船舶検査規則

關東都督 子爵大島義昌

第一條 左ニ掲クル船舶ハ本令ニ依リ検査ヲ受クヘシ

一 關東州ノ沿岸若ハ港灣内ノミヲ航行スル日本船舶並關東州ニ住所者ハ主タル事務所ヲ有スル者ノ所有スル船舶

二 關東州ヲ起點トシテ朝鮮、臺灣、樺太又ハ外國ニ航行スル日本船舶並關東州ニ住所者ハ主タル事務所ヲ有スル者ノ所有スル船舶

三 船舶法第一條ニ掲クル者又ハ關東州ニ住所者ハ主タル事務所ヲ有スル者ニ於テ借入レ關東州ヲ起點トシテ朝鮮、臺灣、樺太又ハ外國ニ航行スル外國船舶

四 關東州ノ沿岸又ハ港灣内ノミヲ航行スル外國船舶

五 前各號ニ掲クルモノヲ除クノ外關東州各港ニ於テ旅客ヲ搭載スル船舶ニシテ日本船舶又ハ船舶検査法第十七條第一號ノ船舶ニ該當セサルモノ

前項第二號ニ掲クル船舶ノ検査ハ船舶検査法及附屬命令ノ規定ニ準シ之ヲ施行ス但シ平水航路又ハ沿岸航路ニ從事スル船舶ハ此ノ限ニ在ラス

第二條 本令ニ於テ船舶ト稱スルハ汽船及帆船ヲ謂ヒ汽船ト稱スルハ蒸汽ヲ用井ルト否トニ拘ラズ總テ推進機關ヲ以テ運航スル裝置ヲ有スルモノヲ謂フ但シ主トシテ帆ヲ以テ運航スル船舶ハ推進機關ヲ有スルモノト雖之ヲ帆船ト看做ス

第三條 浚渫船、泥受船、起重機船ハ推進機關ヲ有スルトキハ之ヲ汽船ト看做ス

第四條 船舶ノ検査ハ船舶ヲ初メテ航行ノ用ニ供セムトスルトキ、航行期間滿了ノトキ及航行期間内特ニ必要アルトキ之ヲ行フ

第五條 船舶検査ノ場所ハ大連、旅順、老虎灘及柳樹屯トス

前項ノ場所以外ニ於テ検査ヲ受ケムトスル者ハ海務局ニ申請ヲ爲スヘシ

第五條 船舶ノ検査ヲ受ケムトスルトキハ其ノ所有者、管理人、借入人又ハ船長ヨリ第一號書式ノ



申請書ヲ海務局ニ提出スヘシ  
 海務局ニ於テハ検査官吏ヲシテ船舶ヲ検査セシメ航行ニ適合スルモノト認メタルトキハ航路定  
 限、旅客定員、汽壓制限及航行期間ヲ定メ第二號書式ノ船舶検査證書ヲ申請人ニ交付スヘシ  
 第六條 検査ヲ受ケタル船舶ノ所有者、管理人、借入人又ハ船長ニ於テ船舶検査證書ノ受有前ニ船  
 舶ヲ航行ノ用ニ供セムトスルトキハ検査官吏ハ之ヲ許可スルコトヲ得此ノ場合ニ於テハ第三號  
 書式ノ假證書ヲ交付スヘシ  
 第七條 船舶ノ航行期間ハ汽船ニ在リテハ三箇月以上一箇年以内帆船ニ在リテハ六箇月以上三箇  
 年以内トシ假證書ノ有効期間ハ本證書ト交換シ得ヘキ期間ヲ參酌シ三箇月以内ニ於テ第二十九  
 條ニ依ル検査期限ヲ超エサル程度ニ於テ検査官吏之ヲ定ム  
 第八條 検査ノ種類ヲ分チテ特別検査、定期検査及臨時検査トス  
 特別検査ハ船舶所有者、管理人、借入人又ハ船長ノ申請ニ因リ船舶検査法附屬命令ノ規定ニ準シ  
 之ヲ行フ  
 定期検査ハ船舶ノ航行期間ヲ定メムトスルトキ之ヲ行フ但シ航行期間内ト雖所有者、管理人、借  
 入人又ハ船長ノ申請アリタルトキハ海務局ニ於テ相當ノ事由アリト認ムル場合ニ限り之ヲ行フ  
 コトヲ得  
 船舶検査法ニ依リ検査證書ヲ受有シ其ノ航行期間内ニ在ルモノハ其ノ期間終了シタルトキ定期  
 検査ヲ行フ  
 臨時検査ハ左ノ場合ニ於テ之ヲ行フ  
 一 検査官吏ニ於テ特ニ必要アリト認メタルトキ  
 二 第二十二條第二十五條第二十六條第四項及第二十七條ノ申請又ハ第二十八條ノ届  
 出アリタル場合ニ於テ海務局カ検査ヲ爲スノ必要アリト認メタルトキ

第九條 航路定限ハ船體汽機汽鐘ノ堅脆大小及航路ノ難易ヲ參酌シテ之ヲ定ム但シ季節ニ因リ  
 テ危險ナリト認ムルトキハ期間ヲ附シテ航路定限ヲ制限スルコトヲ得  
 第十條 航路ヲ分チテ左ノ四種トス  
 一 遠洋航路  
 二 近海航路  
 三 沿海航路  
 四 平水航路  
 第十一條 遠洋航路トハ内外國各地ニ通スル航路ヲ謂フ  
 第十二條 近海航路トハ東經百十三度ヨリ同百七十度及北緯二十一度ヨリ同六十三度ニ至ル線内  
 ノ航路ヲ謂フ  
 第十三條 沿海航路トハ北緯三十六度以北ノ黄海及渤海内ノ航路ヲ謂フ  
 第十四條 平水航路トハ港灣内及左ニ掲クル各區内ノ航路ヲ謂フ  
 一 葫蘆山灣ヨリ小龍山島(一名嶗島)及海猫島ヲ經テ旅順港ニ至ル線内  
 二 旅順港ヨリ南北三山島ノ南東端ヲ經テ大連灣ニ至ル線内  
 三 大連灣ヨリ南北三山島及光祿島ノ南東端ヲ經テ貔子窩ニ至ル線内  
 四 貔子窩ヨリ光祿島ノ西南端、外長山列島ノ南端、海洋島ノ南東端、大王家屯島ノ東端及石城島  
 ノ北東端ヲ經テ花園口ニ至ル線内  
 第十五條 旅客定員ハ航路ノ遠近、客室ノ等級及積量ヲ參酌シ附錄第一號表ノ割合ニ依リ各室毎  
 ニ算出シテ之ヲ定ム  
 第十六條 汽壓制限ハ汽機汽鐘ノ構造並材料ノ良否ニ依リ各部ノ強弱ヲ算定シテ之ヲ定ム  
 第十七條 検査ヲ受ケムトスル船舶ハ検査ニ必要ナル準備ヲ爲スヘシ但シ其ノ方法及程度ニ關シ



テハ検査官吏之ヲ指定ス

第十八條 検査官吏船舶ニ臨檢シタルトキハ船長又ハ機關長之ニ立會ヒ船舶國籍證書、船鑑札、海員名簿、屬具目錄、航海日誌、旅客名簿、海抜免狀及船舶検査證書等検査ニ必要ナル書類ヲ其ノ檢閱ニ供スヘシ

船長又ハ機關長ハ検査官吏ノ要求ニ應シ必要ナル幫助ヲ爲シ又ハ詰問ニ對シ陳述スヘシ

第十九條 検査官吏ハ何時ニテモ船舶ニ臨檢シ若ハ特ニ検査ヲ爲スノ必要アリト認メタルトキハ其ノ航行ヲ停止スルコトヲ得

第二十條 左ニ掲ケル場合ニ於テハ海務局ニ申請シ其ノ認可ヲ受ケ船舶検査證書又ハ假證書ニ記載スル航路制限又ハ航行期間ヲ超エテ船舶ヲ航行ノ用ニ供スルコトヲ得

一 讓渡又ハ貸付ノ目的ヲ以テ船舶ヲ關東州外ノ港灣マテ回航セシムルトキ

二 關東州外ノ沿岸又ハ其ノ湖川、港内ニ使用スル目的ヲ以テ船舶ヲ其ノ目的地マテ回航セシムルトキ

三 關東州外ニ船籍港ヲ變更スル爲船舶ヲ目的地マテ回航セシムルトキ

四 船體若ハ機關ノ要部又ハ重要ナル屬具ヲ修繕スル爲工場所在地マテ回航セシムルトキ

五 航路制限内ノ地ニ検査執行地ナキ場合ニ於テ検査ヲ受タル爲船舶ヲ検査執行地マテ回航セシムルトキ

六 船舶検査證書ノ有効期間満了シタル場合ニ於テ検査ヲ受クル爲船舶ヲ航路制限内ノ検査執行地マテ回航セシムルトキ

七 航路制限外ノ地ニ在ル船舶ヲ航路制限内マテ回航セシムルトキ

八 航路制限變更ノ爲航路制限外ニ回航セシムルトキ

第二十一條 前條ニ依リ認可ヲ受ケムトスル者ハ事由ヲ具シ海務局ニ申請スヘシ

前條各號ノ場合ニ於テ旅客又ハ貨物ヲ搭載セムトスルトキハ其ノ旨ヲ申請書ニ附記スヘシ海務局ハ其ノ申請ヲ適當ト認メタルトキハ第四號書式ノ回航認可證書ヲ交付スヘシ

回航認可證書ノ期間ハ回航ヲ要スル期間ヲ標準トシテ海務局之ヲ定ム

第二十二條 船舶ニシテ臨時多數ノ兵員、移住民、漁夫又ハ出稼人ヲ運送セムトスルトキハ其ノ所有者、管理人、借入人又ハ船長ハ別種旅客定員證書ノ交付ヲ海務局ニ申請スヘシ

海務局ハ船舶ヲ検査シ附録第二號表ノ割合ニ依リ旅客定員ヲ定メ第五號書式ノ別種旅客定員證書ヲ申請人ニ交付スヘシ

別種旅客定員證書ノ有効期間ハ船舶ノ現狀ニ應シ海務局之ヲ定ム

第二十三條 船長ハ船舶検査證書、假證書、回航認可證書又ハ別種旅客定員證書ヲ船内最モ見易キ所ニ掲ケ且常ニ船員室、旅客室ノ區別ヲ設ケ旅客室ノ等級及旅客定員ヲ客室毎ニ揭示スヘシ

旅客室ニ貨物ヲ搭載シタルトキハ其ノ積置ニ對スル旅客員數ヲ減スヘシ

第二十四條 船舶ハ旅客ヲ搭載スル場合ニ於テ十二年未滿ノ者ハ二人ヲ以テ二年以上五年未滿ノ者ハ四人ヲ以テ旅客定員ノ一人ニ積算シ二年未滿ノ者ハ之ヲ算入セス

船舶ノ所有者、管理人、借入人、郵便吏員及航海中救助セラレタル者ハ旅客ト看做サス

第二十五條 船舶ノ航行期間内ニ於テ旅客定員ヲ變更セムトスルトキハ船長ハ事由ヲ具シ海務局ニ其ノ認可ヲ申請スヘシ

第二十六條 検査官吏ニ於テ安全辨ヲ封鎖シタルトキハ其ノ鍵ヲ封鎖シ之ヲ船長ニ交付ス

船長ハ安全辨ノ鍵ヲ封鎖ノ儘船内ニ保管スヘシ

船長ハ已ムコトヲ得サル場合ヲ除クノ外安全辨ノ鍵ノ封鎖ヲ開クコトヲ得ス

安全辨ノ鍵又ハ其ノ封筒ヲ滅失若ハ毀損シタルトキ又ハ船長ニ於テ安全辨ノ鍵ヲ開封シタルト



キハ海務局ニ其ノ事由ヲ具シ更ニ安全辨ノ封鎖ヲ申請スヘシ

第二十七條 船舶カ航行期間内ニ於テ航路ヲ變更セムトスルトキハ船長ハ其ノ事由ヲ具シ海務局ニ認可ノ申請ヲ爲スヘシ

第二十八條 船舶ヲ入渠若ハ上渠セムトスルトキ、船體機關ノ要部若ハ重要ナル器具ニ損傷ヲ生シタルトキ又ハ之ヲ修理變更セムトスルトキ汽機汽罐ヲ取放シ若ハ螺旋軸ヲ取出シタルトキハ所有者、管理人、借入人又ハ船長ヨリ其ノ旨ヲ海務局ニ届出ツヘシ

第二十九條 定期検査若ハ臨時検査ニ於テ左ノ場合ニ該當スル船舶ハ之ヲ入渠又ハ上渠セシメ船底若ハ螺旋軸ヲ検査スヘシ但シ検査官吏ノ適當ト認ムル證明書ヲ有スル船舶又ハ港内ノミヲ航行スル船舶ニ限リ其ノ検査ノ全部又ハ一部ヲ省略スルコトヲ得

一 製造後十八年未滿ノ鐵鋼船ニシテ前回ノ船底検査以後二年ニ達シタルトキ

二 鐵製旅客汽船及製造後十八年以上ノ鐵鋼船ニシテ前回ノ船底検査以後一年ハ箇月ニ達シタルトキ

三 徑四吋以上ノ螺旋軸ヲ有スル船舶ニシテ前回其ノ軸ヲ拔取リテ検査シタル後三年ニ達シタルトキ

四 徑四吋未滿ノ螺旋軸ヲ有スル船舶ニシテ前回其ノ軸ヲ拔取リテ検査シタル後二年ニ達シタルトキ

第三十條 第一條各號ニ掲グル船舶カ内地朝鮮臺灣樺太又ハ外國ニ於テ検査ヲ受ケ検査證書ヲ受有シ初メテ航行ノ用ニ供セムトスルトキハ検査證書ニ記載スル航路定限、航行期間、旅客定員及航行セムトスル航路ヲ記載シタル書面ニ検査證書寫ヲ添ヘ海務局ニ届出ツヘシ但シ航路ヲ變更シ又ハ廢止シタルトキ亦同シ

第三十一條 船舶ノ所有者、管理人、借入人又ハ船長ハ船舶ノ航行期間又ハ假證書ノ有効期間滿了

シタルトキ又ハ本令ニ依リ検査ヲ受ケルコトヲ要セサルモノトナリタルトキハ船舶検査證書又ハ假證書ヲ遲滞ナク海務局ニ返還スヘシ回航認可證書、別種旅客定員證書ノ有効期間滿了ノトキ又ハ效力ヲ失ヒタルトキ亦同シ

第三十二條 船舶検査證書、別種旅客定員證書、回航認可證書又ハ假證書ヲ滅失シ又ハ毀損シタルトキハ船長ハ遲滞ナク其ノ事由ヲ具シ海務局ニ其ノ再交付ヲ申請スヘシ

回航ノ認可ヲ受ケタル船舶ニシテ其ノ發航前回航認可證書ノ有効期間滿了シタルトキ又ハ回航中有効期間滿了スヘキトキハ其ノ再交付ヲ申請スルコトヲ得

第三十三條 船舶検査證書、別種旅客定員證書又ハ假證書ニ記載シタル事項ニ變更ヲ生シタルトキハ船長ハ遲滞ナク關係書類ヲ添ヘ海務局ニ其ノ書換ヲ申請スヘシ但シ其ノ變更カ船長ノ交代ニ係ルトキハ部分書換ヲ申請スルコトヲ得

前項但書ノ申請ヲ受ケタルトキハ直ニ船舶検査證書又ハ假證書ニ記載ノ船長氏名ヲ朱線ニテ塗抹シ其ノ上面ニ新船長ノ氏名及海技免狀ノ種類及變更ノ年月日ヲ記入シタルモノヲ貼附スヘシ

第三十四條 左ノ場合ニ於テハ舊船舶検査證書舊假證書又ハ舊別種旅客定員證書ヲ遲滞ナク海務局ニ返還スヘシ

一 假船舶検査證書ヲ受ケタル船舶ニシテ船舶検査證書ノ交付ヲ受ケタルトキ

二 船舶検査證書假證書又ハ別種旅客定員證書ノ書換ヲ受ケタルトキ

三 船舶検査證書假證書又ハ別種旅客定員證書ノ毀損ニ依リ其ノ再交付ヲ受ケタルトキ

第三十五條 本令ニ於テ特ニ定ムル場合ヲ除クノ外船舶検査證書若ハ假證書ヲ受有セシメテ船舶ヲ航行ノ用ニ供シ又ハ船舶検査證書若ハ假證書ニ記載セル航路定限、航行期間若ハ汽壓制限ヲ超ニテ航行シ又ハ検査官吏ノ臨檢ヲ拒ミ若ハ航行停止ノ命ニ違反シ又ハ器具ノ整備ヲ爲サスルテ船舶ヲ航行ノ用ニ供シタルトキハ船長ヲ二百圓以下ノ罰金ニ處ス



詐偽ノ所爲ヲ以テ船舶検査證書、假證書、回航認可證書又ハ別種旅客定員證書ヲ受ケタル者ノ罰亦前項ニ同シ

第三十六條 船舶検査證書若ハ假證書ニ旅客定員ノ記載ナキ船舶ニ旅客ヲ搭載シ又ハ旅客定員ヲ記載シタル證書ノ旅客定員ヲ超エテ旅客ヲ搭載シ或旅客室ニ貨物ヲ搭載シタル場合ニ於テ其ノ積量ニ對シ旅客定員ヲ減セス旅客ヲ搭載シタルトキハ船長ヲ百圓以下ノ罰金ニ處ス

第三十七條 左ノ場合ニ該當スル者ハ五十圓以下ノ罰金又ハ科料ニ處ス

- 一 本令ノ規定ニ反シ船舶検査證書、假證書ノ書換ヲ申請セサルトキ又ハ船舶検査證書、假證書、適航證書、回航認可證書若ハ船舶検査手帖ノ再交付ヲ申請セス又ハ之ヲ返還セサルトキ
- 二 回航認可證書ニ明許ヲ受ケスシテ旅客若ハ貨物ヲ搭載シタルトキ
- 三 本令ノ規定ニ反シ船舶検査證書、假證書、適航證書、回航認可證書、旅客室ノ等級及旅客定員、臨時旅客定員證書又ハ別種旅客定員證書ヲ表示セサルトキ
- 四 本令ノ規定ニ反シ船舶検査手帖ヲ船内ニ保管セサルトキ又ハ船舶検査手帖ノ封緘ヲ開キタルトキ若ハ船舶検査手帖ノ封筒ノ封緘ヲ申請セサルトキ
- 五 本令ノ規定ニ反シ旅客室ト船員室トヲ區別シ置カサルトキ
- 六 本令ノ規定ニ反シ臨時旅客定員證書又ハ別種旅客定員證書ヲ返還セサルトキ
- 七 本令ノ規定ニ反シ安全瓣ノ鍵ヲ船内ニ保管セサルトキ又ハ安全瓣ノ鍵ノ封緘ヲ開キタルトキ
- 八 安全瓣ノ鍵又ハ封筒ヲ滅失若ハ毀損シタルトキ又ハ安全瓣ノ鍵ノ封緘ヲ開キタル場合ニ於

テ封鎖ノ申請ヲ爲サントキ

九 第二十八條及第三十條ノ規定ニ反シ届出ヲ爲ササルトキ

十 検査官吏ノ要求ニ對シ検査上必要ナル書類ヲ檢閲ニ供セス又ハ必要ナル幫助ヲ爲サス若ハ其ノ訊問ニ應セサルトキ

第三十八條 本令ノ罰則中船長ニ適用スヘキモノハ船長ニ代リテ其ノ職務ヲ行フ者ニモ亦之ヲ適用ス

第三十九條 本令ノ罰則ハ船舶所有者、管理人又ハ借入人カ未成年者若ハ禁治産者ナルトキハ之ヲ其ノ法定代理人ニ適用シ商事會社其ノ他ノ法人ニ在リテハ其ノ所爲ヲ爲シタル代表者ニ之ヲ適用ス

第四十條 本令ハ總噸數二十噸若ハ積石數二百石未滿ノ帆船又ハ航行ノ用ニ供セサル船舶並端舟其ノ他機權ヲ以テ運轉シ又ハ主トシテ機權ヲ以テ運轉スル舟ニ之ヲ適用セス

第四十一條 本令ハ當分ノ内支那形帆船ニ之ヲ適用セス

附則

本令ハ明治四十四年八月一日ヨリ之ヲ施行ス

本令施行ノ際現在スル帆船ハ本令施行ノ日ヨリ六箇月以内ニ本令ニ依ル検査ヲ受クヘシ

明治四十年府令第七十三號關東州汽船検査規則並明治四十一年府令第十一號別種旅客定員ニ關スル検査規則ハ之ヲ廢止ス

本令施行ノ際現ニ受有スル汽船検査證書、假證書、回航認可證書、別種旅客定員證書ハ其ノ有効期間中本令ニ依リ交付シタルモノト看做ス











別種旅客定員算出表

航行時間	上層旅客甲板以上ノ場所		下層旅客甲板	
	面積	容積	面積	容積
二十四時以上	四平方呎	二十立方呎	六平方呎	三十立方呎
二十四時未滿	六平方呎	三十立方呎	八平方呎	四十立方呎
二十四時未滿	六平方呎	三十立方呎	八平方呎	四十立方呎
二十四時未滿	六平方呎	三十立方呎	八平方呎	四十立方呎

(關東州船檢査規則第二十三條第二項參照)

(備考) 第三十二條第三十三條ニ依リ別種旅客定員證書ヲ交付スル場合ニ在リテハ證書書換ハ再交付ト朱記ス(シ)

附錄第一號表

旅客定員算出表

航路	等級	上層旅客甲板以上ノ場所		下層旅客甲板	
		面積	容積	面積	容積
航路	一等室	九平方呎	五十五立方呎	十二平方呎	七十二立方呎
	二等室	十二平方呎	七十二立方呎	十五平方呎	九十立方呎
	三等室	十六平方呎	九十六立方呎	二十平方呎	一百二十立方呎
近海	一等室	九平方呎	五十五立方呎	十二平方呎	七十二立方呎
	二等室	十二平方呎	七十二立方呎	十五平方呎	九十立方呎
	三等室	十六平方呎	九十六立方呎	二十平方呎	一百二十立方呎
遠洋	一等室	九平方呎	五十五立方呎	十二平方呎	七十二立方呎
	二等室	十二平方呎	七十二立方呎	十五平方呎	九十立方呎
	三等室	十六平方呎	九十六立方呎	二十平方呎	一百二十立方呎

航路	等級	上層旅客甲板以上ノ場所		下層旅客甲板	
		面積	容積	面積	容積
沿海	一等室	九平方呎	五十五立方呎	十二平方呎	七十二立方呎
	二等室	十二平方呎	七十二立方呎	十五平方呎	九十立方呎
	三等室	十六平方呎	九十六立方呎	二十平方呎	一百二十立方呎
平水	一等室	九平方呎	五十五立方呎	十二平方呎	七十二立方呎
	二等室	十二平方呎	七十二立方呎	十五平方呎	九十立方呎
	三等室	十六平方呎	九十六立方呎	二十平方呎	一百二十立方呎
航路	一等室	九平方呎	五十五立方呎	十二平方呎	七十二立方呎
	二等室	十二平方呎	七十二立方呎	十五平方呎	九十立方呎
	三等室	十六平方呎	九十六立方呎	二十平方呎	一百二十立方呎

(備考) 本表ハ旅客定員一人ニ充テヘキ船室ノ面積ノ最小限度ヲ示ス  
一 本表ハ旅客定員一人ニ充テヘキ船室ノ面積ノ最小限度ヲ示ス  
二 平水航路ニ使用スル船檢査ノ旅客定員ハ航路ノ情況ニ依リ上層旅客甲板以上ノ場所ニ在リテハ二十五平方呎下層旅客甲板ニ於テハ四平方呎マテ遞減スルコトヲ得

附錄第二號表

別種旅客定員算出表

航行時間	上層旅客甲板以上ノ場所		下層旅客甲板	
	面積	容積	面積	容積
二十四時以上	四平方呎	二十立方呎	六平方呎	三十立方呎
二十四時未滿	六平方呎	三十立方呎	八平方呎	四十立方呎
二十四時未滿	六平方呎	三十立方呎	八平方呎	四十立方呎
二十四時未滿	六平方呎	三十立方呎	八平方呎	四十立方呎

(備考) 本表ハ旅客定員一人ニ充テヘキ船室ノ面積ノ最小限度ヲ示ス

○關東都督府令第十六號(官報 七月二十五日)  
船舶檢査手数料規則左ノ通定ム

關東都督 子爵大島義昌



船舶検査手数料規則

- 第一條 船舶検査證書、漁船検査證書、回航認可證書、通航證書、臨時旅客定員證書又ハ別種旅客定員證書ノ交付ヲ申請スルトキハ左ノ區別ニ從ヒ手数料ヲ納ムヘシ
- 一 總噸數二百噸未満ノ船舶 金二圓
  - 二 總噸數二百噸以上五百噸未満ノ船舶 金四圓
  - 三 總噸數五百噸以上千噸未満ノ船舶 金六圓
  - 四 總噸數千噸以上二千噸未満ノ汽船 金八圓
  - 五 總噸數二千噸以上ノ汽船 金十圓
- 積石數十石ヲ以テ總噸數一噸トス
- 第一項證書ノ再交付又ハ書換ヲ申請スルトキハ共ノ手数料ノ半額ヲ納ムヘシ
- 第二條 船舶検査手帖ノ再交付ヲ申請スルトキハ汽船ニ在リテハ金五圓、帆船ニ在リテハ金三圓ノ手数料ヲ納ムヘシ
- 第三條 大連、旅順、老虎灘又柳樹屯以外ノ地ニ於テ船舶ノ検査ヲ受クルトキハ前二條ノ手数料ノ外當該官吏ノ出張ニ要スル制規ノ旅費ニ相當スル金額ヲ手数料トシテ納ムヘシ
- 第四條 手数料ハ收入印紙ヲ以テ之ヲ納ムヘシ
- 第五條 本令ハ官廳ノ船舶カ検査ヲ受クル場合ニ之ヲ適用セス
- 附則
- 本令ハ明治四十四年八月一日ヨリ之ヲ施行ス
- 關東都督府令第十七號(官報 七月二十九日)
- 明治四十一年<sup>四</sup>月府令第二十八號旅順電氣使用規則中左ノ<sup>四</sup>通改正ス
- 明治四十四年七月十八日 關東都督 子爵大島義昌

第三十七條 電扇ハ電燈使用者ニ限リ其ノ請求ニ依リ裝置スルモノトス

第三十八條 電扇使用時間ヲ二種ニ分チ左ノ月額料金ヲ徵收ス

種別	筒數	電扇使用料
一晝夜使用		二十四時間
十二時	一基	金四圓
十六時	一基	金六圓
六十時	一基	金十二圓
一夜间使用		點燈ヨリ消燈迄
種別	筒數	電扇使用料
十二時	一基	金二圓
十六時	一基	金三圓
六十時	一基	金六圓

附則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

〔參照〕

- 關東都督府令第二十八號旅順電氣使用規則(明治四十一年<sup>四</sup>月<sup>五</sup>日<sup>五</sup>號)抄錄
- 第三十七條 電扇ハ普通電燈使用者ニ限リ其ノ請求ニ依リ裝置スルモノトス但シ其ノ使用時間ハ別ニ之ヲ定ム
- 第三十八條 電扇ハ左ノ月額料金ヲ徵收ス
- | 種別    | 筒數 | 電扇料  |
|-------|----|------|
| 十二時電扇 | 一基 | 金四圓  |
| 十六時電扇 | 一基 | 金六圓  |
| 六十時電扇 | 一基 | 金十二圓 |



○朝鮮總督府令第八十九號(官報 八月十四日)  
漁業ニ關スル手数料ノ件左ノ通定ム

明治四十四年八月五日

朝鮮總督 伯爵寺內正毅

- 第一條 漁業ニ關シ出願又ハ申請ヲ爲ス者ハ左ノ區別ニ從ヒ手数料ヲ納ムヘシ
- 一 漁業免許願 每一件 二圓
  - 二 漁業權存續期間更新ノ申請 每一件 二圓
  - 三 漁業權ノ讓渡、共有抵當又ハ貸付ノ許可願 每一件 二圓
  - 四 免許漁業ノ著手延期又ハ休業ノ許可願 每一件 二圓
  - 五 漁業令第二十條ニ依ル裁決ノ申請 每一件 五圓
  - 六 漁業免許事項ノ變更許可願 每一件 一圓
  - 七 漁業免許狀ノ訂正又ハ再下付ノ申請 每一件 五十錢
  - 八 漁業令第五條第二項ニ依ル入漁料徵收ノ認可申請 每一件 二圓
- 第二條 手数料ハ收入印紙ヲ願書又ハ申請書ニ貼付シテ之ヲ納ムヘシ

附則

本令ハ漁業令施行ノ日ヨリ之ヲ施行ス

○朝鮮總督府令第九十號(官報 八月十四日)

森林令ハ明治四十四年九月一日ヨリ之ヲ施行ス

明治四十四年八月七日

朝鮮總督 伯爵寺內正毅

○朝鮮總督府令第九十一號(官報 八月十四日)

土地收用令ヲ明治四十四年八月七日ヨリ平安南道嶺南浦府ニ施行ス

明治四十四年八月七日

朝鮮總督 伯爵寺內正毅



○朝鮮總督府令第九十二號(官報八月二十四日)  
全羅北道益山郡ノ位置ヲ南一面裡里ニ變更ス

朝鮮總督 伯爵寺內正毅

○朝鮮總督府令第九十三號(官報八月二十八日)  
濟生院規程中左ノ通改正ス  
第一條中「瘋癲者」ノ下ニ「其ノ他病者」ヲ加フ

朝鮮總督 伯爵寺內正毅

〔參照〕

朝鮮總督府令第七十七號濟生院規程(明治四十四年八月二十一日)抄録  
第一條 濟生院ハ朝鮮總督ノ監督ニ屬シ孤兒ノ養育、盲啞者ノ教育及瘋癲者ノ治療ヲ行フ

○朝鮮總督府令第九十四號(官報八月三十一日)  
京畿道龍仁郡ノ位置ヲ水餘面集鶴洞ニ變更ス

朝鮮總督 伯爵寺內正毅

附則  
本令ハ發布ノ日ヨリ施行ス

○朝鮮總督府令第九十五號(官報八月三十一日)

明治四十三年朝鮮總督府令第九號朝鮮總督府裁判所ノ名稱、位置及管轄區域表中左ノ通改正ス  
明治四十四年八月二十六日

朝鮮總督 伯爵寺內正毅

- 一 驪州區裁判所ノ項中「陽平」ノ下ニ「竹山」ヲ加ヘ水原區裁判所ノ項中「竹山」ヲ削ル
- 一 春川區裁判所ノ項中「麟蹄」ノ下ニ「洪川」ヲ加ヘ原州區裁判所ノ項中「洪川」ヲ削ル
- 一 鴻山區裁判所ノ項中「保寧、慈川(內於青島ヲ除ク)」ヲ削ル

一 洪州區裁判所ノ項中「唐津」ヲ削リ「沔川」ノ下ニ「保寧、慈川(內於青島ヲ除ク)」ヲ加フ

一 瑞山區裁判所ノ項中「泰安」ノ下ニ「唐津」ヲ加フ

一 清州區裁判所ノ項中「青山」ヲ削リ「永同區裁判所」ノ項中「黃洞」ノ下ニ「青山」ヲ加フ

一 北青區裁判所ノ項中「端川」ヲ削リ「城津區裁判所」ノ項中「吉州」ノ下ニ「端川」ヲ加フ

一 大邱區裁判所ノ項中「星州」ノ下ニ「河陽新寧、永川」ヲ加ヘ「慶州區裁判所」ノ項中「河陽新寧、永川」ヲ削ル

一 晉州區裁判所ノ項中「陝川、草溪」ヲ削リ「居昌區裁判所」ノ項中「山清」ノ下ニ「陝川、草溪」ヲ加フ

一 光州區裁判所ノ項中「求禮」ヲ削リ「順天區裁判所」ノ項中「興陽」ノ下ニ「求禮」ヲ加フ

一 木浦區裁判所ノ項中「智島」ノ下ニ「群山列島、蝦島列島、旺島列島、飛鷹島」ヲ除ク「」ヲ加ヘ「咸平」ノ下ニ「珍島」ヲ加フ

一 長興區裁判所ノ項中「珍島」ヲ削ル

一 群山區裁判所ノ項中「龍安」ノ下ニ「智島郡」ノ内「群山列島、蝦島列島、旺島列島、飛鷹島」ヲ加フ

附則

本令ハ明治四十四年九月一日ヨリ之ヲ施行ス  
本令施行前ニ受理シタル訴訟事件及非訟事件ハ其ノ事件ヲ受理シタル裁判所引續キ之ヲ取扱フ

○臺灣總督府令第五十四號(官報八月五日)

煙草耕作區域左ノ通相定ム

本令ハ明治四十四年九月一日ヨリ之ヲ施行ス

明治四十三年九月府令第六十三號ハ之ヲ廢止ス

明治四十四年七月二十七日

臺灣總督 伯爵佐久間左馬太







ニ「未廣村」ヲ、「水尾庄」ノ下ニ「瑞穗村」ヲ、「拔仔庄」ノ下ニ「大和村」ヲ、「鳳林庄」ノ下ニ「林田村」ヲ加  
フ

○臺灣總督府令第五十七號（官報八月十七日）

明治三十九年六月府令第四十五號臺灣特設電話加入規則第十六條ノ料金中左ノ通改正ス

本令ハ明治四十四年十月一日ヨリ之ヲ施行ス

嘉義及阿緞ノ加入者ニシテ本令施行ノ爲加入ヲ取消サントスル者ハ明治四十四年九月二十日限其

ノ請求書ヲ當該郵便局ニ差出スヘシ

前項ノ請求ヲ爲シタル加入者ニ對シテハ其ノ加入期間ニ屬スル明治四十四年十月一日以後ノ電話

交換料及附加使用料ヲ徴收セス

明治四十四年八月十日

臺灣總督 伯露佐久間左馬太

地名 電話交換料金年額

嘉義 六十圓

阿緞 四十八圓

○臺灣總督府令第五十八號（官報八月二十五日）

明治三十九年五月府令第二十九號臺灣度量衡規則施行規則左ノ通改正ス

明治四十四年八月十五日

臺灣總督 伯露佐久間左馬太

臺灣度量衡規則施行規則

第一章 度量衡器ノ制限

第一條 度量衡器ノ種類、形狀物質ハ左ニ掲クルモノニ限ル

度量衡器		形狀	物質	種類	容積	寸法	種類	容積	寸法
量器	(一) 秤	直形	金屬象牙骨竹木	直尺	十二尺以下	四「メートル」以下	十「メートル」以下	十「メートル」以下	十「メートル」以下
		直角形	金屬木	曲尺	長枝三尺以下	長枝「メートル」以下	長枝「メートル」以下	長枝「メートル」以下	長枝「メートル」以下
量器	(二) 斗	連接直形	金屬象牙骨竹木	疊尺	十五尺以下	五「メートル」以下	五「メートル」以下	五「メートル」以下	五「メートル」以下
		鐘狀	金屬	卷尺	六十六尺以下	二十「メートル」以下	二十「メートル」以下	二十「メートル」以下	二十「メートル」以下
量器	(三) 量器	細帶狀又ハ線狀	金屬革麻竹	卷尺	六十六尺以下	二十「メートル」以下	二十「メートル」以下	二十「メートル」以下	二十「メートル」以下
		金屬	金屬	斗升升合	斗升升合	斗升升合	斗升升合	斗升升合	斗升升合



















陶器製磁器製玻璃製研		各目盛		其ノ目盛ノ百分ノ一	
(一) 水重ノ公差					
一升ニ「リットル」及 二分ノ「ガロン」以下ノ全 製研	一「センチリットル」 二「センチリットル」 五「センチリットル」 一「デシリットル」	一「センチリットル」 二「センチリットル」 五「センチリットル」 一「デシリットル」	一「センチリットル」 二「センチリットル」 五「センチリットル」 一「デシリットル」	一「センチリットル」 二「センチリットル」 五「センチリットル」 一「デシリットル」	一「センチリットル」 二「センチリットル」 五「センチリットル」 一「デシリットル」
(二) 秤及方ノ寸法ノ公差					
秤(玻璃製陶器製磁器製) 秤及方 (無蓋除リ) 除ク	一升又ハ半「ガロン」以下 ニ升又ハ一「ガロン」以上	一升又ハ半「ガロン」以下 ニ升又ハ一「ガロン」以上	一升又ハ半「ガロン」以下 ニ升又ハ一「ガロン」以上	一升又ハ半「ガロン」以下 ニ升又ハ一「ガロン」以上	一升又ハ半「ガロン」以下 ニ升又ハ一「ガロン」以上
(三) 秤及方ノ寸法ノ公差					
斗概ノ徑	一「センチリットル」 二「センチリットル」 五「センチリットル」 一「デシリットル」	一「センチリットル」 二「センチリットル」 五「センチリットル」 一「デシリットル」	一「センチリットル」 二「センチリットル」 五「センチリットル」 一「デシリットル」	一「センチリットル」 二「センチリットル」 五「センチリットル」 一「デシリットル」	一「センチリットル」 二「センチリットル」 五「センチリットル」 一「デシリットル」
(四) 化學用量器ノ容量ノ公差					
種 類	全 量	公 差	種 類	全 量	公 差
一「センチリットル」 二「センチリットル」 五「センチリットル」 一「デシリットル」	一「センチリットル」 二「センチリットル」 五「センチリットル」 一「デシリットル」	0.001 0.002 0.005 0.01	一「センチリットル」 二「センチリットル」 五「センチリットル」 一「デシリットル」	一「センチリットル」 二「センチリットル」 五「センチリットル」 一「デシリットル」	0.001 0.002 0.005 0.01

出用「メス フラスコ」	五「センチリットル」以上 一合以下 二合五勺 五合 一升	0.01 0.02 0.05 0.1 0.2 0.5 1.0	出用「メス フラスコ」	二合五勺 五合 一升 五「センチリットル」以上 二「デシリットル」以下 五「デシリットル」 一「リットル」	0.01 0.02 0.05 0.1 0.2 0.5 1.0
目盛十箇毎ノ公差	五勺以下 一合以下 二合五勺 五合 一升	0.01 0.02 0.05 0.1 0.2 0.5 1.0	目盛十箇毎ノ公差	五勺以下 一合以下 二合五勺 五合 一升	0.01 0.02 0.05 0.1 0.2 0.5 1.0
全量ノ公差ノ二分ノ一	五勺以下 一合以下 二合五勺 五合 一升	0.01 0.02 0.05 0.1 0.2 0.5 1.0	全量ノ公差ノ二分ノ一	五勺以下 一合以下 二合五勺 五合 一升	0.01 0.02 0.05 0.1 0.2 0.5 1.0











リ營業ヲ廢止シタルトキハ十日以内ニ殘存器物又ハ衡器ノ一部修覆材料ノ買上ヲ殖産局ニ申請スルコトヲ得

前項ノ買上價格ハ殖産局ノ定ムル所ニ依ル

第十二條 殖産局ハ度量衡器販賣者ヨリ擔保トシテ有價證券ヲ提供シ度量衡器買下代金ノ延納ノ願出タルトキハ其ノ一回ノ買下代金三百圓以上ノモノニ限り相當ノ期間延納ヲ許可スルコトヲ得但シ翌年度六月末日ヲ超ユルコトヲ得ス

第十三條 左ノ有價證券ハ度量衡器買下代金ノ擔保トシテ之ヲ納付スルコトヲ得

一 國債證券及地方債券

一 確實ナル株式會社ノ株券又ハ債券

前項有價證券ノ擔保價格ハ臺灣總督之ヲ定ム

第十四條 度量衡器ノ修覆ヲ請ハムトスル者ハ其ノ器物ニ別記第三號樣式ノ修覆申請書ヲ添ヘ殖産局ニ差出スヘシ

殖産局ハ必要ト認ムルトキハ修覆申請ノ箇所ヲ増減シ又ハ他ノ相當補修品ヲ引換ヘ交付スルコトヲ得

第一項ニ依リ修覆スヘキ度量衡器ヲ差出シ難キトキハ其ノ事由及度量衡器ノ種類 箇數等ヲ詳記シ其ノ所在地ニ於テ修覆ヲ受ケムコトヲ殖産局ニ申請スルコトヲ得此ノ場合ニハ其ノ作業ニ要スル諸般ノ設備ヲ爲サシムルコトアルヘシ

第十五條 度量衡器ノ修覆申請者ハ殖産局ノ指定スル修覆料ヲ納付スヘシ

第十六條 度量衡器ノ販賣又ハ衡器ノ一部修覆ハ臺灣總督ニ於テ適當ト認メタル者ニ限り之ヲ特許ス但シ衡器販賣ノ特許ヲ得タル者ハ同時ニ衡器ノ一部修覆ノ特許ヲ得タルモノト看做ス

第十七條 度量衡器ノ販賣及衡器ノ一部修覆ノ特許年限ハ十五箇年以内トス

第十八條 度量衡器ノ販賣又ハ衡器ノ一部修覆ノ特許ヲ得ムト欲スル者ハ其ノ履歷書及左ノ事項ヲ詳記シタル願書ヲ提出スヘシ

販賣ノ特許ヲ願出ル者

一 販賣所ノ位置及構造

二 販賣セムトスル度量衡器ノ種類及其ノ販賣價格

三 流通資本

一 修覆所ノ位置及構造

二 流通資本

三 修覆ニ從事スヘキ主任技術者ノ氏名及履歷

第十九條 臺灣總督度量衡器ノ販賣又ハ衡器ノ一部修覆ヲ特許スルトキハ其ノ特許證ヲ下付ス前項ノ特許證ノ下付ヲ得タル者ハ其ノ營業所ノ見易キ場所ニ左ノ標札ヲ掲クヘシ

特許標號

度量衡器販賣所

(度量衡器販賣出張所)

(衡器一部修覆所)

住所氏名(代理者住所氏名)

特許證ヲ紛失シタルトキハ十日以内ニ更ニ其ノ下付ヲ請フヘシ

特許年限滿了シ又ハ特許ヲ取消サレ若ハ營業ヲ廢止シタルトキハ十日以内ニ其ノ特許證ヲ返納スヘシ

第二十條 度量衡器販賣者又ハ衡器一部修覆者ニシテ出張所ヲ設ケムトスルトキハ左ノ事項ヲ詳



記シ臺灣總督ノ認可ヲ受クヘシ

- 一 出張所ノ位置及構造
- 二 販賣セムトスル度量衡器ノ種類
- 三 出張所ニ於ケル代表者ノ氏名

第二十一條 特許證受領ノ日ヨリ三箇月以内ニ營業ヲ開始セス又ハ一箇月以上其ノ營業ヲ休止セムトスルトキハ豫メ事由ヲ具シ臺灣總督ノ認可ヲ受クヘシ

營業ヲ廢止セムトスルトキハ一箇月前ニ其ノ旨臺灣總督ニ届出ヘシ

第二十二條 臺灣總督ハ度量衡器販賣者又ハ衡器一部修繕者ニ對シ販賣又ハ修繕ニ關シ必要ナル命令ヲ爲スコトヲ得

第二十三條 臺灣度量衡規則第六條但書ニ依ル衡器ノ一部修繕ハ金額ニ非サル桿秤ノ取替 錘線及皿紐ノ取換ニ限ル但シ差狂アリト認ムルモノ及第四十二條ニ該當スル器物ハ之ヲ修繕スルコトヲ得ス

第二十四條 前條ノ取替 錘線 皿紐ハ政府ノ賣下ケタル相當種類ノモノヲ使用スルコトヲ要ス其ノ修繕料ハ別ニ定ムル所ノ修繕料ニ準スヘシ

前項修繕用材料ノ賣下ヲ請ハムトスル者ハ別記第四號様式ニ依リ殖産局ニ申請スヘシ

衡器ノ一部修繕用材料ハ如何ナル事由アルモ之ヲ販賣シ又ハ贈與スルコトヲ得ス

第二十五條 衡器販賣者及衡器一部修繕者ハ一貫又ハ五斤乃至一厘若ハ一「キログラム」乃至一「セシテグラム」各種ヲ合セ一組以上ノ分銅ヲ備ヘ左記ノ方法ニ依リ修繕器物ノ差狂ノ有無ヲ檢シ若シ差狂アリト認ムルトキハ其ノ修繕ヲ停止シ三日以内ニ其ノ器ノ名稱 種類及修繕依頼者ノ住所 氏名ヲ廳長ニ届出ヘシ

- 一 桿秤ヲ秤架ニ裝置シ錘ヲ直懸ニ懸ケ水平ヲ得ルヤ否ヲ檢シ若シ水平ヲ得サルトキハ差狂アル

モノトス

- 二 錘ヲ適宜中間ノ目盛一箇所ニ懸ケ其ノ目盛ニ相當スル分銅ヲ増減シテ平等ヲ得ルトキハ差狂ナキモノトス
- 三 錘ヲ盛出ニ懸ケ平等ヲ得タルトキ一度目ノ二分ノ一ニ相當スル分銅ヲ皿又ハ鈎ニ加ヘテ取動ヲ起シヤ否ヲ檢シ若シ取動ヲ起ササルモノハ更ニ其ノ分銅ヲ倍加シタルトキハ取動ヲ起セハ差狂ナキモノトス

前項ノ分銅ハ明治四十四年ヨリ起算シ五年毎ニ一回以上臺灣總督ノ檢定ヲ受クヘシ

衡器販賣者及衡器一部修繕者ハ修繕所ノ見易キ場所ニ其ノ修繕用材料ノ標本ヲ掲グヘシ

第二十六條 度量衡器販賣者ハ度量衡器修繕申請代理ノ依頼ヲ受ケタルトキハ正當ノ事由ナクシテ之ヲ拒絕スルコトヲ得ス

前項ノ依頼ヲ受ケタルトキハ手数料トシテ修繕料ノ外其ノ器ノ運搬及荷造ニ要シタル實費額ニ其ノ百分ノ十以内ヲ加算シタル金額ヲ依頼者ヨリ受領スルコトヲ得

第二十七條 度量衡器販賣者又ハ衡器一部修繕者ハ別記第六號様式ノ帳簿ヲ備ヘ相當欄ニ其ノ營業實況ヲ記入シ別記第七號様式ニ依リ毎年十二月末日ニ於ケル現在器物又ハ材料ノ種類 箇數ヲ翌年一月十日迄ニ殖産局ニ報告スヘシ

衡器一部修繕者ハ前項ノ外別記第八號様式ニ依リ毎年六月及十二月末日ニ至ル半箇年ノ修繕實況ヲ其ノ翌月十日迄ニ殖産局ニ報告スヘシ

第二十八條 度量衡器販賣者又ハ衡器一部修繕者ニシテ其特許年限滿了レ又ハ其特許ヲ取消サレ若ハ其營業ヲ廢止シタルトキハ十日以内ニ前條ノ報告ヲ爲スヘシ但シ本人死亡ノ場合ハ相續人ニ於テ其ノ手續ヲ爲スヘシ

第二十九條 度量衡器販賣者又ハ衡器一部修繕者ニシテ第十八條又ハ第二十條ノ事項ヲ變更シ又



ハ追加ヲ爲サトスルトキハ臺灣總督ノ認可ヲ受クヘシ

第三十條 度量衡器ニ關スル營業ハ臺灣總督ノ許可ヲ得テ之ヲ繼續スルコトヲ得

第三十一條 度量衡器販賣者又ハ衡器一部修葺者ハ左ノ度量衡器及衡器ノ一部修葺材料又ハ衡器ノ一部修葺材料ノ設備ヲ缺クコトヲ得ズ但シ特ニ臺灣總督ノ許可ヲ受ケタル者ハ此ノ限ニ在ラス

部類	番號	種類	部類	番號	種類	部類	番號	種類	部類	番號	種類
度量衡器	四七一	尺	衡器	二一	斗	衡器	一四	百斤用取種錘	衡器	一	衡器ノ一部修葺用材料
	四九二	尺		二二	升		二	二百五十斤			
	五一一	尺		二三	合		三	二百五十斤			
	五二一	尺		二四	合		四	二百五十斤			
	五三一	尺		二五	合		五	二百五十斤			
	五六一	寸		二六	合		六	二百五十斤			
	五七六	寸		二七	合		七	二百五十斤			
	五八六	寸		二八	合		八	二百五十斤			
	五九一	寸		二九	合		九	二百五十斤			
	五九五	寸		三〇	合		一〇	二百五十斤			
	一〇七一	尺		三一	合		一一	二百五十斤			
	一〇八一	尺		三二	合		一二	二百五十斤			
	一一〇二	尺		三三	合		一三	二百五十斤			
	一一一三	尺		三四	合		一四	二百五十斤			
				三五	合		一五	二百五十斤			
				三六	合		一六	二百五十斤			
				三七	合		一七	二百五十斤			
				三八	合		一八	二百五十斤			
				三九	合		一九	二百五十斤			
				四〇	合		二〇	二百五十斤			
				四一	合		二一	二百五十斤			
				四二	合		二二	二百五十斤			
				四三	合		二三	二百五十斤			
				四四	合		二四	二百五十斤			
				四五	合		二五	二百五十斤			
				四六	合		二六	二百五十斤			
				四七	合		二七	二百五十斤			
				四八	合		二八	二百五十斤			
				四九	合		二九	二百五十斤			
				五〇	合		三〇	二百五十斤			
				五一	合		三一	二百五十斤			
				五二	合		三二	二百五十斤			
				五三	合		三三	二百五十斤			
				五四	合		三四	二百五十斤			
				五五	合		三五	二百五十斤			
				五六	合		三六	二百五十斤			
				五七	合		三七	二百五十斤			
				五八	合		三八	二百五十斤			
				五九	合		三九	二百五十斤			
				六〇	合		四〇	二百五十斤			
				六一	合		四一	二百五十斤			
				六二	合		四二	二百五十斤			
				六三	合		四三	二百五十斤			
				六四	合		四四	二百五十斤			
				六五	合		四五	二百五十斤			
				六六	合		四六	二百五十斤			
				六七	合		四七	二百五十斤			
				六八	合		四八	二百五十斤			
				六九	合		四九	二百五十斤			
				七〇	合		五〇	二百五十斤			
				七一	合		五一	二百五十斤			
				七二	合		五二	二百五十斤			
				七三	合		五三	二百五十斤			
				七四	合		五四	二百五十斤			
				七五	合		五五	二百五十斤			
				七六	合		五六	二百五十斤			
				七七	合		五七	二百五十斤			
				七八	合		五八	二百五十斤			
				七九	合		五九	二百五十斤			
				八〇	合		六〇	二百五十斤			
				八一	合		六一	二百五十斤			
				八二	合		六二	二百五十斤			
				八三	合		六三	二百五十斤			
				八四	合		六四	二百五十斤			
				八五	合		六五	二百五十斤			
				八六	合		六六	二百五十斤			
				八七	合		六七	二百五十斤			
				八八	合		六八	二百五十斤			
				八九	合		六九	二百五十斤			
				九〇	合		七〇	二百五十斤			
				九一	合		七一	二百五十斤			
				九二	合		七二	二百五十斤			
				九三	合		七三	二百五十斤			
				九四	合		七四	二百五十斤			
				九五	合		七五	二百五十斤			
				九六	合		七六	二百五十斤			
				九七	合		七七	二百五十斤			
				九八	合		七八	二百五十斤			
				九九	合		七九	二百五十斤			
				一〇〇	合		八〇	二百五十斤			

第三十二條 當該官吏ハ度量衡器販賣者又ハ衡器一部修葺者ニ對シ前條以外ノ度量衡器又ハ修葺材料ノ設備ヲ必要ト認ムルトキハ之カ種類箇數ヲ指定シ其ノ買入レヲ命スルコトヲ得

第三十三條 廳長ハ必要ト認ムルトキハ度量衡器販賣者又ハ衡器一部修葺者ニ對シ其ノ販賣又ハ修葺ノ爲指定地ニ義務出張ヲ命スルコトヲ得

第三十四條 度量衡器販賣者又ハ衡器一部修葺者ハ前條ノ場合ヲ除クノ外其ノ營業所以外ニ於テ度量衡器ノ販賣又ハ衡器ノ一部修葺ヲ爲スコトヲ得ズ但シ博覽會、共進會又ハ其ノ賣店ニ於テ販賣スル場合ハ此ノ限ニ在ラス

前項但書ニ依リ營業所外ニ於テ販賣セムトスルトキハ臺灣總督ノ認可ヲ受クヘシ

第三十五條 度量衡器販賣者又ハ衡器一部修葺者ハ正當ノ事故ナクシテ其ノ販賣又ハ修葺ヲ拒ミ若ハ其ノ販賣又ハ修葺ノ約束期限ヲ遅延スルコトヲ得ズ

第三章 檢定及取締

第三十六條 度量衡器ノ檢定ヲ受ケムトスル者ハ其ノ器物ニ別記第五號様式ノ檢定申請書ヲ添ヘ殖産局ニ差出スヘシ

前項ニ依リ檢定ヲ受クヘキ度量衡器ヲ差出シ難キトキハ其ノ事由及度量衡器ノ種類箇數等ヲ詳記シ其ノ所在地ニ於テ檢定ヲ受ケムコトヲ臺灣總督ニ申請スルコトヲ得此ノ場合ニハ當該吏員ノ旅費及其他ノ費用ヲ負擔セシムルコトアルヘシ

第六條ニ依リ特許ヲ受ケテ輸入又ハ移入シタル度量衡器ノ檢定申請者ハ殖産局ノ指定スル檢定料ヲ納付スヘシ

第三十七條 修葺料引換料及檢定料ハ收入印紙ヲ以テ納付スルコトヲ得

第三十八條 修葺又ハ檢定済ノ通知ヲ受ケ三十日以内ニ修葺料又ハ檢定料ヲ納付セス又ハ其ノ器物ノ引取ヲ了セサルトキハ政府ハ適宜之ヲ處分ス修葺又ハ檢定申請者ハ之ニ對シ不服ヲ申立テ



又ハ損害ノ補償ヲ要請スルコトヲ得ス

第三十九條 度量衡器ノ檢定ハ臺灣度量衡規則第三條 第四條及本令第一條乃至第三條並別ニ定

ムル所ノ度量衡器檢査ニ關スル規定ニ適合スルモノヲ以テ合格トス

第四十條 政府ノ賣下修覆若ハ檢定ニ合格シタル度量衡器ニハ其ノ證印ヲ附シ必要ト認ムルト

キハ年號ノ數字印ヲ附加ス

證印又ハ證書アルモノニシテ不合格ノトキハ證印ニハ消印ヲ附シ證書ハ之ヲ破毀スヘシ

第四十一條 證印及消印ノ雛形左ノ如シ

雛形

證印



長徑 四分六厘  
短徑 二分六厘  
厚 一分二厘  
長徑 四分六厘  
短徑 二分六厘  
厚 一分二厘  
長徑 四分六厘  
短徑 二分六厘  
厚 一分二厘  
長徑 四分六厘  
短徑 二分六厘  
厚 一分二厘

消印



長徑 四分六厘  
短徑 二分六厘  
厚 一分二厘  
長徑 四分六厘  
短徑 二分六厘  
厚 一分二厘  
長徑 四分六厘  
短徑 二分六厘  
厚 一分二厘  
長徑 四分六厘  
短徑 二分六厘  
厚 一分二厘

第四十二條 汚染腐蝕毀損 腐蝕等ニ因リ度量衡器ノ證印證書ノ識別シ難キモノ又ハ證書ノ紛失

シタルモノハ更ニ其ノ度量衡器ノ檢定ヲ受クヘシ

第四十三條 度量衡器ニ類似スル器物ハ何等ノ名稱 命位ヲ附スルモ之ヲ販賣又ハ證明ノ用ニ供

スルコトヲ得ス但シ特別ノ技術ニ使用スル器械ハ此ノ限ニ在ラス

第四十四條 臺灣度量衡規則第十條ニ依リ檢査ヲ行フ場合ニ於テ警察官吏ニ非サル檢査吏員ニハ左ノ證票ヲ携帯セシム

雛形

度量衡檢査吏員之證

年月日

臺灣總督府印

長 三寸  
寬 二寸

第四十五條 前條ニ依リ行フ檢査ヲ左ノ二種ニ區別ス

第一種臨檢 區域ト期間ヲ定メ指定ノ場所ニ度量衡

器ノ提供ヲ命ジ技術上ノ檢査ヲ行フ

第二種臨檢 店舖 製造場 其他必要ト認ムル

場所ニ就キ度量衡器ノ取締ヲ行フ

第四十六條 第一種臨檢ハ當該技術官 第二種臨檢ハ當該官吏又ハ警察官吏ヲシテ之ヲ行ハシム

第四十七條 第一種臨檢ハ之ヲ開始セムトスル十五日前ニ其ノ區域並期日ヲ告示ス

前項ノ告示アリタルトキハ其ノ區域内ニ於ケル度量衡器ノ所持者ハ其ノ指定ノ期日ニ受檢スヘ

キ度量衡器ニ自己ノ氏名ヲ記載セル標札ヲ附シ指定ノ場所ニ提供スヘシ

第四十八條 第一種臨檢ニ合格シタル度量衡器ニハ檢印ヲ押捺シ不合格品ニハ第四十一條ノ消

印ヲ附ス

第四十九條 當該官吏ニ於テ取締上必要ト認ムルトキハ指定ノ場所ニ其ノ度量衡器又ハ之ニ關ス

ル物件ノ提供ヲ命スルコトヲ得

第五十條 當該官吏ニ於テ第四十三條ニ相當スル器物又ハ不正ノ度量衡器ナリト認ムルトキハ

直ニ之ヲ領置スルコトヲ得



第五十一條 當該官吏ニ於テ度量衡器ニ異狀又ハ差狂ノ疑アリト認ムルトキハ直ニ其ノ販賣又ハ使用ヲ停止シ修覆又ハ檢定申請ヲ命スルコトヲ得

汚染磨滅毀損腐蝕等ニ因リ度量衡器ノ品位ヲ害スルモノト認ムルトキ亦前項ニ同シ

第五十二條 前二條ノ場合ニ於テ當該官吏ハ必要ト認ムルトキハ其ノ器物ノ分解ヲ命シ又ハ之ヲ分解スルコトヲ得

第五十三條 當該官吏ニ於テ必要ト認ムルトキハ證明ノ用ニ供スヘキ度量衡器ノ種類ヲ指定スルコトヲ得

第五十四條 一定ノ店舗ヲ構ヘ穀類ノ賣買ヲ業トスル者又ハ一箇年十石(玄米)以上ノ租穀ヲ收納スル者ハ穀用枴一斗若ハ五升及一升、五合、二合五勺、一合ノ各箇ヲ合セ一組以上玆其ノ相當斗概ヲ所持スルコトヲ要ス

第五十五條 五斗以上ノ穀類ヲ計量スル場合ハ全量一斗未滿ノ枴ヲ使用スルコトヲ得ス

第五十六條 公設市場其ノ他ニ於テ貸貸又ハ公衆ノ貨物ヲ計量スル爲一定ノ度量衡器ヲ設備セムトスル者ハ豫メ廳長ノ認可ヲ受クヘシ

前項ノ度量衡器及衡器ニ在リテハ同種類ノモノ二箇以上量器ニ在リテハ一斗乃至一合ニ至ル各種ヲ合セ一組以上設備スルコトヲ要ス

第一項ノ認可ヲ受ケタル者ハ其ノ業務場見易キ場所ニ左ノ標札及其ノ貸貸料ヲ掲クヘシ

指令第	號
公衆貨物計量所	
住所	氏名

第五十七條 同種類ノ秤ノ錘又ハ増錘ニシテ其ノ秤桿ト符號ヲ異ニスルモノハ之ヲ使用スルコト

ヲ得ス

第五十八條 穀類用枴ハ之ヲ液類ノ計量ニ又液類用枴ハ之ヲ穀類ノ計量ニ使用スルコトヲ得ス

第五十九條 檢定又ハ修覆申請者ハ分解ノ命令ヲ受ケタル度量衡器ヲ爾後廢用セムトスル者ハ最

警察官署ニ其ノ器ヲ提供シ之カ處置ヲ請求スヘシ

警察官署ニ於テ前項ノ請求ヲ受ケタルトキハ爾後度量衡器トシテ使用レ得サル様其ノ形體ノ變

更シ又ハ破毀スヘシ

第六十條 左記各號ノ一ニ該當スル度量衡器ハ營業場其ノ他證明ヲ爲スヘキ場所ニ置キ又ハ行

商若ハ屋外作業等ニ攜帶スルコトヲ得ス

一 差狂又ハ差狂ノ疑アルモノ

二 構造ニ異狀ヲ生シタルモノ

三 檢定證印ナキモノ

四 品位ヲ害スルモノト認メタルモノ

五 分離シ得ルモノニシテ符號ノ一致セサルモノ

第四章 罰則

第六十一條 第二十二條ノ命令及第四十七條第二項ニ違反シ又ハ第四十九條及第五十條ニ依リ當

該官吏ノ命令若ハ領置ヲ拒ミタル者ハ二百圓以下ノ罰金又ハ科料ニ處ス

第六十二條 第九條第二十條第二十一條第二十三條第二十四條第二十五條第二十六條第二十七條第二十八條第二十九條第三十條第三十一條第三十二條第三十三條第三十四條第三十五條第三十六條第三十七條第三十八條第三十九條第四十條第四十一條第四十二條第四十三條第四十四條第四十五條第四十六條第四十七條第四十八條第四十九條第五十條第五十一條第五十二條第五十三條第五十四條第五十五條第五十六條第五十七條第五十八條第五十九條第六十條第六十一條第六十二條第六十三條第六十四條第六十五條第六十六條第六十七條第六十八條第六十九條第七十條第七十一條第七十二條第七十三條第七十四條第七十五條第七十六條第七十七條第七十八條第七十九條第八十條第八十一條第八十二條第八十三條第八十四條第八十五條第八十六條第八十七條第八十八條第八十九條第九十條第九十一條第九十二條第九十三條第九十四條第九十五條第九十六條第九十七條第九十八條第九十九條第一百條

第六十三條 第十九條第二項第三項第四項第二十二條第二十五條第二十六條第二十七條第二十八條第二十九條第三十條第三十一條第三十二條第三十三條第三十四條第三十五條第三十六條第三十七條第三十八條第三十九條第四十條第四十一條第四十二條第四十三條第四十四條第四十五條第四十六條第四十七條第四十八條第四十九條第五十條第五十一條第五十二條第五十三條第五十四條第五十五條第五十六條第五十七條第五十八條第五十九條第六十條第六十一條第六十二條第六十三條第六十四條第六十五條第六十六條第六十七條第六十八條第六十九條第七十條第七十一條第七十二條第七十三條第七十四條第七十五條第七十六條第七十七條第七十八條第七十九條第八十條第八十一條第八十二條第八十三條第八十四條第八十五條第八十六條第八十七條第八十八條第八十九條第九十條第九十一條第九十二條第九十三條第九十四條第九十五條第九十六條第九十七條第九十八條第九十九條第一百條

第六十四條 第九十九條第二項第三項第四項第二十二條第二十五條第二十六條第二十七條第二十八條第二十九條第三十條第三十一條第三十二條第三十三條第三十四條第三十五條第三十六條第三十七條第三十八條第三十九條第四十條第四十一條第四十二條第四十三條第四十四條第四十五條第四十六條第四十七條第四十八條第四十九條第五十條第五十一條第五十二條第五十三條第五十四條第五十五條第五十六條第五十七條第五十八條第五十九條第六十條第六十一條第六十二條第六十三條第六十四條第六十五條第六十六條第六十七條第六十八條第六十九條第七十條第七十一條第七十二條第七十三條第七十四條第七十五條第七十六條第七十七條第七十八條第七十九條第八十條第八十一條第八十二條第八十三條第八十四條第八十五條第八十六條第八十七條第八十八條第八十九條第九十條第九十一條第九十二條第九十三條第九十四條第九十五條第九十六條第九十七條第九十八條第九十九條第一百條







第四號樣式

明治年月日	廳	庄	番	氏	名印
臺灣總督府民政部殖產局 御中					
衡器ノ一部修覆用材料買下申請書					
申請第	號				
秤	量	秤	秤	秤	秤
計					
明治年月日	廳	庄	番	氏	名印
臺灣總督府民政部殖產局 御中					

第五號樣式

用紙半紙  
又ハ美濃

度量衡器檢定申請書

物		竹		物		扁		種		種		天	
實	種	實	種	實	種	實	種	實	種	實	種	實	種
直尺何尺又ハ何「メートル」		何合又ハ何「リットル」		斗		何又ハ何「グラム」		自		何又ハ何「キログラム」		何	
類	類	類	類	類	類	類	類	類	類	類	類	類	類
箇	箇	箇	箇	箇	箇	箇	箇	箇	箇	箇	箇	箇	箇
數	數	數	數	數	數	數	數	數	數	數	數	數	數



秤	秤		
量	杯		
明治年 月 日	廳 街	庄 街	番 戶
臺灣總督宛			
			氏 名 印

第六號樣式ノ一

度量衡器仕入明細帳

仕入月日	種	類	部類番號	箇	仕	入	代	高

第六號樣式ノ二

衡器一部修覆材料仕入明細帳

仕入月日	種	類	箇	仕	入	代	高

第六號樣式ノ三

度量衡器販賣明細帳

販賣月日	種	類	部類番號	箇	販	賣	代	高

第六號樣式ノ四

衡器一部修覆明細帳

依	額	部	類	取	修	箇	數	修	正	備
月	日	番	號	籍	鐘	錘	錘	錘	錘	錘

第七號樣式ノ一

度量衡器現在高報告書

種類	部類番號	現在高	種類	部類番號	現在高	種類	部類番號	現在高



第七號樣式ノ二

右及報告候也	廳	堡	庄	街	番	戸	氏	名	印
明治年月日									
臺灣總督府民政部殖産局 御中									

衡器一部修覆材料現在高報告書

(明治年月日現在)

種	類	箇	數	又	ハ	組	種	類	箇	數	又	ハ	組
右及報告候也													
明治年月日													
臺灣總督府民政部殖産局 御中													
度量衡器販賣者 氏 名 印													
又ハ衡器一部修覆者													
廳 堡 庄 街 番 戸													

第八號樣式

衡器一部修覆實況表

(自明治年月日至明治年月日)

秤	量	箇	數	一	取	修	覆	箇	數	一	組	箇	數	一	組	修	覆	料
右及報告候也																		
明治年月日																		
臺灣總督府民政部殖産局 御中																		
度量衡器販賣者 氏 名 印																		
又ハ衡器一部修覆者																		
廳 堡 庄 街 番 戸																		

○臺灣總督府令第五十九號(官報八月二十五日)

明治四十二年七月府令第五十二號砂糖消費稅法施行規則中左ノ通改正ス

明治四十四年八月十六日

第十二條ニ左ノ一項ヲ追加ス 臺灣總督 伯爵佐久間左馬太

得 糖蜜ヲ戎克船ニ依リテ清國ニ輸出シタル場合ニ限り前項第二號ノ書類ハ之ヲ添附セサルコトヲ

附則

本令ハ發布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

(參照)

臺灣總督府令第五十二號砂糖消費稅法施行規則(明治四十二年七月二十日)抄録

第十二條 砂糖消費稅法第五條ニ依リ提供シタル擔保ノ解除ヲ請求セムトスル者ハ申請書ニ左ノ書類ヲ添附シ所轄關ニ提

出スヘシ 二 外國輸入港税關ノ輸入免狀又ハ外國ニ陸揚シタルコトヲ証スヘキ書類



○臺灣總督府令第六十號 (官報 八月二十九日)

明治四十三年三月府令第十四號臺灣工業用酒精戻稅規則施行規則中左ノ通改正ス  
臺灣總督 伯喬佐久間左馬太

第一條第二項中「蒸氣汽罐燃料ヲ」蒸氣汽罐其ノ他發動機燃料ニ改ム  
附則  
本令ハ發布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

〔參照〕

臺灣總督府令第十四號臺灣工業用酒精戻稅規則施行規則(明治四十三年三月九日官報)抄録  
第一條 酒精ヲ左ノ物品製造ニ使用シタルトキハ工業用ニ供シタルモノトシ臺灣工業用酒精戻稅規則第一條ニ依リ金額下  
付ノ請求ヲ爲スコトヲ得  
火藥、尼刺、依的兒、石鹼、單寧酸、龍腦、食鹽、セルロイド、外國ニ輸出スル香水  
酒精ヲ左ノ用途ニ供シタルトキ亦前項ニ同シ  
蒸氣汽罐燃料、セルロイド加工用

○臺灣總督府令第六十一號 (官報 八月二十九日)

明治三十七年十一月府令第八十五號電話料及電話呼出料ノ部ニ左ノ通追加ス  
本令ハ明治四十四年八月十九日ヨリ之ヲ施行ス

臺灣總督 伯喬佐久間左馬太					
新竹大湖間	二十五錢	后里庄新營庄間	五十五錢	林圯埔水灌間	三十五錢
後龍大湖間	十錢	葫蘆墩北港間	四十五錢	梅里橋頭庄間	三十錢
苗栗大湖間	十錢	葫蘆墩新營庄間	五十五錢	五間厝橋頭庄間	三十錢
通霄大湖間	十錢	鹿港新營庄間	四十五錢	五間厝橋頭水灌間	三十五錢
三叉河大湖間	十錢	北斗新營庄間	三十五錢		十錢
大湖后里庄間	十五錢	溪洲庄新營庄間	三十五錢		十錢

○關東都督府令第十八號 (官報 八月九日)

明治四十一年四月府令第二十七號關東州防禦營造物地帯令施行細則中左ノ通改正ス  
關東都督 子爵大島義昌

第三條第一項中所轄民政署長ノ下ニ又ハ同支署長ヲ加フ

〔參照〕

關東都督府令第二十七號關東州防禦營造物地帯令施行細則(明治四十一年四月二十二日官報)抄録  
第三條第一項  
要務司官ノ許可ヲ得ハトスル者ハ左ニ掲クル事項ヲ記シ所轄民政署長ノ證明書ヲ添ヘ出願スヘシ

○關東都督府令第十九號 (官報 八月十五日)

明治四十三年十月府令第三十一號旅順及大連水道給水規則中左ノ通改正ス  
關東都督 子爵大島義昌

第十一條第二項ノ次ニ左ノ一項ヲ加フ

量水器ヲ撤去スルトキハ撤去手数料ヲ徵收ス

第二十六條中「水道事務所長ヲ」關東都督府作業所長及同支所長ニ改ム

第二十九條中「翌月十日迄ニ」翌月之ヲニ改ム

〔參照〕

關東都督府令第三十一號旅順及大連水道給水規則(明治四十三年十月十一日官報)抄録  
第二十六條 料金ハ左ノ區分ニ依リ水道事務所長之ヲ徵收ス  
第二十九條第一項  
水料ハ毎月末點檢シタル消費水量ニ依リ徵收額ヲ査定シ翌月十日迄ニ徵收ス



○關東都督府令第二十號(官報八月十五日)

明治四十一年九月府令第四十七號傳染病豫防規則第一條第二項ニ依リ「バナチノム」ヲ同規則ニ依リ豫防方法ノ施行ヲ必要ト認ムル傳染病ト指定ス

明治四十四年八月七日

關東都督 子爵大島義昌

○朝鮮總督府令第九十六號(官報九月七日)  
朝鮮總督府及所屬官署職員宿舍料支給規則中左ノ通改正ス

明治四十四年九月一日

朝鮮總督 伯爵寺內正毅

第十二條 削除

別表中雇員ノ欄ヲ削ル

備考第一項中「及囑託員」及「授業手」ハ雇員ニ準レテヲ削ル

附則

本令ハ發布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

本令施行ノ際現ニ宿舍料ヲ支給スル 囑託員、雇員及授業手ニハ明治四十五年度限り従前ノ支給額以內ニ於テ宿舍料ヲ支給スルコトヲ得

〔參照〕

朝鮮總督府令第二十五號朝鮮總督府及所屬官署職員宿舍料支給規則(明治四十三年十月十二日官報抄録)  
第十二條 本則施行ノ際ニ限リ別表ニ掲ラス雇員ニハ最高額迄ヲ支給スルコトヲ得

○朝鮮總督府令第九十七號(官報九月七日)

朝鮮總督府巡查及朝鮮總督府巡查補採用及給與令中左ノ通改正ス

明治四十四年九月一日

朝鮮總督 伯爵寺內正毅

第五條 朝鮮總督府巡查ニシテ官舎ヲ給セサル者ニハ左ノ區別ニ依リ宿舍料ヲ給ス

一等地 九圓 二等地 八圓 三等地 七圓 四等地 六圓 五等地 五圓

六等地 四圓 七等地 三圓  
土地ノ等級ハ警務總長之ヲ定ム



附則  
本令ハ發布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

〔參照〕

朝鮮總督府令第十四號朝鮮總督府巡查及巡查補採用及給與令(明治四十三年十月一日)抄録  
 第五條 朝鮮總督府巡查ニシテ官舎ヲ給セサル者ニハ左ノ區別ニヨリ宿料ヲ給ス但シ朝鮮人ハ此ノ限ニ在ラス

一等地	一箇月金十圓	五等地	一箇月金五圓
二等地	一箇月金八圓	六等地	一箇月金四圓
三等地	一箇月金七圓	七等地	一箇月金三圓
四等地	一箇月金六圓		

土地ノ等級ハ警務總長之ヲ指定ス

○朝鮮總督府令第九十八號(官報 九月二十二日)

朝鮮總督府始政一周年紀念ノ爲紀念郵便葉書ヲ發行シ郵便局及郵便所ニ於テ之カ賣捌ヲ爲サン

明治四十四年九月十五日

朝鮮總督 伯爵寺內正毅

○朝鮮總督府令第九十九號(官報 九月二十三日)

電話規則第四十九條第一項中左ノ通改正ス

- 一 加入登記料 一申込毎ニ
 

朝鮮總督	伯爵寺內正毅
甲地	金十五圓
乙地	金十圓
丙地	金五圓
甲地	金五圓
乙地	金三圓
- 二 名義書換料 一名義毎ニ

- 三 電話使用料 一加入毎ニ
 

一般通話ヲ爲スモノ	甲地年額金七十二圓
專用通話ヲ爲スモノ	乙地年額金六十八圓
	丙地年額金四十八圓
	甲地年額金六十八圓
	乙地年額金四十八圓
	丙地年額金三十六圓
- 四 附加使用料
 

一 加入區域外加入	加入區域外電話線路ノ線長一丁迄毎ニ	甲地年額金一圓五十錢
一 長距離電話通話	一箇毎ニ	乙地年額金一圓二十錢
一 卓上電話機	一箇毎ニ	甲地年額金十二圓
一 増設普通電話機	一箇毎ニ	乙地年額金十二圓
一 増設卓上電話機	一箇毎ニ	甲地年額金二十四圓
一 増設受話機	一箇毎ニ	乙地年額金八圓
一 増設電鈴	一箇毎ニ	甲地年額金三圓
一 第二十八條ニ依ル接続電話機	十箇迄ハ一箇毎ニ 十箇以上ハ一箇ヲ増ス毎ニ	年額金三圓 年額金三圓

- 五 電話料
 

一 同一加入區域内又ハ同一呼出地域内	一通話時ノ通話料	金五錢
	一回ノ電話呼出料	金五錢
- 第一條第二項及第二十六條但書ニ依ル加入者ハ同一加入區域内ニ在ルモノト爲ス



附則  
本令ハ明治四十四年十月一日ヨリ之ヲ施行ス

○朝鮮總督府令第百號(官報 九月二十七日)

土地收用令ハ明治四十四年九月二十二日ヨリ之ヲ廢尙南道釜山府ニ施行ス

明治四十四年九月二十二日

○朝鮮總督府令第百一號(官報 九月二十八日)

郵便規則中左ノ通改正ス

明治四十四年九月二十二日

目次第二章第十節ヲ左ノ如ク改ム

第十節 集金郵便

第九條第五號中「現金取立郵便物」ヲ「集金郵便」ニ改ム

第三十四條第九號ヲ削ル

第二章第十節ヲ左ノ如ク改ム

第十節 集金郵便

第六十六條 左ノ證書又ハ證券ニシテ持參人ニ支拂ハルヘキモノハ郵便集配事務及郵便爲替事務ヲ取扱フ郵便官署ノ郵便區市内ニ限リ集金郵便トシテ其ノ金額ノ取立ヲ郵便官署ニ委託スルコトヲ得

一 現金受領證

二 株式配當券

三 公債又ハ社債ノ利券

朝鮮總督 伯爵寺內正毅

朝鮮總督 伯爵寺內正毅

四 現金受領證ヲ添附シタル貨物引換證又ハ船荷證券

集金郵便ニ依ル金額ノ制限ハ一口ニ付金千圓トス

第六十七條 集金郵便ハ二通以上ノ證書又ハ證券ヲ以テ一口ト爲スコトヲ得ス但シ同一ノ委託者ニ屬シ同一ノ支拂人ヨリ同時ニ取立テ得ヘキ證券ハ此ノ限ニ在ラス

第六十八條 集金郵便ニ關スル料金ハ左ノ如シ

- 一 集金委託料 一口ニ付 (現金受領證 金二錢 證券 金五錢)
- 二 集金送達料 取立濟ノ金額ニ對シ一口ニ付
 

金一圓迄	金三錢
金三圓迄	金四錢
金五圓迄	金五錢
金十圓迄	金六錢
金五十圓迄	金八錢
金百圓迄	金十錢

以上金百圓迄ヲ増ス毎ニ金五錢ヲ加フ

第六十九條 集金郵便ノ委託ヲ爲サトスル者ハ集金郵便委託書ト共ニ現金ヲ取立ツヘキ證書又ハ證券ヲ郵便官署ニ差出シ郵便官署ヨリ其ノ證書又ハ證券ノ受領證ヲ受取ルヘシ

第七十條 一定ノ期日ニ取立ツヘキ證書又ハ證券ハ支拂人所在地ニ達スヘキ日數ヲ除キ該期日ヨリ早クモ十日遅クモ三日以前ニ之ヲ委託スヘシ

第七十一條 集金郵便ノ第一回ノ取立ニ際シ其ノ金額ヲ取立ツルコト能ハサル場合ニ於テハ直ニ證書又ハ證券ノ還付ヲ受ケムコトヲ望ム者ハ係メ委託書ニ其ノ旨ヲ記入スヘシ

第七十二條 集金郵便ハ一定ノ期日ニ取立ツヘキモノハ其ノ期日ニ其ノ他ノモノハ成ルヘク速



ニ取立郵便官署ニ於テ支拂人ノ居宅ニ就キ該證書又ハ證券ヲ引換ニ現金ヲ取立テ其ノ取立ヲ了スルコト能ハサルモノハ一定ノ期日ニ取立ツヘキモノ及第七十一條ニ該當スレモノヲ除ク外爾後二回以上ノ取立ヲ試ムルモノトス其ノ期間ハ該證書又ハ證券ヲ取立郵便官署ニ接受シタル日ヨリ三十日限トス

集金郵便ノ支拂人其ノ居宅ヲ移轉シタルトキハ其ノ移轉先ニ就キ前項ノ手續ヲ爲スヘシ

第七十二條 集金郵便ニ依ル現金受領證又ハ貨物引換證若ハ船荷證券ニ添附シタル現金受領證ニハ取立郵便官署ニ於テ其ノ取立ヲ爲シタル年月日ヲ記入スヘシ

第七十四條 左ノ場合ニ於テハ其ノ委託ノ證書又ハ證券ヲ委託者ニ還付ス

- 一 支拂人ノ所在不明ナルトキ
- 二 支拂人集金郵便ノ取立ヲ取扱ハサル區域ニ移轉シタルトキ
- 三 一定ノ期日ニ取立ツヘキモノニシテ其ノ期日ヲ經過シタルトキ
- 四 第七十二條ニ依リ取立ヲ爲スモ其ノ金額ヲ取立ツルコト能ハサルリントキ
- 五 支拂人支拂ヲ拒絶シタルトキ

第七十五條 集金郵便ノ取立ヲ了シタルトキハ其ノ旨ヲ委託者ニ通知ス

委託者前項ノ通知ヲ受ケタルトキハ其ノ通知書及集金送達料ヲ引受郵便官署ニ差出シ取立金ノ交付ヲ受クヘシ

前項通知書ノ讓渡ニ關シテハ第六十三條ノ規定ヲ準用ス

第七十六條 現金受領證ニ依ル集金郵便ノ委託者取立金ノ交付ヲ受ケムトスルトキハ其ノ集金郵便受領證ヲ引受郵便官署ニ呈示スヘシ

證券ニ依ル集金郵便ノ委託者ニ對シテハ其ノ集金郵便受領證ヲ引換ニ取立金ノ交付又ハ證券ノ還付ヲ爲ス

前二項ニ依ル集金郵便受領證亡失ノ場合ニ於テハ第六十四條ノ規定ヲ準用ス

第七十七條 郵便振替貯金加入者ハ別ニ定ムル所ニ從ヒ其ノ發行ニ係ル現金受領證ニ依リ之カ集金及口座拂込ニ關スル特別取扱ヲ請求スルコトヲ得

第七十七條ノ二 委託者ハ未タ取立ヲ了セサル集金郵便ヲ取消シ該證書若ハ證券ノ還付ヲ請求スルコトヲ得

集金郵便ノ取消ニ關シテハ郵便物取戻ノ規定ヲ準用ス

第百十四條第四號中現金取立郵便ヲ「集金郵便」ニ改ム

附則

本令ハ明治四十四年十月一日ヨリ之ヲ施行ス

本令施行前ニ差出シタル現金取立郵便物ニ關シテハ従前ノ規定ニ依ル

〔參照〕

- 朝鮮總督府令第九號郵便規則(明治四十四年三月十四日(官報)抄録)
- 第九條 郵便ニ關スル料金ニシテ左ニ記載シタルモノハ其ノ納付人ノ請求ニ依リ郵便切手ヲ以テ之ヲ還付ス
- 五 亡失又ハ失効ニ因リ損害賠償ヲ爲スヘキ場合ノ寄附郵便物(價格表記載郵便物)現金取立郵便物ノ郵便ニ關スル料金
- 第三十四條 郵便物ノ特殊ノ取扱ニ要スル料金ハ左ノ如シ
- 九 現金取立料一口ニ付 金五錢
- 外ニ取立金送達料トシテ代金引換ト同一ノ割合ニ依ル金額
- 第六十六條 代金受領證(株式配當券公債ハ社債ノ利息)保險掛金受領證ニシテ持受人ニ支拂ハルヘキモノハ郵便官署ノ郵便市内ニ限リ現金取立トシテ其ノ金額ヲ取立郵便官署ニ委託スルコトヲ得
- 現金取立郵便ニ依ル金額ノ制限ハ一口ニ付金千四トス
- 第六十七條 現金取立ハ一口ニ付二通以上ノ證券ヲ委託スルコトヲ得ス但シ同一ノ債權者ニシテ同一ノ債權者ヨリ同時ニ取立ヲ得ヘキモノハ此ノ限ニ在ラス
- 第六十八條 現金取立ノ委託ヲ爲サムトスル者ハ現金取立委託書ト共ニ金額ヲ取立ツヘキ證券ヲ郵便官署ニ差出シ其ノ受領證ヲ受取ルヘシ



第六十九條 一定ノ期日ニ取立テハキ證券ハ債務者所在地ニ送スヘキ日數ヲ除キ該期日ヨリ早クモ十五日過ラズ五日前ニ之ヲ委託スヘシ

第七十條 現金取立郵便ニ依ル證券ヲ債務者ニ呈示ノ際其ノ金額ヲ取立ツルコトヲ得タル場合ニ於テ其ノ證券ノ還付ヲ望ム者ハ委託書ニ其ノ旨記入シテ送スヘシ

第七十一條 現金取立郵便物ノ到着郵便官署ハ債務者ニ委託證券呈示ノ期日ヲ預告シ該期日ニ債務者ノ居所ニ於テ證券ヲ換ニ其ノ金額ノ支拂ヲ求ムヘシ但シ債權者其ノ居所ヲ移轉シ移轉先同一取立區域内ナルトキハ其ノ移轉先ニ於テ同様ノ手續ヲ爲スヘシ

第七十二條 委託ノ證券呈示ノ際債務者ノ支拂拒絶ニ依ルニ非スシテ其ノ金額ヲ取立ツルコト能ハサルトキハ郵便官署ハ七日内ニ指定ノ郵便官署ニ出頭シテ該金額ノ支拂ヲ爲スヘキ旨ヲ記載シタル告知書ヲ其ノ居所ニ送スヘシ但シ第七十條ニ依ル請求アル場合ハ此ノ限ニ在ラス

第七十三條 委託ノ證券呈示ノ際債務者ノ所在不明ナルトキ、其ノ取立區域外ニ移轉シタルトキ、債務者カ其ノ金額ノ支拂ヲ拒絶シタルトキ又ハ其ノ金額ヲ所定ノ期間内ニ支拂ハサルトキハ郵便官署ハ委託證券受領證ト引換ニ委託ノ證券ヲ返出人ニ還付ス

第七十四條 取立郵便官署ニ於テ委託證券ノ金額ヲ其ノ債務者ヨリ取立タルトキハ引受郵便官署ハ返出人ニ其ノ旨ヲ通知ス

差出人前項ノ通知ヲ受ケタルトキハ所定ノ期間ニ其ノ通知書、委託證券ノ受領證及取立金送附料ヲ送付シ之ヲ引換ニ取立金ノ交付ヲ受ケヘシ

第七十五條 前條通知書ノ讓渡ニ關シテハ第六十三條ノ規定ヲ準用ス

第七十六條 委託證券ノ受領證亡失ノ場合ニ於ケル證明書送附料ニ關シテハ第六十四條ノ規定ヲ準用ス

第七十七條 現金取立ノ取消ニ關シテハ第六十五條ノ規定ヲ準用ス

第七十八條 郵便法第三十三條ニ依ル郵便物損害賠償ノ金額ハ左ノ割合ニ依ル

一 現金取立郵便ニ依ル證券ノ亡失又ハ失致ノトキハ其ノ實損額

二 朝鮮總督府令第百二號(官報九月二十八日)

集金郵便振替貯金拂込規則左ノ通定ス

明治四十四年九月二十三日

朝鮮總督 伯爵寺內正毅

集金郵便振替貯金拂込規則

第一條 郵便振替貯金加入者ハ本令ノ定ムル所ニ從ヒ其ノ發行ニ係ル現金受領證書ニ依リ之カ集

金及口座拂込ニ關スル特別取扱ヲ郵便官署ニ請求スルコトヲ得

第二條 本令ニ依ル特別取扱ニ關シテハ其ノ委託料及集金拂込料トシテ郵便規則第六十八條ノ料金ヲ一月分宛取繼メ之カ請求ヲ爲シタル加入者ノ貯金ヨリ控除徴收ス

集金拂込ニ關シテハ郵便振替貯金規則ニ依ル拂込料金及口座受入料金ヲ徴收セス

第三條 加入者ノ發行スル現金受領證書ハ口座所管廳ニ於テ發賣スル振替貯金集金書用紙ヲ以テ之ヲ作製スヘシ

前項用紙ノ價格ハ五十枚綴一冊ニ付十錢トス

第四條 加入者ハ私製ノ集金書用紙ヲ使用スルコトヲ得

前項用紙ハ附録様式ニ適合シ且其ノ相當欄ニ加入者ノ口座番號及氏名ヲ印刷シタルモノナルコトヲ要ス但シ豫メ口座所管廳ノ承認ヲ受クルトキハ其ノ様式ヲ變更スルコトヲ得

第五條 加入者集金拂込ノ取扱ヲ請求セムトスルトキハ集金書ノ現金受領證書ノ部ニ受領年月日ヲ除クノ外現金領收ニ關スル相當證明ヲ付シ且之ニ接續セル監査票、拂込票及拂込通知票ニ相當事項ヲ記入シ之ヲ郵便局所ニ差出スヘシ但シ現金支拂人ノ住所ハ拂込票ヲ除クノ外之カ記載ヲ省略スルコトヲ得

第六條 前條ノ請求ニ對シ郵便局所ニ於テ集金ヲ了シタルトキハ之ヲ當該加入者ノ振替貯金口座ニ拂込ノ手續ヲ爲ス

第七條 加入者集金拂込ノ請求ヲ爲シタル後之カ取消ヲ要スルトキハ口座番號、氏名請求月日、金額支拂人住所氏名等ヲ記載シタル取消請求書ヲ當初請求ヲ爲シタル郵便局所ニ差出スヘシ此ノ場合ニ於テ取立郵便局所ニ通知ヲ要スルモノナルトキハ其ノ料金トシテ郵便ニ依ルモノニ在リテハ八錢、電報ニ依ルモノニ在リテハ四十錢ヲ郵便切手ヲ以テ納付スヘシ

第八條 郵便局所ニ於テ加入者ノ請求ニ依リ集金拂込ノ取消ヲ爲シタルトキハ集金書ハ之ヲ加入



者ニ還付ス

集金拂込ノ取消ヲ爲シタル場合ト雖委託料金ハ之ヲ徴收ス

第九條 本令ニ依ル特別取扱ニ關シテハ郵便規則第六十六條第二項 第六十九條乃至第七十一條 第七十五條及第七十六條ヲ適用セス

第十條 本令ニ依ル特別取扱ニ關シテハ本令ニ定ムルモノノ外郵便規則及郵便振替貯金規則ノ定ムル所ニ依ル

附則

本令ハ明治四十四年十月一日ヨリ之ヲ施行ス

附錄様式

集 金					
票 査 監					
支拂人氏名	* 一金	加入者氏名	番 號	口 座	局 番
*					
附屬所口 印日管座		印日局取 附所立			番交付 號付

\*印を附しある部は加入者に於て記載せらるべし

振 替 貯 金 集 金 書					
金 集			金 集		
票 知 通 込 拂			票 込 拂		
支拂人氏名	* 一金	加入者氏名	番 號	口 座	局 番
*					
附屬所口 印日管座		印日局取 附所立			番交付 號付

\*印を附しある部は加入者に於て記載せらるべし



現金受領證書

口座 番號	
加入者 氏名	何何
一金	何何
右領收候也	
明治年月日	何 某印
道府郡面番地 縣岡市郡町村番地 殿	
取立 日附印	

注意 (現金受領證書ハ口座番號加入者氏名及取立所日附印欄ヲ除ク  
ノ外適宜其ノ記載事項ヲ變更スルモ妨ナシ)

用紙 西洋紙 縦五寸三分横一尺二寸  
寸法 (現金受領證書ハ縦四寸三分横二寸四分(内法)  
刷色赤色)

【集第一號】

○朝鮮總督府令第六十二號(官報九月二十八日)  
朝鮮下内地臺灣權太及清國間郵便規則第六章中「現金取立」ヲ「集金郵便」ニ改ム

附則

本令ハ明治四十四年十月一日ヨリ之ヲ施行ス

明治四十四年九月二十三日

朝鮮總督 伯爵寺内正毅

○臺灣總督府令第六十二號(官報九月一日)  
郵便私書函一期間ノ使用料左ノ通相定ム

附則

本令ハ明治四十四年十月一日ヨリ之ヲ施行ス

明治四十四年八月二十六日

臺灣總督 伯爵佐久間左馬太

臺北及臺南郵便局 金六圓

基隆臺中嘉義及打狗郵便局 金四圓

其ノ他ノ郵便局所 金一圓二十錢

○臺灣總督府令第六十三號(官報九月十一日)

明治四十二年三月府令第九號臺灣公學校歲入取扱規則中左ノ通改正ス

明治四十四年八月三十日

臺灣總督 伯爵佐久間左馬太

第二條 公學校經費ノ負擔金ハ別ニ定ムル處ニ依リ設立區域内ノ本島人ヨリ徵收ス

前項ノ負擔金ハ當該區長ヲシテ分賦セシムルコトヲ得

區長ヲシテ分賦セシムル負擔金ノ徵收告知書及徵收傳令書ハ別記様式ニ依ルヘシ

第三條 公學校ノ授業料ハ當該區長ヲシテ之カ取纏ヲ爲サシムルコトヲ得

附則

本令ハ發布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

明治四十四年度分負擔金ノ徵收ニ付テハ從前ノ例ニ依ルコトヲ得

別記様式

(家稅徵收告知書接用紙其ノ他家稅徵收告知書ニ同シ)

第	號	明治(何)年度	納入	(何)區長氏	名
徵	(何)公學校歲入	頁	錢	金	頁
			錢	金	(何)期
					分



收 告 知 書		領 收 證	
<p>現金領收者印</p> <p>何廳長 氏 名</p> <p>44.9.1 領收</p> <p>明治 年 月 日</p> <p>何廳長 氏 名</p> <p>44.9.1 領收</p>	<p>現金領收者印</p> <p>何廳長 氏 名</p> <p>44.9.1 領收</p> <p>明治 年 月 日</p> <p>何廳長 氏 名</p> <p>44.9.1 領收</p>		
<p>現金領收者印</p> <p>何廳長 氏 名</p> <p>44.9.1 領收</p> <p>明治 年 月 日</p> <p>何廳長 氏 名</p> <p>44.9.1 領收</p>	<p>現金領收者印</p> <p>何廳長 氏 名</p> <p>44.9.1 領收</p> <p>明治 年 月 日</p> <p>何廳長 氏 名</p> <p>44.9.1 領收</p>		

收 傳 令 書		領 收 證	
<p>現金領收者印</p> <p>何廳長 氏 名</p> <p>44.9.1 領收</p> <p>明治 年 月 日</p> <p>何廳長 氏 名</p> <p>44.9.1 領收</p>	<p>現金領收者印</p> <p>何廳長 氏 名</p> <p>44.9.1 領收</p> <p>明治 年 月 日</p> <p>何廳長 氏 名</p> <p>44.9.1 領收</p>		
<p>現金領收者印</p> <p>何廳長 氏 名</p> <p>44.9.1 領收</p> <p>明治 年 月 日</p> <p>何廳長 氏 名</p> <p>44.9.1 領收</p>	<p>現金領收者印</p> <p>何廳長 氏 名</p> <p>44.9.1 領收</p> <p>明治 年 月 日</p> <p>何廳長 氏 名</p> <p>44.9.1 領收</p>		



〔參照〕

臺灣總督府令第九號臺灣公學校歲入取扱規則(明治四十二年三月二十七日)抄錄

第二條 公學校經費ノ負擔金ヲ徵收セムトスルトキハ其ノ設立區域内ノ家税額ヲ標準トシ家税ノ納期ニ從ヒ當該街庄長ヲシテ之カ分限ヲ爲サシム

前項ノ場合ニ在リテハ家税徵收告知書ニ接續シタル別記様式ノ徵收告知書ヲ發スヘシ徵收傳令書ノ發行ニ就テモ亦同シ

第三條 公學校ノ授業料ヲ徵收セムトスルトキハ當該街庄長ヲシテ之カ取極メヲ爲サシムルコトヲ得

○臺灣總督府令第六十四號(府報 九月十九日)

臺灣官有森林原野豫約賣渡規則左ノ通相定ム

明治四十四年九月六日

臺灣總督 伯爵佐久間左馬太

臺灣官有森林原野豫約賣渡規則

第一條 臺灣官有森林原野及產物特別處分令第一條第二號及第四號ニ依リ開墾、牧畜又ハ植樹ノ爲森林原野ヲ賣渡ストキハ總テ豫約賣渡ノ方法ニ依ル

第二條 豫約賣渡ヲ爲スヘキ土地ノ面積ハ左ノ制限ニ依ルヘシ但シ土地ノ狀況其ノ他相當ト認ムル事由アルトキハ此ノ限ニ在ラス

- 一 開墾ニ供スル土地 百甲
- 二 牧畜ニ供スル土地 五百甲
- 三 植樹ニ供スル土地 五百甲

第三條 豫約賣渡地ノ成功期間ハ許可ノ月ヨリ起算シ十年ヲ超ユルコトヲ得ス但シ前條但書ノ場合並植樹ニ供スル土地ハ本條期間二倍ノ範圍内ニ於テ相當期間ヲ定ム

第四條 天災其ノ他避クヘカラサル事故ニ因リ豫定ノ期間内ニ事業ヲ成功スルコト能ハサル者ニ對シテハ出願ニ依リ其ノ期間ヲ延長スルコトアルヘシ

前項ノ延長期間ハ通シテ豫定期間ノ半ヲ超ユルコトヲ得ス

第五條 臺灣總督ノ定ムル地域内ニ於テ開墾、牧畜又ハ植樹ニ從事セムトスル目的ヲ以テ移住スル者ノ豫約賣渡ヲ受クヘキ場合ハ臺灣總督之ヲ指定ス

第六條 豫約賣渡ヲ受ケムトスル者ハ別記第一號様式ノ願書ニ起業方法書、地圖、原簿又ハ實測設計圖及戶籍謄本(本島人ニ在リテハ戶口調査簿抄本)ヲ添附シ其ノ土地所轄ノ地方廳ニ提出スヘシ

但シ前條ノ指定地ニ在リテハ起業方法書、地圖、原簿及實測設計圖ノ添附ヲ要セス

前項添附書類ノ外會社ニ在リテハ定款、組合共ノ他共同シテ事業ヲ經營セムトスル者ニ在リテハ規約書ヲ添附スヘシ

第七條 豫約賣渡ヲ受ケムトスル者ハ其ノ土地ノ調査又ハ事業設計ノ爲一年ヲ超ヒサル期間ニ於テ豫定存置ノ出願ヲ爲スコトヲ得

前項ノ出願ヲ爲サムトスル者ハ別記第二號様式ノ願書ニ目論見書及見取圖ヲ添附シ其ノ土地所轄ノ地方廳ニ提出スヘシ

豫定存置ノ許可ヲ受ケタル者ハ其ノ期間經過後同一地ノ部分ニ對シ再ヒ豫定存置ノ出願ヲ爲スコトヲ得ス

第八條 豫定存置ノ許可ヲ受ケタル者期間内ニ調査又ハ設計ヲ終ラサルカ若ハ官ニ於テ其ノ土地ニ支障アルコトヲ發見シタルトキハ許可ヲ取消スモノトス

第九條 豫約賣渡又ハ豫定存置ノ許可書ノ交付ヲ受ケタルトキハ十五日以内ニ別記第三號様式ノ請書ヲ其ノ土地所轄ノ地方廳ニ提出シ土地ノ引渡ヲ申請スヘシ但シ第五條ノ指定地ニ在リテハ許可ノ日ヲ以テ引渡ヲ終リタルモノト看做ス

第十條 土地ノ引渡ヲ受ケタルトキハ直ニ四至ノ境界ニ別記離形ノ標杭ヲ建設シ尙中間ニ間標ヲ置キ其ノ境界ヲ明瞭ナラシムヘシ但シ第五條ノ指定地ニ在リテハ此ノ限ニ在ラス

前項ノ界標ハ豫約賣渡地ニ在リテハ成功期間、豫定存置地ニ在リテハ豫定存置期間之ヲ存置レ



亡失毀損ノ場合ハ更ニ設置スヘシ

第十一條 買受豫約人ハ土地ノ引渡ヲ受ケタル日ヨリ九十日以内ニ豫定ノ方法ニ從ヒ事業ニ著手シ其ノ日ヨリ十日以内ニ其ノ土地所轄ノ地方廳ニ届出ヘシ

第十二條 豫約賣渡ヲ許可シタル土地ニ付テハ其ノ成功期間中貸付料ヲ徵收ス  
貸付料ハ一箇年ニ付豫約賣渡地代金ノ百分ノ一以上トシ買受豫約人ハ毎年十二月翌年分ヲ共ノ土地所轄ノ地方廳ニ納付スヘシ但レ許可ノ年ニ係ル貸付料ハ月割計算ヲ以テ即納スヘシ  
貸付料ハ成功後實測面積ニ比シ増減ヲ生スルモ追徴又ハ還付ヲ爲ササルモノトス

第十三條 公益又ハ土地ノ狀況其ノ他ノ事由ニ因リ臺灣總督ニ於テ必要ト認ムルトキハ前條ノ貸付料ヲ減免シ又ハ地代金ヲ減額スルコトヲ得

第十四條 指定地ノ地代金ニ關シテハ前項ノ外仍十年以内ノ無利息年賦ト爲スコトヲ得  
前項ノ指定地ハ明治二十九年十月府令第四十四號臺灣省有森林原野豫約賣渡規則ニ依リ之ヲ賣渡スモノトス

第十五條 官ニ於テ吏員ヲ派遣シ實地ノ狀況ヲ検査セシムルトキハ豫定存置ノ許可ヲ受ケタル者又ハ買受豫約人ハ之ヲ拒ムコトヲ得ス  
前項ノ場合ニ於テ立會ヲ要スル爲豫約賣渡者ハ豫定存置ノ許可ヲ受ケタル者又ハ出願人ニシテ當該官吏ヨリ通知ヲ受ケタルトキハ之ニ立會スヘシ

第十六條 買受豫約人ハ別記第四號様式ニ依リ前年ニ於ケル事業ノ功程ヲ翌年一月三十一日限其ノ土地所轄ノ地方廳ニ届出ヘシ但シ第五條ノ指定地ニ在リテハ此ノ限ニ在ラス

第十七條 豫約賣渡ヲ受ケタル森林原野ハ許可ヲ得スレテ他人ニ讓渡シ貸渡シ若ハ擔保ノ目的ニ供スルコトヲ得ス

前項ノ許可ヲ受ケムトスル者ハ當事者ノ連署シタル願書ニ豫約賣渡ノ許可書ヲ添附シ其ノ土地所轄ノ地方廳ニ提出スヘシ但シ貸渡ニ關シ豫約賣渡ノ許可ヲ受ケタルトキハ此ノ限ニ在ラス  
前項ノ場合ニ於テ讓渡ニ在リテハ讓受人ノ戶籍謄本(本島人ニ在リテハ戶口調査簿抄本)ヲ添附スヘシ

第十八條 前條ニ依リ豫約賣渡ヲ受ケタル者ノ權利ヲ取得シタル者ハ前權利者ノ權利義務ヲ繼承ス

第十九條 買受豫約人ニシテ左記事項ノ一ニ該當スルトキハ直ニ戶籍謄本(本島人ニ在リテハ戶口調査簿抄本)ヲ添附シ本人又ハ相續人法定代理人若ハ管理人ヨリ其ノ土地所轄ノ地方廳ニ届出ヘシ但シ轉居及管理人ノ變更又ハ改氏名ノ場合ニハ戶籍謄本若ハ戶口調査簿抄本ノ添附ヲ要セス

一 死亡失踪相續分家又ハ改氏名シタルトキ  
二 法定代理人若ハ管理人ノ變更又ハ改氏名シタルトキ  
三 轉籍又ハ轉居シタルトキ

第二十條 起業方法又ハ使用ノ目的ハ許可ヲ受ケタルニ非サレハ變更スルコトヲ得ス  
前項ノ許可ヲ受ケムトスル者ハ其ノ事由ヲ詳記シタル願書ニ起業方法及實測設計圖ヲ添附シ其ノ土地所轄ノ地方廳ニ提出スヘシ但シ第五條ノ指定地ニ在リテハ添附書類ヲ要セス

第二十一條 豫約賣渡地ノ全部ヲ成功シタルトキハ直ニ別記第五號様式ノ願書ニ實測圖ヲ添附シ其ノ土地所轄ノ地方廳ニ提出スヘシ但シ土地臺帳ニ登録シタル土地ニ在リテハ地圖ノ謄本ヲ以テ實測圖ニ代用シ又ハ第五條ノ指定地ニ在リテハ實測圖ヲ省略スルコトヲ得

第二十二條 買受豫約人ニ於テ賣渡ノ許可書ヲ受ケタルトキハ直ニ地代金ヲ共ノ土地所轄ノ地方廳ニ納付スヘシ



第二十三條 買受豫約人他人ヲ以テ業務ヲ代理セシムルトキハ委任狀ヲ添附シ共ノ土地所轄ノ地方廳ニ届出ヘシ共ノ代理人ヲ變更シタルトキ亦同シ

第二十四條 買受豫約人第十條第十一條第十二條第二項第十四條第一項第十五條第十六條第十七條第十九條第二十條第二十一條及第二十二條ヲ遵守セス又ハ天災共ノ他正當ノ事由ナクシテ豫定ノ期間内ニ成功セス若ハ成功ノ見込ナシト認メタルトキハ未成功地若ハ全部ノ許可ヲ取消スコトアルヘシ

第二十五條 買受豫約人ノ便宜ニ因リ土地ヲ返還シ又ハ前條ニ依リ許可ノ取消ヲ受ケタル場合ニ於テ其ノ土地ニ存在スル工作物共ノ他ノ物件ハ買受豫約人ニ於テ官ノ指定スル期間内ニ之ヲ除去スヘシ

前項ノ場合ニ於テ既納ノ貸付料及地代金ハ之ヲ還付セス

第二十六條 左ノ各號ノ一ニ該當スルモノハ共ノ出願ヲ無効トス

一 出願人實地ニ立會ヲ命セラレ正當ノ事由ナクシテ立會ヲ爲ササルトキ

二 願書ノ訂正ヲ命セラレ指定ノ期限内ニ之カ訂正ヲ爲ササルトキ

三 豫約買渡又ハ豫定存置ノ許可書ヲ交付スルニ際シ本人又ハ代理人ノ所在不明ニシテ第一回ノ呼出狀ヲ發シタル日ヨリ六十日ヲ過クルモ尙許可書ヲ交付スルコト能ハサルトキ

第二十七條 第八條及第二十四條ニ依リ許可ヲ取消シタル場合ニ於テ許可ヲ受ケタル者若ハ共ノ代理人命令書ノ受領ヲ拒ミタルトキ又ハ所在不明ニシテ之ヲ交付スルコト能ハサルトキハ府報ニ掲載スルノ外仍共ノ土地所轄ノ廳支廳及區長役場ノ揭示場ニ三日間之ヲ公示シ公示ノ終リタル日ヲ以テ其ノ取消ヲ命シ終リタルモノト看做ス

第二十八條 出願人又ハ共ノ代理人ハ出願後ニ於テ住所ヲ變更シタル場合ハ共ノ土地所轄ノ地方

廳ニ届出ヘシ

文書ノ送達ハ前項ノ住所ニ之ヲ爲スモノトス

附則

本令ハ發布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

明治二十九年十月府令第四十五號臺灣官有森林原野豫約買渡規則ハ之ヲ廢止ス

第條四第二項ノ規定ハ本令施行前豫約買渡ヲ許可セラレタル者ニ之ヲ適用セス

第十二條ノ規定ハ本令施行前豫約買渡ヲ許可セラレタル者及現ニ出願中ノ者ニ之ヲ適用セス

(別記)

第一號様式

官有原野(森林)豫約買渡願

座落

一 原野(森林) 何甲 田畑ニ開墾(又ハ何々)ノ見込

一 百年ノ貸付料一甲ニ付 金何程

成功後ノ買渡地代金一甲ニ付 金何程

右ハ臺灣官有森林原野豫約買渡規則ヲ遵守シ別紙起業方法書並測量設計圖ノ通無相違成功可致候間該地豫約書様式下款成下段此段奉願候也

明治 年 月 日

住所

願業氏 名印

臺灣總督

備考

一 土地面積登錄地ハ一筆毎ニ土名土名ナキモノハ庄名ノ下ニ其ノ地番ヲ記載スヘシ但シ登錄地二筆以上又ハ該地ト未登錄地トヲ合併出願セムトキハ各別ニ別記シ甲附ニ合計ヲ附スヘシ

二 住所ハ現住所ヲ記載スヘシ但シ暫留者ナルトキハ其ノ右側ニ原籍地ヲ併記スヘシ

三 出願地ニシテ願書ニ附ルトキハ各別ニ願書ヲ調製シ卷添トシテ全地積ニ對スル起業方法書並測量設計圖ヲ添附スヘシ







飼育

耕作 如何甲 耕作ニ要スル 勞力種苗費 給料及雜費

以上其ノ總數單價位總費額ヲ各別ニ掲記スルコトハ開墾ノ例ニ準スヘシ 但シ第二年度以後ハ第一年度ニ準ス

六 事業ノ收支豫算(百甲未満ハ單ニ支出ニ對スル年度割ノミヲ掲記) スルモ逆支ナシ但シ必要アルトキハ之ヲ徴ス) 右ノ通相違無之候也

明治 年 月 日

備考 開墾ノ例ニ同シ

起業方法書(植樹ノ例)

陸路

一 原野(森林) 何甲 別紙實測設計圖ノ通 開墾ノ例ニ同シ

二 立木 (同上)

三 經營ノ方法 (同上)

四 成功期間 (同上)

五 事業年度配當 第一年度

整地(面積何甲)

植栽(面積何甲)

苗木(何本)

區劃線開墾(幅何間 長何間)

手入(下草刈 拂何回 補植共)

家屋建築(何々何棟)

事務 給料及雜費

氏名

以上其ノ總數單價位總費額ヲ各別ニ掲記スルコトハ開墾ノ例ニ準スヘシ 但シ第二年度以後ハ第一年度ニ準ス

六 事業ノ收支豫算(三百甲未満ハ單ニ支出ニ對スル年度割ノミヲ掲記) スルモ逆支ナシ但シ必要アルトキハ之ヲ徴ス) 右ノ通相違無之候也

明治 年 月 日

備考 開墾ノ例ニ同シ

苗圃設計書

座落 一 苗圃 面積何甲 土地ノ種別

二 經營ノ方法

三 事業ノ年度配當 第一年度

播種法 何種 種子何種 單價 總費額

養成 (肥料 澆水 除草等) 同 同

第三年度

山行苗 何樹 何本

山行費 (掘取 運送 及 荷造材料運搬費) 總費額

床替苗 何樹 何本 (二對スル人夫費等ヲ含ム)

床替費 (掘取 及 床替ニ對スル人夫費) 何種

播種量 一年目ニ準ス

養成 (同上)

但シ三年目以降ハ二年目ノ例ニ準ス

以上ニ依リ山行苗一木ノ單價ヲ見込ミ之ヲ起業方法書ニ記載ノコト

(開墾牧畜又ハ植樹ノ混合經營)

開墾牧畜又ハ植樹ノ混合經營ヲ同一願書ニテ出願スル場合ハ實測設計圖ニ各事業區域ヲ記入シ夫夫之ニ該當スル起業方法書ヲ 前各例ニ準シ記入スヘシ

氏名







一 道路(幅何尺) 何甲  
 一 灌溉(同) 何甲  
 一 土庫(同) 何甲  
 一 田 何甲  
 一 家屋(何坪) 何甲  
 一 何 何甲

但シ三年以降ハ屆出ル年ノ前年迄ニ成功シタル分リ合併シ此ノ例ニ依リ記載スヘシ  
 右成功程度御届仕候也  
 明治 年 月 日

臺灣總督

氏名

住所

備考

- 一 第一號様式ニ同シ
- 二 同斷
- 三 牧畜及植樹ハ本書式ニ準スヘシ

第五號様式

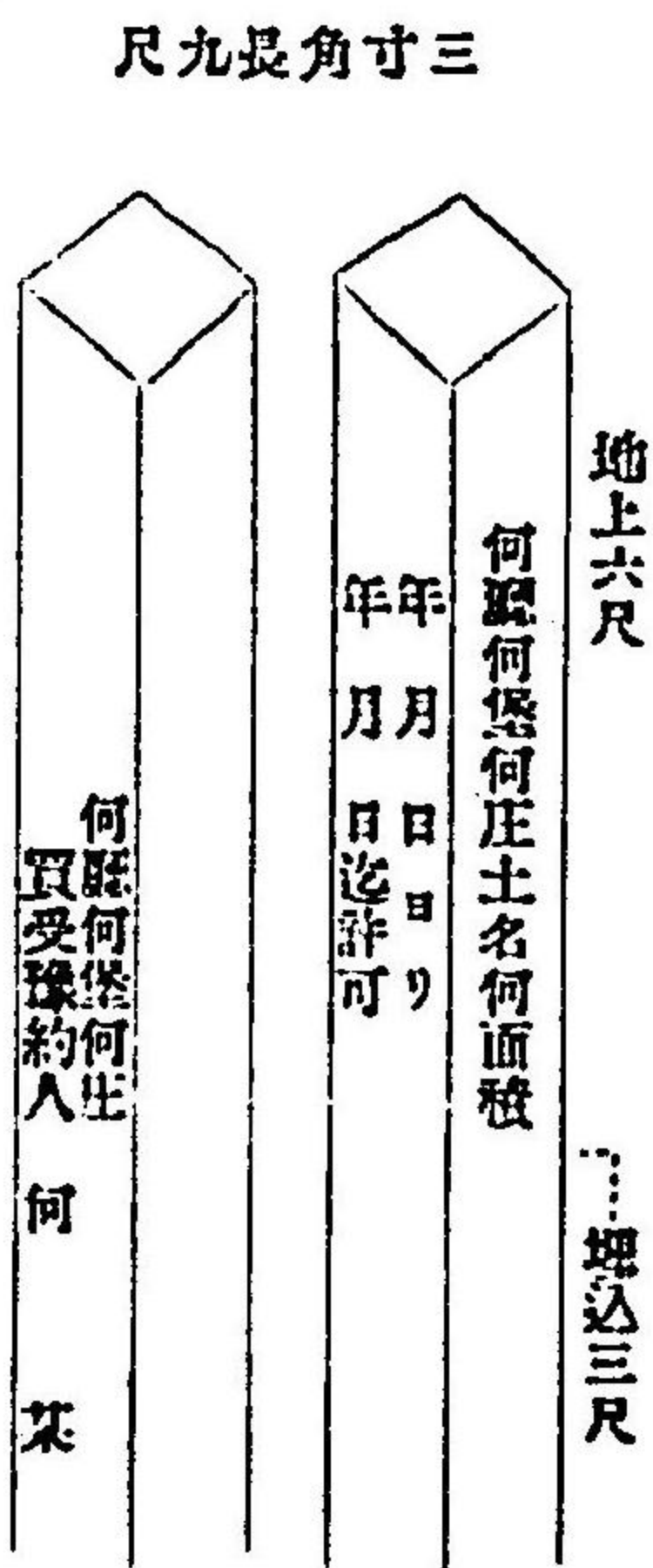
預約賣渡許可地賣渡願

座落 何甲  
 面積 但シ明治 年 月 日附指令第何號許可  
 成功内訳 何甲  
 一 田 何甲  
 一 畑 何甲  
 一 建物敷地 何分  
 右臺灣官有森林原野預約賣渡規則ニ依リ預約賣渡許可ノ處今同全地敷成候ニ付御賣渡相成度別紙賣渡願相添ヘ此段奉願候也  
 明治 年 月 日 住所 氏名

臺灣總督

備考  
 一 牧畜及植樹ハ本書式ニ準スヘシ

離形



備考

- 一 豫定存置ニ在リテハ何某ノ肩書ヲ豫定存置許可人ト爲スヘシ
- 二 間標ハ一寸角長一尺五寸トシ適宜ノ符號ヲ記入スヘシ但シ豫約賣渡ニ在リテハ適當ナル界水ヲ植付テルヲ妨ケス

臺灣總督府令第六十五號(官報九月十九日)

明治四十四年六月府令第四十九號關稅法第三十九條ノ二ノ通路中基隆打狗間ノ次ニ左ノ一項ヲ加フ  
 本令ハ發布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

明治四十四年九月七日

臺灣總督 伯露佐久間左馬太

安平打狗間

安平ヨリ臺南ニ至ル輕便鐵道線路又ハ安平ヨリ臺南ニ至ル運河水路及臺南ヨリ打狗ニ至ル鐵道線路

臺灣總督府令第六十六號(官報九月十九日)

明治四十三年九月府令第六十四號打狗港内船舶出入及運航規程中左ノ通改正ス  
 明治四十四年九月七日 臺灣總督 伯露佐久間左馬太



第十四條 港内又ハ其ノ附近ニ於テ通航又ハ工事ノ妨害シ若ハ危險ノ原因トナルヘキ難破物其ノ他ノ物件アルトキハ臺灣總督府土木部長ノ指定スル期間内ニ其ノ船長若ハ其ノ所有者ニ於テ之ヲ取除クヘシ

前項ノ義務者不明ナルトキハ臺灣總督府土木部長ハ之ヲ除去スルコトヲ得

第十五條 船舶カ浮標 立標其ノ他ノ官有營造物ヲ毀損又ハ滅失シタルトキハ其ノ船長又ハ船舶操縦者ニ於テ臺灣總督府土木部長ノ指定スル期間内ニ原形ニ復スヘシ

第十五條ノ二 臺灣總督府土木部長ハ第十四條第一項又ハ前條ノ命令ヲ受ケタル義務者ニ於テ指定ノ期間内ニ終了スヘキ見込ナシト認メタルトキハ自ラ之ヲ履行シ又ハ第三者ヲシテ之ヲ履行セシメ共ノ費用ヲ義務者ヨリ徴收スルコトヲ得

附則

本令ハ發布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

〔参照〕

臺灣總督府令第六十四號打刺港内船舶出入及運航規程(明治四十三年九月三日)抄錄  
第十四條 港内ニ於テ有害ナル難破物 難破物其ノ他ノ物件アルトキハ臺灣總督府土木部長ハ其ノ船長若ハ其ノ所有者ノシテ一定ノ期間内ニ之ヲ除去セシムルコトヲ得  
前項ノ義務者不明ナルトキハ指定期間内ニ見込ナシトキハ臺灣總督府土木部長ハ自ラ之ヲ除去シ若ハ毀壞シ又ハ第三者ヲシテ除去若ハ破壊セシメ共ノ費用ヲ義務者ヨリ徴收スルコトヲ得  
其ノ義務者不明ナルトキハ臺灣總督府土木部長ハ之ヲ除去若ハ破壊スルコトヲ得  
第十五條 船舶カ浮標 立標等官有營造物ヲ毀損又ハ滅失シタルトキハ其ノ船長又ハ再設ノ爲ニ必要ナル費用ハ其ノ船長又ハ其ノ船舶操縦者ニ於テ之ヲ徴收スヘシ

○臺灣總督府令第六十七號(官報 九月二十一日)  
臺灣總督府貸付金取扱規程左ノ通相定ム

明治四十四年九月九日

臺灣總督 伯爵佐久間左馬太

臺灣總督府貸付金取扱規程

第一條 本令ニ於テ貸付金ト稱スルハ明治四十四年勅令第二百二十一號第一條ノ規定ニ依ル定期貸及据置貸ニシテ臺灣總督府特別會計ニ屬スルモノヲ謂フ

第二條 貸付金ハ本令ノ定ムル所ニ依リ債務者ノ住所地方官廳ニ於テ之ヲ管理スヘシ

第三條 貸付金ノ債務者カ他管内ニ住所ヲ移シタル場合ニ於テ其ノ住所カ内地、朝鮮、關東州又ハ樺太ナルトキハ關係書類ヲ添ヘ貸付金管理ノ引繼方ヲ臺灣總督ニ稟申シ其ノ住所カ本島内ナルトキハ其ノ所轄廳ニ關係書類ト共ニ貸付金管理ノ引繼ヲ爲スヘシ

第四條 前各條ニ規定スルモノノ外必要ナル事項ハ明治四十四年四月大藏省令第十七號貸付金取扱規程ヲ準用ス

第五條 前條ニ依リ貸付金取扱規程ヲ準用スル場合ニ於テ同規程中大藏大臣及大藏省ニ關スル規定ハ臺灣總督及臺灣總督府ニ之ヲ準用シ書類ノ保管ニ關シ各省大臣又ハ北海道廳長官府縣知事ニ屬スル職務ハ臺灣總督又ハ地方廳長之ヲ行ヒ其ノ部局長ニ屬スル職務ハ地方廳財務課長之ヲ行フ

附則

本令ハ發布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

○臺灣總督府令第六十八號(官報 九月二十一日)

明治四十四年十月府令第八十六號外國旅券規則中左ノ通改正ス

明治四十四年九月十日

臺灣總督 伯爵佐久間左馬太

第十條ニ左ノ一項ヲ加フ  
本島人ニシテ清國へ旅行スル者ハ到着後直ニ所轄帝國領事館ニ出頭シ旅券裏面へ檢印ヲ受クヘシ

附則

本令ハ發布ノ日ヨリ之ヲ施行ス



○關東都督府令第二十一號(官報九月二十二日)

關東憲兵隊配置及憲兵分隊管區表別表ノ通改正ス

明治四十四年九月七日

關東都督 子爵大島義昌

附則

本令ハ明治四十四年九月十日ヨリ之ヲ施行ス

(別表)

關東憲兵隊配置及憲兵分隊管區表

東	關		憲兵分隊	同上位置	憲兵分隊管區	憲兵分隊分遣所
	新	舊				
旅順	旅順	旅順	旅順	旅順	關東州内及家河子ヨリ董泥川下屯(以上村落ヲ含ム)ニ至ル線以南	旅順
大連	大連	大連	大連	大連	關東州ニ旅順分隊管内ヲ除ク)及萬家嶺以南(萬家嶺ヲ含ム)	柳樹屯
遼陽	遼陽	遼陽	遼陽	遼陽	萬家嶺以北煙台間(煙台ヲ含ム)及營口、大石橋間	大石橋
奉天	奉天	奉天	奉天	奉天	煙台以北新營子間(新營子ヲ含ム)及奉天、橋頭間(橋頭ヲ含ム)並ニ天津、塘沽間	牛家屯
鐵嶺	鐵嶺	鐵嶺	鐵嶺	鐵嶺	新營子以北鐵四平街間(鐵四平街ヲ含ム)	本溪湖
長春	長春	長春	長春	長春	鐵四平街以北長春間	鐵四平街
安東	安東	安東	安東	安東	橋頭以南安東縣	公主嶺

備考 一 本表ノ外管分ノ内橋頭及家河口ニ派出所ヲ設ケ  
二 時宜ニ依リ鐵嶺原ニ分遣所ヲ設ケ

○關東都督府令第二十二號(官報九月二十二日)

南滿醫學堂入學者檢定規程左ノ通定ム

明治四十四年九月八日

關東都督 子爵大島義昌

南滿醫學堂入學者檢定規程

明治三十六年三月文部省令第十四號專門學校入學者檢定規程ハ南滿醫學堂入學者ニ之ヲ準用ス

附則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

○關東都督府令第二十三號(官報九月二十二日)

南滿醫學堂教員資格ニ關スル規程左ノ通定ム

明治四十四年九月八日

關東都督 子爵大島義昌

南滿醫學堂教員資格ニ關スル規程

南滿醫學堂ノ教員タルコトヲ得ヘキ者左ノ如シ

- 一 學位ヲ有スル者
- 二 帝國大學分科大學卒業者又ハ官立學校ノ卒業者ニシテ學士ト稱スルコトヲ得ル者
- 三 關東都督ノ認可シタル者

附則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

○關東都督府令第二十四號(官報九月二十七日)

明治三十九年七月關東州民政署令第二十三號ハ明治四十四年九月十九日限り之ヲ廢止ス

明治四十四年九月十八日

關東都督 子爵大島義昌

[參照]

明治三十九年七月關東州民政署令第二十三號ハ荷馬車取締規則ナリ



○關東都督府令第二十五號 (官報 九月二十七日)  
明治四十三年 府令第五號滿洲內郵便規則中左ノ道改正ス

明治四十四年九月十八日  
第十三條中現金取立ヲ集金郵便ニ改ム

附則

本令ハ明治四十四年十月一日ヨリ之ヲ施行ス

關東都督 子爵大島義昌

〔参照〕

關東都督府令第五號滿洲內郵便規則(明治四十三年四月十一日)抄錄  
第十三條 電信ニ依ル郵便物ノ取戻若ハ名宛變更代金引換ノ取消若ハ金額變更又ハ現金取立ノ取消請求ニ關スル料金は左ノ如シ  
一 郵便物ノ取戻又ハ代金引換若ハ現金取立ノ取消 金四十錢

○朝鮮總督府令第四百四號 (官報 十月二日)  
警備電話規則左ノ通定ム

明治四十四年九月二十六日

警備電話規則

朝鮮總督 伯爵寺內正毅

第一條 本令ニ於テ警備電話ト稱スルハ警備事務ニ關シ朝鮮總督府通信局長官ニ於テ特ニ指定シタル通信局所管ノ電話線ニ依リ特定ノ警察官署其ノ他ノ官署巡查駐在所憲兵隊憲兵分遣所憲兵派遣所及警備ニ任スル陸軍部隊相互間ニ於テ爲ス電話通話ヲ謂フ  
第二條 警備電話ノ通話者ハ電話規則ニ依ル電話通話ノ請求者ニ先チ其ノ通話ヲ爲スコトヲ得  
第三條 警備電話ノ通話者ハ電話使用料及其ノ納付方法ハ通信局長官之ヲ定ム  
第四條 警備電話ノ通話者ハ其ノ裝置ノ電話機ニ依リ電話規則ニ依ル電話通話ヲ爲シ又ハ其ノ電話ノ連接スル電信官署ト電報規則ニ依ル電線託送電報ノ發受ヲ爲スコトヲ得此ノ場合ニ於テハ該通話者ヲ電話加入者ト看做ス  
前項ノ電線託送電報ニ關シテハ電線託送料ヲ免除シ前項ノ電話通話ニシテ警備電話通話者相互間ノモノナルトキハ通信局長官ハ其ノ電話料ヲ減免スルコトヲ得

附則

本令ハ明治四十四年十月一日ヨリ之ヲ施行ス

○朝鮮總督府令第四百五號 (官報 十月三日)

忠清南道燕岐郡ノ位置ヲ北一面砧山里(烏致院)ニ變更ス

附則

本令ハ發布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

明治四十四年九月二十七日

朝鮮總督 伯爵寺內正毅



○朝鮮總督府令第六號 (官報十月三日)  
面長懲戒規程左ノ通定ム

朝鮮總督 伯爵寺內正毅

明治四十四年九月二十八日

面長懲戒規程  
第一條 面長職務上ノ義務ニ違背シタルトキ又ハ威信ヲ失フヘキ行爲アリタルトキハ之ヲ懲戒ス

第二條 懲戒ハ左ノ如シ

一 免職

二 罷責

第三條 免職ノ處分ヲ受ケタル者ハ其ノ職ヲ失ヒタル日ヨリ二年間官職ニ就クコトヲ得ス

第四條 免職ハ懲戒委員會ノ決議ニ依リ道長官之ヲ行フ

第五條 懲戒委員會ハ委員長一人委員二人乃至四人ヲ以テ之ヲ組織ス

第六條 委員長ハ道長官ヲ以テ之ニ充ツ委員ハ道職員中ヨリ道長官之ヲ命シ朝鮮總督ニ報告スヘシ

第七條 懲戒委員會ハ委員長及委員二人以上出席スルニ非サレハ之ヲ開クコトヲ得ス

第八條 懲戒委員會ノ議事ハ多數決トシ可否同數ナルトキハ委員長之ヲ決ス

第九條 委員長又ハ委員ハ自己ノ親族ニ關スル事件ノ會議ニ參與スルコトヲ得ス

第十條 書記ハ委員長ノ命ヲ承ケ庶務ニ從事ス

第九條 道長官ハ面長ニシテ懲戒ニ當ルヘキ行爲アリト認メタルトキハ證據ヲ具ヘ書面ヲ以テ懲

戒委員會ノ審査ヲ要求スヘシ

前項ノ要求アリタルトキハ委員長ハ懲戒委員會ヲ開キ其ノ決議ノ理由ヲ具シ道長官ニ報告スヘシ

懲戒委員會ハ必要ト認ムルトキハ本人ヲ召喚シ辯明ヲ爲サシムルコトヲ得

第十條 懲戒ハ辭令書ヲ作リ之ヲ本人ニ達スヘシ

附則

本令ハ發布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

本令ハ本令施行前ノ行爲ニ亦之ヲ適用ス

○朝鮮總督府令第七號 (官報十月四日)

明治四十四年朝鮮總督府令第八十五號別表中「碧瀾渡稅關監視署 京畿道開城郡碧瀾渡」ヲ「昌陵稅

關監視署 京畿道開城郡昌陵」ニ改ム

附則

本令ハ明治四十四年十月一日ヨリ之ヲ施行ス

明治四十四年九月二十九日

朝鮮總督 伯爵寺內正毅

〔參照〕

明治四十四年七月八日官報朝鮮總督府令第八十五號ハ稅關監視署名稱位置及管轄區域ナリ

○朝鮮總督府令第八號 (官報十月十八日)

隆熙三年內部分第十四號第二項中「百分ノ十」ヲ「百分ノ三五」ニ改ム

附則

本令ハ明治四十五年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

明治四十四年十月十二日

朝鮮總督 伯爵寺內正毅



○朝鮮總督府令第九號(宣稱十月二十八日)

朝鮮教育令ハ明治四十四年十一月一日ヨリ之ヲ施行ス

明治四十四年十月二十日

○朝鮮總督府令第十號(宣稱十月二十八日)

普通學校規則左ノ通定ム

朝鮮總督 伯爵寺内正毅

朝鮮總督 伯爵寺内正毅

普通學校規則 明治四十四年十月二十日

第一章 設置及廢止

第一條 普通學校設置ノ認可ヲ受ケムトスルトキハ左記各號ノ事項ヲ具シ朝鮮總督ニ申請スヘシ

一 名稱位置

二 修業年限、教科目

三 兒童ノ定數

四 開校年月日

五 校地校舍ノ平面圖(坪數及附近ノ狀況ヲ記載ス)並其ノ所有者

六 一年ノ收支豫算

七 維持方法

第二條 普通學校ニ於テ前條第二號又ハ第七號ノ事項ヲ變更セムトスルトキハ朝鮮總督ノ認可ヲ受ケ第一號、第三號乃至第五號ノ事項ヲ變更シタルトキハ朝鮮總督ニ届出ツヘシ

第三條 普通學校廢止ノ認可ヲ受ケムトスルトキハ其ノ事由、兒童ノ處分方法及廢止期日ヲ具シ朝鮮總督ニ申請スヘシ

第四條 普通學校ノ一學級兒童數ハ約六十八トス

第五條 本令ニ依リ設置スル學校ノ名稱ニハ普通學校ノ文字ヲ用ウヘシ

本令ニ依リ設置スル學校ニ非サレハ普通學校ト稱スルコトヲ得ス

第二章 教科目、教則及課程

第六條 普通學校ノ教科目ハ修身、國語、朝鮮語及漢文、算術、理科、唱歌、體操、圖畫、手工、裁縫及手藝、農業初步、商業初步トス但シ理科、唱歌、體操、圖畫、手工、裁縫及手藝、農業初步、商業初步ハ土地ノ狀況ニ依リ當分ニ之ヲ缺クコトヲ得

第七條 普通學校ニ於テハ教授上左ノ事項ニ注意スヘシ

一 兒童ノ徳性ヲ涵養シ忠貞ニシテ勤勉ナル國民ヲ養成スルハ普通學校ノ主要ナル目的ナレハ何レノ教科目ニ付テモ常ニ此ニ留意シテ教授セムコトヲ要ス

二 常ニ秩序ヲ重ムシ規律ヲ守ルノ氣風ヲ養成スルハ教育上重要ナルコトナレハ何レノ教科目ニ付テモ常ニ此ニ留意シテ教授セムコトヲ要ス

三 國語ハ國民精神ノ宿ル所ニシテ且知識技能ヲ得ルニ缺クヘカフサルモノナレハ何レノ教科目ニ付テモ國語ノ使用ヲ正確ニシ共ノ應用ヲ自在ナラシムコトヲ期スヘシ

四 知識技能ハ常ニ生活ニ必須ナル事項ヲ選ヒテ之ヲ授ケ反覆練習シテ應用自在ナラシムコトヲ期スヘシ

五 何レノ教科目ニ付テモ其ノ教授ハ兒童ノ心身發育ノ程度ニ副ハシメムコトヲ要ス

六 教授ハ其ノ目的及方法ヲ誤ラズ互ニ相聯絡シテ補益セシムコトヲ要ス

七 男女ノ別ハ勿論個人ノ特性ニ注意シテ各適當ノ教育ヲ施サムコトヲ務ムヘシ

第八條 修身ハ教育ニ關スル勸諭ノ旨趣ニ基キ道徳上ノ思想及情操ヲ養成シ舊來ノ其風美俗ヲ失ハサフムコトニ注意シ實踐期行ヲ勸奨スルコトヲ要旨トス



修身ハ近易適切ナル事項ヨリ始メテ人倫道德ノ要旨ヲ授ケ漸ク進ミテハ國家及社會ニ對スル義務ヲ知ラシメ國法ニ遵ヒ公德ヲ尚ヒ公益ニ力ヲ盡スノ氣風ヲ助成シ兼テ普通ノ禮儀作法ノ一斑ヲ授クヘシ

第九條 女兒ノ爲ニハ特ニ貞淑ノ徳ヲ養ハムコトヲ務ムヘシ

國語ハ普通ノ言語文章ヲ教ヘ正確ニ他人ノ言語ヲ了解シ自由ニ思想ヲ發表スルノ能ヲ得シメ生活上必須ナル知識ヲ授ケ兼テ徳性ノ涵養ニ資スルコトヲ要旨トス

國語ハ假名ヨリ始メテ普通ノ口語ヲ授ケ漸ク進ミテハ平易ナル文語ニ及ホシ其ノ材料ハ修身歴史地理理科實業其ノ他生活上必須ナル事項ニ採リ女兒ノ爲ニハ特ニ家事上ノ事項ヲ交フヘシ

國語ヲ授クルニハ讀方解釋會話暗誦書取作文及習字ヲ併セ課スヘシ但レ作文習字ハ特ニ教授時間ヲ區別シテ課スルコトヲ得

讀方ハ發音ニ注意シ抑揚緩急其ノ宜キヲ得ムコトヲ要ス

解釋ハ平易ナル口語ヲ用井テ語義文意ヲ明カナラシムヘシ

會話ハ讀本中ノ文章又ハ事項ニ因ミテ之ヲ授ケ進ミテハ日常ノ事項ニ付對話ヲ爲サシムヘシ

暗誦ハ讀本中ノ佳句格言韻文等ヲ適宜ニ選擇シテ之ヲ課スヘシ

書取ハ讀本中ノ文字文章其ノ他兒童ノ了解シ得ヘキ文字文章ヲ選ヒテ之ヲ課スヘク時トシテハ暗寫セシムルコトアルヘシ

作文ハ一般ニ口語體トシ先ツ單句ヨリ始メテ漸次長篇ニ及ホレ書翰文ヲ併セ課スヘシ

習字ハ實用ヲ旨トシ假名及漢字ヲ練習セシムヘシ漢字ノ書體ハ楷書行書ノ二體トス

第十條 朝鮮語及漢文ハ普通ノ言語文章ヲ理會シ日常ノ應對ヲ爲シ用務ヲ辨スルノ能ヲ得シメ兼テ徳性ノ涵養ニ資スルコトヲ要旨トス

朝鮮語及漢文ハ諺文ヨリ始メテ漢字交リ文及平易ナル漢文ヲ授ケ其ノ材料ハ國語ニ準レテ選擇シ特ニ漢文ハ徳性ノ涵養ニ資スルモノヲ採ルヘシ

朝鮮語及漢文ヲ授クルニハ讀方解釋暗誦書取作文ヲ併セ課スヘシ

朝鮮語及漢文ヲ授クルニハ常ニ國語ト聯絡ヲ保チ時トシテハ國語ニテ解釋セシムルコトアルヘシ

第十一條 算術ハ日常ノ計算ニ習熟セシメ生活上必須ナル知識ヲ與ヘ兼テ思考ヲ精確ナラシムルコトヲ要旨トス

算術ハ數ヘ方及書キ方整數小數諸等數分數比例歩合算及求積ヲ授クヘシ

算術ハ筆算及暗算ヲ課シ進ミテハ珠算ヲ併セ課シ其ノ運用ニ習熟セシムヘシ

算術ヲ授クルニハ算法ヲ説明シ運算ニ習熟シテ正確敏捷ナラシムルコトヲ要シ數字運算及算式ノ書キ方ニ注意シ確實鮮明ナラシムルコトヲ務ムヘシ

算術ノ問題ハ他ノ教科目ニ於テ授クル事項ト聯絡シテ補益セシメ土地ノ狀況兒童ノ境遇ニ應シ實際ニ適切ナルモノヲ選フヘシ

第十二條 理科ハ自然界ニ於ケル通常ノ事物現象其ノ相互ノ關係及人生ニ對スル關係ノ大要ヲ理會セシメ之ヲ生活ノ實際ニ應用スルコトヲ知ラシムルヲ要旨トス

理科ハ植物動物礦物及自然ノ現象中成ルヘク兒童ノ目擊シ得ル事項ニシテ實業ニ資シ實際生活ニ須要ナルモノヲ選ヒテ教授シ人ノ生理及衛生ノ大要ヲ授クヘシ

女兒ノ爲ニハ家事ニ關スル事項ヲ併セ授クヘシ

理科ヲ授クルニハ成ルヘク實地ノ觀察ニ基キ又ハ標本模型圖畫等ヲ示シ簡易ナル實驗ヲ施シ明瞭ニ理會セシムコトヲ要ス

第十三條 唱歌ハ平易ナル歌曲ヲ唱フルコトヲ得シメ心情ヲ醇正ニシ徳性ノ涵養ニ資スルコトヲ



要旨トス

唱歌ハ平易ナル單音唱歌ヲ授ケ共ノ歌詞及樂譜ハ平易雅正ニシテ兒童ノ心情ヲ高尚純美ナラシムルモノヲ選フヘシ

唱歌ヲ授クルニハ難解ノ歌詞ニハ説明ヲ加ヘ共ノ大意ヲ了解セシムルコトヲ要ス

第十四條 體操ハ身體ノ各部ヲ均齊ニ發育セシメ姿勢ヲ端正ニシ精神ヲ快活ナラシメ兼テ規律ヲ守リ節制ヲ尙フノ習慣ヲ養フコトヲ要旨トス

體操ハ遊戯普通體操ヲ受クヘシ

體操ハ教授時間ノ一部若ハ教授時間外ニ於テ適宜戶外遊戯ヲ爲サシメ又ハ水泳米浴ヲ課スルコトアルヘシ

第十五條 圖畫ハ通常ノ形體ヲ看取シ正レク之ヲ畫クノ技能ヲ得シメ兼テ美感ヲ養フコトヲ要旨トス

圖畫ハ成ルヘク兒童ノ日常目撃スル物體及他ノ教科目ニ於テ授ケタル物體ニ付自在畫シ授ケルシ又簡易ナル幾何畫ヲ授クルコトアルヘシ

圖畫ヲ授クルニハ臨畫寫生畫考案畫等ヲ適宜ニ交ヘ課スヘシ

第十六條 手工ハ簡單ナル物品ヲ製作スルノ技能ヲ得シメ兼テ工作ノ趣味ヲ養フコトヲ要旨トス

手工ハ紙、粘土、木竹等其ノ土地ニ適切ナル材料ヲ用井テ簡易ナル細工ヲ授クヘシ

第十七條 裁縫及手藝ハ女子ニ須要ナル普通ノ技能ヲ授ケ兼テ節約利用ノ習慣ヲ養フコトヲ要旨トス

裁縫ハ運針法ヨリ始メテ普通衣類ノ縫ヒ方裁チ方繕ヒ方等ヲ授ケ便宜衣類ノ洗ヒ方等ヲ授クヘシ但シ其ノ材料ハ成ルヘク質素ニシテ日常所用ノモノヲ擇フヘシ

手藝ハ編物組絲囊物造花染織等ニ付一藝又ハ數種ヲ授クヘシ

第十八條 農業初歩ハ農業ニ關スル近易ナル知識技能ヲ授ケ農業ノ趣味ヲ興ヘ勸勞ヲ尙フノ習慣ヲ養フコトヲ要旨トス

土地ノ狀況ニ依リ農業ニ代ヘ水産業ニ關スル近易ナル知識技能ヲ授ケ又ハ農業ニ併セ授クルコトアルヘシ

農業初歩ハ耕耘、栽培、養蠶、植樹等ニ付其ノ土地ニ適切ニシテ兒童ノ理解シ易キ事項ヲ授クヘシ

農業初歩ヲ授クルニハ特ニ理科等ノ教授事項ト聯絡シテ補益セシムルヘク實習ヲ課スヘシ

第十九條 商業初歩ハ商業ニ關スル近易ナル知識ヲ授ケ勸勉ニシテ且信用ヲ重ムスルノ習慣ヲ養フコトヲ要旨トス

商業初歩ハ記帳、計算、取引等ニ關シ兒童ノ理解シ易キモノヲ選ヒテ之ヲ授クヘシ

商業初歩ヲ授クルニハ國語、算術、理科等ト聯絡シテ補益セシムヘシ

第二十條 各教科目ノ課程及每週教授時數ハ別表ニ依ル但シ圖畫、手工、裁縫及手藝、農業初歩、商業初歩ノ每週教授時數ハ道長官ノ認可ヲ受ケ學校長之ヲ定ムヘシ

國語、朝鮮語及漢文ノ每週教授時數ハ學校長ニ於テ道長官ノ認可ヲ受ケ二時間以内之ヲ増減スルコトヲ得

修業年限一年ヲ短縮シタルトキハ理科ノ每週教授時數一時間ヲ増シ人身生理及衛生ノ大要ヲモ授クヘシ

學校長ハ夏季及冬季ニ於テ通シテ五十日以内每週教授時數ヲ十八時間迄ニ減スルコトヲ得

第二十一條 土地ノ狀況ニ依リ學校長ハ教授時間外ニ於テ實習、復習、遊戯等ヲ爲サシムルコトヲ得

得

第三章 教科用圖書

第二十二條 普通學校ノ教科用圖書ハ朝鮮總督府ノ編纂シタルモノヲ用ウヘシ但シ朝鮮總督府ノ

編纂シタルモノヲ用フコトヲ得

得

得

得